

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

三 公權ヲ停止セラレタルトキ
 第六條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退職料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス
 第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スル者ニ限り退職現時ノ給料四分ノ一ノ退職料ヲ終身給與ス
 第八條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ニハ退職現時ノ給料半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但休職滿期ニ依リ退職シタル者ハ其本職最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス
 市町村立小學校正教員ニシテ教育事務ニ従事スル文官又ハ他ノ待遇文官ニ轉任シタル者又ハ退職シタルトキハ小學校教員ノ在職年數ニ應シ前項ノ給與金ヲ給ス
 第九條 若クハ第三條ニ依リ退職料ヲ受クル者、他ノ法律ニ依リ退職料若ハ恩給ヲ受クル者、自己ノ便宜ニ依リ退職官シタル者又ハ免職ニ處セラレ、懲戒處分若ハ刑事裁判ニ依リ免官セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ前二項ノ限ニ在ラス
 本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者市町村立小學校正教員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ再任ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第十條 退職料ノ支給及第八條ノ給與ハ府縣知事之ヲ裁定ス
 官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退職料ニ適用ス
 第十條 市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス
 一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ
 二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退職料ヲ受クル者死去シタルトキ
 第十一條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス
 官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受ケヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス
 第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラズシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス
 前項ノ扶助金ハ退職給與金ノ額ト同額トス
 第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス
 第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス
 市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス
 本條第二項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ
 恩給基金ハ其利子ヲ以テ退職料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス
 本條第二項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額二分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス
 退職料扶助料扶助金第八條、第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス
 恩給基金ノ管理並退職料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

恩給基金ノ管理並退職料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス
 第十五條 此法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年度ヨリ之ヲ施行ス
 第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 (別表)

市町村立小學校教員退職料表

在職年數	給料	
	七十圓以上	六十圓以上五十圓以下
十五年	二二五	一九五
十六年	二三三	二〇二
十七年	二四〇	二〇八
十八年	二四八	二一五
十九年	二五五	二二一
二十年	二六三	二二八
二十一年	二七〇	二三四
二十二年	二七八	二四一
二十三年	二八五	二四七
三十四年	二九二	二五三
三十五年	二九九	二六〇
三十六年	三〇六	二六六
三十七年	三一三	二七二
三十八年	三二〇	二七八
三十九年	三二七	二八四
四十年	三三三	二九〇
四十一年	三四〇	二九六
四十二年	三四六	三〇二
四十三年	三五三	三〇八
四十四年	三五九	三一四
四十五年	三六六	三二〇
四十六年	三七二	三二六
四十七年	三七八	三三二
四十八年	三八四	三三八
四十九年	三九〇	三九四
五十年	三九六	四〇〇
五十一年	四〇二	四〇六
五十二年	四〇八	四一二
五十三年	四一四	四一八
五十四年	四二〇	四二四
五十五年	四二六	四三〇
五十六年	四三二	四三六
五十七年	四三八	四四二
五十八年	四四四	四四八
五十九年	四五〇	四五四
六十年	四五六	四六〇
六十年以上	四六二	四六六
七十圓以上	四六八	四七二
六十圓以上五十圓以下	四七四	四七八
五十圓以上四十圓以下	四八〇	四八四
四十圓以上三十圓以下	四八六	四九〇
三十圓以上二十圓以下	四九二	四九六
二十圓以上十五圓以下	四九八	五〇二
十五圓以上十圓以下	五〇四	五〇八
十圓以上五圓以下	五一〇	五一四
五圓以上	五一六	五二〇
未滿	五二二	五二六
未滿	五二八	五三二
未滿	五三三	五三七
未滿	五三九	五四三
未滿	五四五	五四九
未滿	五五〇	五五五
未滿	五五五	五六〇
未滿	五六〇	五六五
未滿	五六五	五七〇
未滿	五六〇	五六五
未滿	五五五	五六〇
未滿	五五〇	五五五
未滿	五四五	五五〇
未滿	五四〇	五四五
未滿	五三三	五三三
未滿	五二七	五二七
未滿	五二一	五二一
未滿	五一五	五一五
未滿	五〇九	五〇九
未滿	五〇三	五〇三
未滿	四九七	四九七
未滿	四九一	四九一
未滿	四八五	四八五
未滿	四七九	四七九
未滿	四七三	四七三
未滿	四六七	四六七
未滿	四六一	四六一
未滿	四〇五	四〇五
未滿	三九九	三九九
未滿	三九三	三九三
未滿	三八七	三八七
未滿	三八一	三八一
未滿	三七五	三七五
未滿	三七〇	三七〇
未滿	三六四	三六四
未滿	三五八	三五八
未滿	三五二	三五二
未滿	三四六	三四六
未滿	三四〇	三四〇
未滿	三三三	三三三
未滿	三二七	三二七
未滿	三二一	三二一
未滿	三一五	三一五
未滿	三〇九	三〇九
未滿	三〇三	三〇三
未滿	二九七	二九七
未滿	二九一	二九一
未滿	二八五	二八五
未滿	二七九	二七九
未滿	二七三	二七三
未滿	二六七	二六七
未滿	二六二	二六二
未滿	二五六	二五六
未滿	二五〇	二五〇
未滿	二四四	二四四
未滿	二三八	二三八
未滿	二三二	二三二
未滿	二二六	二二六
未滿	二二〇	二二〇
未滿	二一四	二一四
未滿	二〇八	二〇八
未滿	二〇二	二〇二
未滿	一九六	一九六
未滿	一九〇	一九〇
未滿	一八四	一八四
未滿	一七八	一七八
未滿	一七二	一七二
未滿	一六六	一六六
未滿	一六〇	一六〇
未滿	一五四	一五四
未滿	一四八	一四八
未滿	一四二	一四二
未滿	一三六	一三六
未滿	一三〇	一三〇
未滿	一二四	一二四
未滿	一二八	一二八
未滿	一二二	一二二
未滿	一一六	一一六
未滿	一一〇	一一〇
未滿	一〇四	一〇四
未滿	九八	九八
未滿	九二	九二
未滿	八六	八六
未滿	八〇	八〇
未滿	七四	七四
未滿	七八	七八
未滿	七二	七二
未滿	六六	六六
未滿	六〇	六〇
未滿	五四	五四
未滿	四八	四八

附則

此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
 ○明治四十年法律第四十七號附則
 本法施行前退職料ヲ受ケタル者ニシテ本法施行後再市町村立小學校教員ト爲リ在職三年以上ニ至ラスシテ退職シタル者ニハ仍舊前ノ規定ヲ適用ス

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

二十四年	三〇八	二六七	二四六	二二六	二〇五	一八五	一六四	一四九	一三一	一一五	九九	八二	六六
二十五年	三一九	二七七	二五五	二三四	二一三	一九二	一七〇	一五六	一三六	一一九	一〇二	八五	六八
二十六年	三三四	二九〇	二六七	二四五	二三三	二〇一	一七八	一六三	一四二	一二四	一〇七	八九	七二
二十七年	三四九	三〇三	二七九	二五六	二三三	二一〇	一八六	一七〇	一四八	一二九	一一二	九三	七五
二十八年	三六四	三一六	二九一	二六七	二四三	二一九	一九四	一七七	一五四	一三四	一一七	九七	七八
二十九年	三七九	三二九	三〇三	二七八	二五三	二二八	二〇二	一八四	一六〇	一四〇	一二二	一〇一	八一
三十年	三九四	三四二	三一五	二八九	二六三	二三七	二一〇	一九三	一六六	一四五	一二六	一〇五	八四
三十一年	四一三	三五八	三三〇	三〇三	二七五	二四五	二二〇	二〇二	一七四	一五二	一三二	一一〇	八八
三十二年	四三二	三七四	三四五	三一七	二八八	二五九	二三〇	二一一	一八二	一五八	一三八	一一五	九二
三十三年	四五〇	三九〇	三六〇	三三〇	三〇〇	二七〇	二四〇	二二〇	一九〇	一六六	一四四	一二〇	九六
三十四年	四六九	四〇七	三七五	三四四	三一三	二八二	二五〇	二二八	一九八	一七三	一五〇	一二五	一〇〇
三十五年	四八八	四二三	三九〇	三五八	三二五	二九三	二六〇	二三七	二〇六	一八〇	一五六	一三〇	一〇四
三十六年	五一〇	四四二	四〇八	三七四	三四〇	三〇六	二七二	二四八	二一五	一八八	一六四	一三六	一〇九
三十七年	五三三	四六二	四二六	三九一	三五五	三二〇	二八四	二五九	二二四	一九六	一七一	一四二	一一四
三十八年	五五五	四八一	四四四	四〇七	三七〇	三三三	二九六	二七〇	二四〇	二〇四	一七八	一四八	一一九
三十九年	五七八	五〇一	四六二	四二四	三八五	三四七	三〇八	二八一	二四二	二一二	一八五	一五四	一二四
四十年	六〇〇	五二〇	四八〇	四四〇	四〇〇	三六〇	三二〇	二九二	二五一	二二〇	一九二	一六〇	一二八

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則

文部省令第二號(明治二十五年二月十日)

(沿革)明治三十二年五月文部省令第二八號、三十五年五月同第一二號、三十七年一月二月同第一二號、四〇年五月同第一四號、四一年四月同第一七號改正

明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條ニ基キ市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則

第一章 退職料ノ請求

第一條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第二條第三條第四條第七條ニ依リ退職料ヲ受ケヘキ者ハ退職料請求書ヲ作り退職ノ際勤務セシ小學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ

第二條 退職料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在職中ノ履歴書

二 戸籍吏ノ作りタル戸籍謄本但市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第七條ニ掲ケタル者ハ之ヲ要セス

第三條 職務ニ依リ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ退職料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケタル書類ノ外尙左ノ書類ヲ添付スヘシ官吏恩給法第六條ヲ適用スヘキ者亦同シ

一 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書

二 醫師ノ診斷書

第四條 退職料請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ退職料請求書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ但退職料増加ノ爲

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

更ニ退職料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシムヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ前條ノ請求其理由ナシト認ムルトキハ理由ヲ示シ之ヲ本人ニ通告スヘシ

第六條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第八條ニ依リ給與金ヲ受ケヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歴書ヲ添へ最終勤務セシ小學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第二章 扶助料ノ請求

第七條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十條第十一條第一項第十二條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受ケヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り退職料ヲ受ケシタル者ノ遺族ニ在リテハ死者ノ最終勤務セシ小學校所屬府縣知事ニ退職料ヲ受ケ死シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ者ニ在テハ居住地ノ府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ハ其所屬市町村立小學校正教員遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受ケヘキ者アルトキハ死者ノ履歴書ヲ調製シ之ヲ遺族ニ交付スヘシ

第八條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戸籍吏ノ作りタル戸籍謄本及左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十條第一第二第十二條ニ當ル者ノ請求書ニハ府縣知事ヨリ交付セラレタル死者ノ履歴書

二 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退職料證書

三 官吏遺族扶助法第四條第二項ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ傷病若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據書類醫師ヲシテ診察セシメタルトキハ其診斷書及退職料ヲ受ケシタル死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類退職料ヲ受ケ死シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第二ノ書

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

類

- 四 扶助料ヲ受クル者死去シ又ハ權利消滅シタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ扶助料證書
- 五 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ確定裁判ノ宣告書寫
- 六 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ其事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診斷書及退職料ヲ受ケテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第一ノ書類退職料ヲ受ケテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第二ノ書類公務ニ起因スル傷疾若クハ疾病ニ依リ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類
- 第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ扶助料ニ在リテハ扶助料證書、扶助金ニ在リテハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ
- 前項ノ扶助料又ハ扶助金他ノ地方廳ニ於テ支給スヘキモノナルトキハ其請求書ヲ當該府縣知事ニ送付スヘシ
- 第十條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十一條第二項ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ扶助金ノ例ニ依ルヘシ但傷疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ノ請求書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第三章 退職料扶助料ノ支給及停止
- 第十一條 退職料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死去ノ月ヲ以テ終ルモノトス
- 退職料及扶助料ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ支給スヘシ但權利消滅ノトキ及給與金扶助金ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給スヘシ
- 第十二條 退職料又ハ扶助料ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ退

- 第十三條 退職料又ハ扶助料證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル
- 二 公務ニ就キ受クル給料ト退職料トヲ合シタル金額退職時ノ給料額ヲ超過スルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ其差額ノ支給ヲ停メ其給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
- 三 五箇年以上受領ヲ怠リタルトキハ受領ヲ怠リタル支給期月ノ翌月ヨリ起算シ其怠リタル期ノ支給ヲ廢ス
- 四 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
- 第十四條 扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
- 一 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ終ル
- 二 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス
- 三 公權停止中轉給ヲ受クヘキ者ノ支給ハ本人停止ノ翌日ヲ以テ始メ復給ノ前日ヲ以テ終ル
- 第十五條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第三條ニ掲ケタル増加退職料ノ等差ハ左ノ如シ
- 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 第二項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六

第二項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷疾疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷疾疾病等差例ニ依ル

第十六條 退職料又ハ扶助料ヲ受クル者他ノ市町村ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ轉籍若クハ寄留シタル地ノ市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ヲ經テ府縣知事ニ届出ヘシ

他ノ府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ轉籍若クハ寄留シタル地ノ市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ヲ經テ府縣知事ニ届出ヘシ

退職料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ハ每期支給スヘキ退職料又ハ扶助料ヲ轉籍若クハ寄留シタル地ノ府縣知事ニ送付シ其支給方ヲ委託スルコトヲ得

第十七條 退職料又ハ扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキハ本籍市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ヨリ退職料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ報告スヘシ

第十八條 退職料ヲ受クル者有給ノ公務ニ就キタルトキハ當該官公署ノ證明ヲ得テ退職料ヲ支給スヘキ府縣知事ニ届出ヘシ給料額ニ増減ヲ生シタルトキ其ノ職ヲ罷メタルトキ亦同シ其ノ届書ニハ職名、給料額及給料ノ支給ヲ受クル最初ノ日罷職ノトキハ支給ヲ受クル最終ノ日ヲ附記スヘシ

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

減ヲ生シタル場合ニ在リテハ増減ヲ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ發出スヘシ

第十九條 第十七條ノ場合ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ者又ハ其轉給ヲ受クヘキ者ナキトキ又ハ退職料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒ若クハ扶助料ノ支給ヲ廢スヘキ者ニ係ルトキハ本籍市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ハ退職料證書又ハ扶助料證書ヲ收メテ退職料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ送付スヘシ

本人他ノ市町村ニ居住セル場合ニ於テハ該市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ニ委託シテ之ヲ收ムルコトヲ得

第二十條 府縣知事ハ第四條又ハ第九條ニ依リ退職料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ニ交付スルト同時ニ之ヲ其本籍市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ニ通知スヘシ

第二十一條 水火災盜難等ニ依リ退職料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ヲ經テ退職料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ退職料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ヲ作り之ヲ交付スヘシ

第二十二條 退職料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ退職料證書又ハ扶助料證書ヲ添へ居住地ノ市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ヲ經テ退職料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ府縣知事ハ證書ノ裏面ニ其事實ヲ記載シ署名捺印シテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第二十三條 此規則ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島

司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

市町村立小學校教員退職料等ノ支給ニ關スル在職年數算定ノ件

勅令第十八號(明治二十五年二月九日)

(沿革)明治三十二年五月勅令第一九七號改正

朕市町村立小學校教員退職料等ノ支給上ニ關スル在職年數算定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 市町村立小學校教員退職料等ノ支給上ニ關スル正教員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス
- 第二條 左ニ掲クル年數及月數ハ正教員在職年數ニ算入スヘシ
 - 一 市町村立小學校正教員休職中ノ年數及月數
 - 二 明治十四年六月以後市町村立小學校訓導ノ職ニ在リタル年數及月數
- 第三條 左ニ掲クル年數及月數ハ正教員在職年數ヨリ除算スヘシ
 - (削除)
 - 一 自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若ハ失職ニ該當シタル者再就職シタルトキハ其ノ前在職ノ年數及月數
 - 三 (削除)
 - 四 恩給若クハ退職料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ市町村立小學校正教員ヲ兼マルトキハ其兼職中ノ年數及月數

市町村立小學校教員勤績ノ件

文部省令第三號(明治二十七年二月十日)

市町村立小學校廢止ノ際其ノ小學校教員ノ職ニ在ル者即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セラルトキハ勤績者トス

小學校令ヲ施行セサル地方ニ於

右ハ市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ依リ前々年度即チ明治何年度ニ於テ實收シタル納金額若干ノ二分ノ一ニ當ル
右ノ通ニ依也
年月日

爲替貯金局長宛
北海道廳長官何府縣知事 氏 名印

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則ニ依リ交付スヘキ證書、辭令書書式

文部省訓令第二號(明治二十五年二月十二日)

(沿革)明治三十八年五月文部省訓令第二號、四〇年五月同第一二號、大正二年七月同第七號、三年一二月同第一一號改正

明治二十五年文部省令第二號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則ニ依リ交付スヘキ退職料證書及扶助料證書等ハ左ノ書式ニ依ルヘシ
退職料證書書式 用紙ハ紙質學級ノモノヲ用フヘシ寸法ハ縱九寸 横一尺三寸輪廓付

退職料證書
族籍
元何小學校訓導(准訓導)
位勳階 氏 名
生年月

ケル教員退職料及遺族扶助料法施行上正教員准教員ノ區別

文部省令第二十四號(明治二十四年十一月十七日)
明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令ヲ施行セサル地方又ハ同令中教員ニ關スル條規ヲ施行セサル地方ニ於テ明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法施行上正教員准教員ノ別ハ市町村立小學校教員中訓導ヲ以テ正教員トシ授業生ヲ以テ准教員トスヘシ但本令ニ依リ離キモノアル場合ニ於テハ北海道廳長官府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依レル國庫給與金豫算調書ノ件

文部省訓令第六號(明治三十二年五月十八日)

(沿革)明治三十五年一〇月文部省訓令第七號、四四年九月同第一七號、大正二年七月同第八號改正

明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依レル國庫給與金交付上ニ關シ明治三十三年度分ヨリ左ノ書式ニ依リ毎年度豫算調書ヲ調製シ前年度七月三十一日限り爲替貯金局へ差出スヘシ
明治二十六年文部省訓令第一號及第三號ハ廢止ス
(書式)

明治何年度小學校教員恩給國庫給與金豫算調書
一金若干
小學校教員恩給國庫給與金

退職料年額令若干

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ明治何年何月ヨリ前記ノ退職料ヲ受クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス
年月日

北海道廳長官府縣知事位勳階 氏 名印
北海道廳府縣內務部長位勳階 氏 名印

備考

前ニ退職給與金ヲ受ケタル者ニ交付スル證書ニハ證書面中退職料年額金若干ノ下ニ(但明治何年何月ヨリ十年間ハ退職料年額金若干)ト記スヘシ
同上裏面

此證書ハ實讓與買入書入スルコトヲ得ス
退職料ヲ受クル者有給ノ公務ニ就キタルトキハ當該官公署ノ證明ヲ得テ當該ニ届出スヘシ給料額ニ増減ヲ生シタルトキ其職ヲ罷メタルトキ亦同シ其届書ニハ職名給料額及給料ノ支給ヲ受クル最初ノ日離職ノトキハ支給ヲ受クル最終ノ日ヲ附記スヘシ
前項ノ届書ハ就職ノ場合ニ在リテハ就職ノ日ヨリ十四日以内給料額ニ増減ヲ生シタル場合ニ在リテハ増減ヲ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ差出スヘシ
水火災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡失シタルトキハ居住地ノ市町村長ヲ經テ當該ニ届出ヘシ
本人氏名ヲ改メタルトキハ此證書ヲ添へ居住地ノ市町村長ヲ經テ本人死去シタルトキ市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

依り扶助料ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料請求書ニ此證書ヲ添付スヘシ扶助料ヲ受クヘキモノナキトキハ此證書ヲ返納スヘシ
表書ノ年額ハ毎年四月七月十月一月ニ其前三箇月分ヲ給ス毎期ノ給額左ノ如シ
金若干
但大正何年何月ノ給額ハ金若干
右金額ヲ受領セントスルトキハ此證書ヲ呈示スヘシ

備考

前ニ退職給與金ヲ受ケタル者ニ交付スル證書ニハ證書面中 金若干 何月ノ給額ハ金若干ノ下ニ (金若干 大正何年何月ヨリ 但大正何年何月ノ給額ハ金若干ノ下ニ) 大正何年何月マテ 十年間ノ毎期給額ト記スヘシ
但大正何年何月ノ給額ハ金若干
扶助料證書書式 用紙寸法トモ退職料證書書式ニ同シ

扶助料證書

族 籍

故何小學校訓導位勸爵氏名寡婦

(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)

位勸爵 氏

名

生年月

扶助料年額金若干

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ明治何年何月ヨリ前記ノ扶助料ヲ受クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス
年 月 日

北海道廳長官府縣知事位勸爵 氏 名 圖
此證書ハ市町村立小學校教員遺族扶助料原簿第何號ニ登錄ス

北海道廳府縣内務部長位勸爵 氏 名 圖

備考

公權停止中扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ交付スル證書ニハ「明治何年何月ヨリ」トアルヲ「何某公權停止中」ト記スヘシ
同上裏面

此證書ハ賣買讓與實入書入スルコトヲ得ス
水火災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡失シタルトキハ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ
本人氏名ヲ改メタルトキハ此證書ヲ添へ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ
本人死去又ハ權利消滅シタルトキ市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料請求書ニ此證書ヲ添付スヘシ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ此證書ヲ返納スヘシ
表書ノ年額ハ毎年四月七月十月一月ニ其前三箇月分ヲ給ス毎期ノ給額左ノ如シ
金若干
但明治何年何月ノ給額ハ金若干
右金額ヲ受領セントスルトキハ此證書ヲ呈示スヘシ

給與金辭令書書式

用紙適宜輪廓ナシ

元何小學校訓導

位勸爵 氏

名

給與金若干

右市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ之ヲ給ス

年 月 日

北海道廳府縣

備考

支給規則第十條ノ給與金ノ辭令書ニハ本人肩書ヲ故何小學校訓導位勸爵氏名兄(弟)(姉)(妹)ト記シ兄弟姉妹數名ノトキハ連名ニスヘシ
扶助金辭令書書式 用紙給與金辭令書書式ニ同シ

故何小學校訓導位勸爵氏名

寡婦(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)

位勸爵 氏

名

扶助金若干

右市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ之ヲ給ス

年 月 日

北海道廳府縣

府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法

法律第九十一號(明治二十三年十月三日)

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

(沿革) 明治三十二年三月法律第九〇號、四一年四月同第五五號、四四年四月同第六二號改正

府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法

第一條 府縣立師範學校校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

第二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員小學校ノ木科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保姆會監及書記ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退職料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退職料ヲ給ス

一 年滿六十歳ヲ超エ退職ヲ命シタルトキ

二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 廢職廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第四條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退職料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退職料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顯ミルコト能ハスシテ職務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第五條 退職料ノ年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數トニ依リ之ヲ定ム

勤續滿十五年以上ニシテ退職シタル者ノ退職料年額ハ勤續滿十五年ニ對シテハ俸給年額ノ百分ノ二十五トシ次ニ滿十五年以上ノ勤續年數中十五

年ヲ控除シタルモノニ對シ一年毎ニ百分ノ一ヲ加ヘ次ニ其他ノ在職年數ニ對シ一年毎ニ百分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム
前項ノ場合ヲ除クノ外在職滿十五年以上ニシテ退職シタル者ノ退職料年額ハ在職滿十五年ニ對シテハ俸給年額ノ百分ノ二十五トシ爾後在職一年毎ニ二十四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム
前二項ノ場合ニ於テ在職四十年以上ノ者ニ給スヘキ退職料ハ四十年ノ額トシ又前條ニ依リ給スヘキ退職料ハ前項ニ依リ算出シタル十五年ノ額トス

官吏恩給法第五條第四項第五項第六條第十條及第十三條第二項ハ退職料ニ之ヲ準用ス
退職料等ノ支給上ニ關スル在職年數ノ算定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 (削除)

第七條 退職料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ退職料ヲ割奪ス
退職料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其間退職料ノ支給ヲ停止ス但第一號ノ場合ニ於テハ其差額ニ限リ支給ヲ停止ス

一 公務ニ就キ受クル給料ト退職料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキ
二 公權ヲ停止セラレタルトキ

第八條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退職料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第九條 府縣立師範學校及公立中學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第四條ニ該當スル者ニ限リ退職現時ノ俸給四分ノ一ノ退職料ヲ終身給與ス

第十條 在職滿一以上年ニシテ退職シタル府縣立師範學校及公立中學校ノ校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母會監及書記ニハ退職現時ノ俸給半額月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但非職又ハ休職滿期ニ依リ退職シタル者ハ本職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給與ス
公立學校職員ニシテ教育事務ニ従事スル文官又ハ他ノ待遇文官ニ轉任シタル者退職又ハ退職シタルトキハ公立學校職員ノ在職年數ニ應シ前項ノ給與金ヲ給ス

第三條若クハ第四條ニ依リ退職料ヲ受クル者、他ノ法律ニ依リ退職料若クハ恩給ヲ受クル者、自己ノ便宜ニ依リ退職退官シタル者又ハ懲戒處分ニ依リ免職免官ニ處セラレ若クハ刑事裁判ニ依リ失職失官ニ該當シタル者ハ前二項ノ限ニ在ラス
本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者公立學校職員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ其再任ノ月ヨリ起算ス
本條ノ給與及之ニ關スル費用ハ轉任者退職者ノ轉任退職ノ際勤務セシ公立學校所屬府縣郡市町村ノ負擔トス

第十一條 退職料ノ支給ハ府縣知事ノ證明ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス
第十二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母會監及書記左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ
二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ
三 退職料ヲ受クル者死去シタルトキ
第十三條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

附則

此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
○明治四十一年法律第五十五號附則
本法ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前退職料ヲ受ケタル者ニシテ本法施行後再公立學校職員ト爲リ在職滿三年以上ニ至ラスシテ退職シタル者ノ退職料額算定方ハ仍從前ノ例ニ依ル

公立學校職員退職料及遺族扶助料支給規則

文部省令第一號(明治二十五年二月十日)

(沿革)明治三十二年五月文部省令第二七號、三十五年五月同第一一號、三十七年二月同第二〇號、四一年四月同第一六號、四三年三月同第五號、大正二年七月同第一九號改正

明治二十三年十月法律第九十一號府縣立師範學校校長俸給暨公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十七條ニ基キ公立學校職員退職料及遺族扶助料支給規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
公立學校職員退職料及遺族扶助料支給規則

第一章 退職料ノ請求

第一條 府縣立師範學校長俸給暨公立學校職員退職料及遺族扶助料法第三條第四條第五條第九條ニ依リ退職料ヲ受ケヘキ者ハ退職料請求書ヲ作り退職ノ際勤務セシ學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ
第二條 退職料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 在職中ノ履歴書
二 戶籍吏ノ作リタル戶籍謄本但府縣立師範學校校長俸給暨公立學校職員退職料及遺族扶助料法第九條ニ掲ケタル者ハ之ヲ要セス

第三條 職務ニ依リ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ退職料ヲ請求スル者ハ前

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受ケヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癡疾若クハ不慮ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十四條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母會監及書記ニシテ在職十五年未滿ノ者在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

第十五條 扶助料及扶助金ノ支給並第十三條第二項ノ給與ハ府縣知事ノ申稟ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

第十六條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母會監及書記ノ俸給百分ノ一ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

府縣郡市町村ハ其府縣立師範學校及公立中學校長正教員小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母會監及書記ノ俸給百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

兼職ニ係ル加俸ニ對シテハ本條ノ納金ヲ要セス

第十七條 退職料扶助料扶助金及第十三條第二項ノ給與並其支給ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

退職料扶助料扶助金等ノ支給ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 (削除)

第十九條 (削除)

第二十六條 此法律第一條ハ明治二十五年度ヨリ第二條乃至第十九條ハ明治二十六年度ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

條ニ掲クル書類ノ外尙左ノ書類ヲ添付スヘシ官吏恩給法第六條ヲ適用スヘキ者亦同シ

一 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書

二 醫師ノ診斷書

第四條 退職料請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ査覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ退職料年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

府縣知事ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ文部大臣ニ差出スヘシ

第五條 文部大臣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ退職料證書ヲ作り府縣知事ヲシテ之ヲ本人ニ交付セシメ且其ノ旨ヲ爲替貯金局長ニ通知ス但退職料増加ノ爲更ニ退職料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシム

第六條 (削除)

第七條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十條第一項ニ依リ給與金ヲ受ケヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歴書ヲ添付シ最終ニ勤務セシ學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ニ於テ本條第一項ノ請求ヲ許可シタルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

第二章 扶助料ノ請求

第八條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十條第十三條第一項第十四條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受ケヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り退職料ヲ受ケシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ死者ノ最終勤務セシ學校所屬府縣知事ニ退職料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ者ニ在テハ居住地ノ府縣知事ニ差出スヘシ

府縣知事ハ其所屬公立學校職員遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受ケヘキ者ア

長ニ通知ス

第十一條 (削除)

第十二條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十條第二項ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ扶助金ノ例ニ依リ但遺族若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ノ請求書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第三章 退職料扶助料ノ支給及停止

第十三條 退職料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死去ノ月ヲ以テ終ルモノトス

退職料又ハ扶助料ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ支給ス但權利消滅ノトキ及給與金扶助金ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

退職料、扶助料及扶助金ノ支給ニ關スル手續ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 (削除)

第十五條 退職料ヲ受ケヘキ權利消滅シ若クハ停止セララルヘキ者ノ支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 公務ニ就キ受ケタル給料ト退職料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキハ其ノ給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ其ノ差額ノ支給ヲ停メ其ノ給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

第十六條 扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

ルトキハ扶助料又ハ扶助金ノ請求上必要ノ書類ヲ遺族ニ交付スヘシ

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戸籍吏ノ作りタル戸籍謄本及左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十二條第一項第十四條ニ當ル者ノ請求書ニハ府縣知事ヨリ交付シタル死者ノ履歴書

二 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十二條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退職料證書

三 官吏遺族扶助法第四條第二項ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ傷痍若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據書類醫師ヲシテ診察セシメタルトキハ其診斷書及退職料ヲ受ケシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類ニ當ル者ノ遺族ニ在テハ本條第二ノ書類扶助料ヲ受ケタル者死去シ又ハ權利消滅シタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ者ノ請求書ニハ前ノ扶助料證書

四 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ者ノ請求書ニハ前ノ確定裁判ノ宣告書

五 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ其事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診斷書及退職料ヲ受ケシテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第一ノ書類ニ當ル者ノ遺族ニ在テハ本條第二ノ書類ニ當ル者ノ孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受ケヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類

第十條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ査覈ノ上扶助料年額計算書又ハ扶助金計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

文部大臣ニ於テ前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ扶助料證書又ハ扶助金辭令書ヲ作り府縣知事ヲシテ之ヲ本人ニ交付セシメ且其ノ旨ヲ爲替貯金局

一 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ裁判確定ノ日ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

三 公權停止中轉給ヲ受ケヘキ者ノ支給ハ本人停止ノ翌日ヲ以テ始メ復給ノ前日ヲ以テ終ル

第十七條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十條ニ掲ケタル增加退職料ノ等差ハ左ノ如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二眼以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第十八條 (削除)

第十九條 退職料又ハ扶助料ヲ受ケタル者死去シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキハ本籍市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事)ヨリ爲替貯金局長ニ報告スヘシ

第二十條 退職料ヲ受ケタル者有給ノ公務ニ就キタルトキハ當該官公署ノ職明ヲ得テ爲替貯金局長ニ届出ヘシ給料額ニ増減ヲ生シタルトキ其ノ職ヲ

罷メタルトキ亦同シ其ノ届書ニハ職名、給料額及給料ノ支給ヲ受ケル最
終ノ日繼續ノトキハ支給ヲ受ケル最終ノ日ヲ附記スヘシ
前項ノ届書ハ就職ノ場合ニ在リテハ就職ノ日ヨリ十四日以内給料額ニ増
減ヲ生シタル場合ニ在リテハ増減ヲ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ差出
スヘシ

第二十一條 爲替貯金局長ニ於テ第十九號ノ報告又ハ第二十條ノ届出ヲ受
ケタルトキハ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受ケヘキ
者又ハ其轉給ヲ受ケヘキ者ナキトキ又ハ退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒ若
クハ扶助料ノ支給ヲ廢スヘキ者ニ係ルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書
ヲ收メテ之ヲ文部大臣ニ納付スヘシ

第四章 雜則

第二十二條 府縣知事ハ第五條又ハ第十條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證
書ヲ本人ニ交付スルト同時ニ之ヲ本籍市町村長(市ノ區長カ戸籍吏ノ事
ニ通知スヘシ)

第二十三條 水火災盜難等ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル
者ハ退隱料又ハ扶助料ヲ交付スヘキ郵便局ヲ經テ爲替貯金局長ニ届出ヘ
シ

爲替貯金局長ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ
理由ヲ具シテ文部大臣ニ申出ヘシ文部大臣ハ退隱料證書又ハ扶助料證書
ノ原本ヲ作り爲替貯金局長ヲシテ之ヲ本人ニ交付セシム

前項退隱料證書又ハ扶助料證書ノ原本ハ本證書ト同一ノ效力アルモノト
ス

三 府縣立師範學校長俸給放公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十九
條ニ依ル退隱料ヲ受ケル者ハ其ノ退隱料ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル
前ノ在職年數ヲ月數

公立學校職員退隱料及遺族扶助

退隱料年額計算書式甲號(始メテ退隱料ヲ請求シタル者ニ用フ)

Table with columns for birth date, appointment date, position, and calculation of pension amounts. Includes fields for '明治何年何月何日' and '何年何月何日'.

通計何年退職現時俸給年額金何圓ノ二百四十十分ノ若干
退隱料年額金何圓
支給規則第十七條第何項ニ依リ退隱料最下金額金何圓ノ十分ノ若干
增加退隱料年額金何圓

第九章 職員 第七節 退隱料、扶助料

付シ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
第二十五條 此規則ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳
長官之ヲ行ヒ市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島
司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

公立學校職員退隱料及遺族扶助
料法ニ於ケル學校職員ノ資格及
在職年數算定ニ關スル件

勅令第九十六號(明治三十二年五月十七日)

朕明治二十五年勅令第十七號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣立師範學校長俸給放公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於
テ府縣立師範學校及公立中學校ノ正教員トアルハ教諭助教諭訓導トシ准
教員トアルハ其ノ他ノ教員トス

第二條 府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員會監及書記ノ在職年
數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス
明治十四年六月以前ヨリ在職ノ者ハ同年同月ヨリ起算ス

府縣立師範學校長及公立中學校ノ年數及月數並府縣立師範學校長補在
職中ノ年數及月數ハ在職年數ニ算入スヘシ公立中學校長並府縣立師範學
校及公立中學校ノ正教員會監書記在職中ノ年數及月數亦同シ

第三條 左ニ掲ケル年數及月數ハ在職年數ヨリ除算スヘシ
一 自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若ハ失職ニ該當
シタル者再就職シタルトキハ其ノ前在職ノ年數及月數
二 恩給若ハ退隱料ヲ受ケヘキ職ニ在ル者ニシテ府縣立師範學校及公立
中學校ノ學校長正教員會監書記ヲ兼ヌルトキハ其ノ兼職中ノ年數及
月數

料支給規則ノ計算書書式

文部省訓令第一號(明治二十五年二月十二日)

明治二十五年二月文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則
ニ依リ調製スヘキ計算書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

元何學校長(教諭)(助教諭)(何々)

位 勳 爵 氏

何年何月生

明治何年何月
何年何月

(退隱料年額又ハ退隱料年額ト増加退隱料年額ト合セタル金額ノ
四分ノ一)
每期給額 金何圓何拾何錢
明治何年何月ノ給額金何圓何拾何錢(初期給額)

右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也

取調主任 官 氏 名 留

扶助料年額計算書ニ添付スルトキハ年額計算ノ末行「何々ニ依リ退職」及通計何年ノ下「退職」ヲ「死去」ト記シ増加退職料及每期給額等ハ記載スルニ及ハス勤務年數ニ拘ラス退職料ヲ給與スヘキ者例セハ准教員ノ退職料年額計算書ノ類ハ此書式中在職年數計算ニ關スル事項ヲ省キ適宜調整スヘシ

退職料年額計算書 年月日任免ノ書ニ何年何箇月 式ハ甲號ニ依ル 右退職ノ節受ケタル退職料年額金何箇圓 年月日任免ノ書ニ何年何箇月 式ハ甲號ニ依ル	元何學校長(教諭)(助教諭)(何々) 位勲爵氏名(寡婦)(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母) 氏 何年何月生 明治何年何月
通計何年退職現時俸給年額金何箇圓ノ二百四十十分ノ若干 前ノ退職料年額ニ比較シ金何箇圓増 右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也	元何學校長(教諭)(助教諭)(何々) 位勲爵氏名(寡婦)(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母) 氏 何年何月生 明治何年何月

扶助料年額計算書 退職料年額金何箇圓ノ三分ノ一(〇一) 扶助料年額金何箇圓 右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也	元何學校長(教諭)(助教諭)(何々) 位勲爵氏名(寡婦)(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母) 氏 何年何月生 明治何年何月
退職料ヲ受ケヘキ資格ヲ有シテ死去シタル者ノ遺族ヨリ扶助料ヲ請求シタルトキハ此計算書ノ外退職料年額計算書書式甲號若クハ乙號ノ計算書ヲ添付スヘシ	取調主任 官 氏 名 留

扶助料ノ轉給ノ請求シタル者ニハ退職料年額ノ一行ヲ記載スルニ及ハス
 官吏遺族扶助料法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ計算書ハ此書式ニ準シ適宜調整スヘシ

扶助料計算書 年月日任免ノ書式ハ退職料年額計算書書式甲號ニ依ル 明治何年 何月 何日 死 何年 何箇月 在職最終俸給年額金何箇圓ノ百分ノ一金何箇圓何拾何錢ヲ在職年數ニ乗シタル額 右證據書類ニ依リ取調候處相違無之候也	故何學校長(教諭)(助教諭)(何々) 位勲爵氏名(寡婦)(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母) 氏 名
官更遺族扶助法第十一條ヲ適用スヘキ者ノ計算書ハ此書式等ニ準シ適宜調整スヘシ 官更遺族扶助料法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ計算書ハ此書式ニ準シ適宜調整スヘシ	取調主任 官 氏 名 留

公立學校職員退職料等ニ關スル件

法律第十三號(明治二十九年三月二十四日)
 (沿革) 明治三十二年三月法律第九一號、三十九年四月同第三〇號、四〇年二月同第一號改正
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル公立學校職員退職料等ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 明治二十三年法律第九十號ハ第五條ヲ除キ公立實業補習學校ノ教員及小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル公立幼稚園ノ保姆ニ適用シ同年法律第九十一號ハ第一條及第二十條ヲ除キ公立高等女學校專門學校實業學校(實業補習學校)及其ノ他ノ公立學校ノ學校長教員會監及書記並公立圖書館ノ校長、司書及書記ニ適用ス
 第二條 明治二十三年法律第九十號第二條及同法律第九十一號第三條ハ非職又ハ休職滿期ニ依リ退職シ及校務ノ伸縮ニ依リ退職ヲ命シタル場合ニモ適用ス
 第三條 明治二十三年法律第九十號同法律第九十一號及此ノ法律ニ依リ退職料ヲ受ケヘキ公立學校、圖書館長、正教員、司書、保健、舍監及書記ノ在職年數ハ各公立學校及圖書館ノ間ニ同シテハ之ヲ通算ス
 第四條 府縣立師範學校長タルシ者他ノ文官ト爲リ若ハ他ノ文官タルシ者

府縣立師範學校長ト爲リタルトキハ其ノ在職年數ハ明治二十三年法律第九十一號及官吏恩給法ニ於テハ各其ノ規定スル所ニ依リ其ノ在職年數若ハ在職年數中ニ通算スヘキモノトス
 第四條ノ二 學校長、圖書館長、正教員、司書、保健、舍監又ハ書記タルシ者其ノ他ノ教育事務ニ從事スル文官ト爲リタルトキハ各其ノ在職年數トシテ官在職年數トシテ同第三條ノ規定ニ依リ退職料扶助金ヲ受ク
 第三條ノ三 同一人ニシテ國庫ヨリ公立學校職員退職料及官吏恩給又ハ軍人恩給(扶助料ヲ附ク)若ハ同一ノ事由ノ爲メニ公立學校職員遺族扶助料及官吏遺族扶助法又ハ軍人恩給法ニ依レル扶助料ヲ併セ受クヘキ者アルトキハ本入ノ所據ニ任セ其ノ一ヲ給ス
 第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス
 ○明治四十年法律第一號附則
 本法ハ明治四十年十月一日ヨリ施行ス
 公立圖書館職員ノ在職年數ハ退職料、退職給與金、扶助料及扶助金ノ支給ニ關シテハ明治三十二年十一月以後就職ノ月ヨリ之ヲ起算ス

公立學校職員退職料等ニ關スル 法律施行ニ關スル件

勅令第二百一號(明治三十二年五月十七日)

(沿革)明治三十二年一月勅令第四二三號、四一年二月同第一三號、四三一年二月同第四五七號改正

- 第一條 明治三十二年五月十七日勅令第四二三號ニ於テ正教員退職料ノ別左ノ如シ
 - 一 公立實業補習學校ニ於テハ訓導及訓導ノ資格アル學校長ヲ以テ正教員トシ准訓導ヲ以テ准教員トス
 - 二 公立ノ高等女學校專門學校實業學校(實業補習學校)其ノ他ノ公立學校ニ於テハ教諭助教諭訓導ヲ以テ正教員トシ其ノ他ノ教員ヲ以テ准教員トス
- 第二條 明治三十二年五月十七日勅令第四二三號ニ於テ通算スルコトヲ得ヘキ文官ノ種類左ノ如シ
 - 一 官立ノ學校及圖書館職員
 - 二 文部省官吏
 - 三 教育事務從事ノ北海道廳府縣郡區島廳、朝鮮總督府朝鮮總督府道府郡、臺灣總督府臺灣總督府廳、關東都督府、樺太廳、統監府官吏
- 第三條 前條ニ掲ケタル文官ノ在官年數ヲ公立學校職員ノ在職年數ト通算スル場合ニ於テ算入又ハ除算スヘキ年數ハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル
- 第四條 明治二十四年勅令第二百四十八號明治二十五年勅令第五號同年勅令第十八號同年勅令第三十二號及明治三十二年勅令第九十六號ハ明治三十九年法律第十三號ノ施行ニ關シ特ニ規定スルモノヲ除クノ外之ヲ準用ス

第五條 明治三十九年勅令第九號ハ廢止ス

公立學校職員退職料等ニ關スル 法律施行ニ關スル規定

- 第一條 國庫ヨリ他ノ退職料又ハ恩給ヲ受クル者又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニシテ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法ニ依リ退職料ヲ請求スルトキハ同時ニ國庫ヨリ他ノ退職料若クハ恩給ヲ受ケサル旨ヲ請求書ニ記載スヘシ
 - 第二條 國庫ヨリ他ノ扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニシテ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ請求スルトキハ同時ニ國庫ヨリ他ノ扶助料ヲ受ケサル旨ヲ請求書ニ記載スヘシ
 - 第三條 教官其他教育事務ニ從事スル文官タリシ者ニシテ明治二十九年法律第十三號第四條ノ二ニ該當シ退職料扶助金ヲ受クヘキ者アルトキハ其前職ニ屬スル種類ノ退職料扶助金ヲ支給ス
 - 第四條 明治二十四年文部省令第七號同第二十四號明治二十五年文部省令第一號同第二號明治二十七年文部省令第三號ハ明治三十九年法律第十三號施行上之ヲ準用ス
 - 第五條 明治三十九年文部省令第四號ハ廢止ス
- 公立學校職員退職料ニ關スル件
- 文部省訓令第七號(明治三十二年五月十八日)
- 北海道廳 府縣

△學

明治二十四年文部省訓令第三號明治二十五年文部省訓令第一號同第二號同第三號及明治三十二年文部省訓令第六號ハ明治三十九年法律第十三號施行上之ヲ準用ス

明治三十九年文部省訓令第二號ハ廢止ス

府縣郡市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法施行ニ關スル件

勅令第二百四十八號(明治三十四年十二月三十日)

朕府縣郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ヲ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市長町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

第二條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣ノ負擔ハ府縣制又ハ地方稅ノ制ヲ施行セサル地方ニ於テハ地方經濟ニ屬スル費用ノ負擔トシ市町村ノ負擔ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區町村公費ノ負擔トス

第三條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十條第二項ノ納金ハ國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ノ學校長正教員ノ俸給ニ對シテハ之ヲ納ムルコトヲ要セス

第四條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣ノ負擔ハ府縣内ニ在ル島嶼ト本地ト經濟ヲ異ニスルトキハ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣文部大臣ノ認可ヲ得テ其島嶼ノ分擔額ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ難キ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣文部大臣ノ認可ヲ得テ該島嶼ノ爲ニ別ニ小學校教員恩給基金ヲ備ヘ總テ其負擔ヲ本地ト分別スルコトヲ得

府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員並市町村立小學校正教員ノ退職料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ障害セラレタルキ出訴ノ件

勅令第三十二號(明治三十五年四月四日)

(沿革)明治三十二年五月勅令第一九八號改正

朕府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員並市町村立小學校正教員ノ退職料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ障害セラレタル者ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員會監督記並市町村立小學校正教員ノ退職料又ハ遺族扶助料ニ關シ行政上ノ處分ニ依リ權利ヲ障害セラレタル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ

關シテハ文部大臣若クハ府縣知事ノ裁定ハ終審確定ノモノトス
一 傷疾疾病ノ原因及其輕重
二 職務ニ堪ユルト否ラサルト

在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法

法律第六十四號(明治三十八年三月十三日)

(沿革)明治四〇年二月法律第二號、四一年四月同第五六號、四四年四月

同第六三號改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法

- 第一條 本法ニ於テ在外指定學校ト稱スルハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ外務大臣及文部大臣ノ指定シタルモノヲ謂フ
- 第二條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法ハ第一條、第八條、第十條第二項、第四項、第十六條、第十七條第一項、第二十條及第二十一條ヲ除クノ外在外指定學校ノ職員及其ノ遺族ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ領事官之ヲ行フ
- 第三條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法、府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號、明治三十三年法律第七十七號又ハ本法ニ依リ退職料ヲ受クル者在外指定學校ノ職員トナリ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ俸給ヲ受クルトキハ其ノ間退職料ノ支給ヲ停止ス
- 第四條 在外指定學校ノ職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職料ヲ受ク

ル資格ヲ失フ

- 一 年齢六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ因リ退職シタルトキ
- 二 服務上ノ義務ニ違背シ若ハ服務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタル爲其ノ職ヲ解カレタルトキ
- 三 教員免許狀被奪ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ
- 六 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第五條 本法ニ依リ退職料ヲ受クル者及前條各號ノ一ニ該當スル者ニハ退職給與金ヲ給セス

第六條 明治二十九年法律第十三號ハ第一條、第三條、第四條及第五條ヲ除クノ外在外指定學校ノ職員ニ關シ之ヲ準用ス

在外指定學校ノ職員ノ在職年月數ト公立學校ノ學校長、正教員、舍監、書記、公立圖書館ノ館長、司書、書記及小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル師範學校附屬幼稚園又ハ公立幼稚園ノ保母ノ在職年月數トハ退職料、扶助料及扶助金ノ支給ニ關シ相互通算ス

第七條 本法ニ依リ支給スヘキ退職料、退職給與金、扶助料及扶助金並其ノ支給ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第八條 特別ノ地域ニ在リテハ勅令ヲ以テ本法中主務大臣及領事官ノ管掌ニ屬スル事項ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得

附則
本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

在外指定學校職員退職料及遺族扶助料等支給規則

△學

文部省令第二十一號(明治三十八年十一月八日)

在外指定學校職員退職料及遺族扶助料等支給規則左ノ通相定ム

- 第一條 明治二十五年文部省令第一號公立學校職員退職料及遺族扶助料支給規則ハ第七條第二十五條ヲ除ク外在外指定學校職員退職料及遺族扶助料等ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス
- 第二條 在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法第二條及府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十條第一項ニ依リ退職給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歴書ヲ添付シ退職ノ際勤務セシ學校所在地ヲ管轄スル領事官ニ差出スヘシ
- 領事官ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ニ於ケル學校職員ノ資格及在職年數算定方等ニ關スル件

勅令第二百二十九號(明治三十八年十一月七日)

朕在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ニ於ケル學校職員ノ資格及在職年數算定方等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ニ於テ職員ト稱スルハ學校長、教員、舍監及書記トス
在外指定學校中小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ訓導ノ正教員、准訓導ヲ准教員トシ其ノ他ノ學校ニ在リテハ教諭、助教諭ノ正教員、其ノ他ノ教員ヲ准教員トス

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

- 第二條 在外指定學校職員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終トス
- 第三條 左ニ掲ケル年數及月數ハ在職年數ヨリ除算スヘシ
一 在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法第四條各號ノ一ニ該當シタル者再就職シタルトキハ其ノ前在職ノ年數及月數
二 恩給又ハ退職料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ在外指定學校職員ヲ兼ヌルトキハ其ノ兼職中ノ年數及月數
- 第四條 在外指定學校ノ廢止又ハ指定取消ノ際其ノ學校職員タル者即日他ノ在外指定學校又ハ公立學校ノ職員ニ採用セラレタルトキハ勅令若ト看做ス
- 第五條 明治二十五年勅令第三十二號ハ在外指定學校職員退職料及遺族扶助料ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

學校職員恩給審査規程

勅令第二百六十四號(明治二十九年七月三日)

(沿革)明治三二年五月勅令第二〇〇號、三九年八月同第二二五號改正
朕學校職員恩給審査規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 公立學校職員恩給審査委員
第一條 文部省ニ公立學校職員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以內ヲ以テ之ヲ組織ス
公立學校職員恩給審査委員ハ市町村立小學校及公立實業補習學校ニアラサル公立學校及在外指定學校職員ノ退職料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス

- 第二條 公立學校職員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス
 - 第三條 公立學校職員恩給審査委員長及委員ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス
 - 第四條 文部省ニ恩給顧問醫三人ヲ置キ内一人ヲ常務顧問醫トス
恩給顧問醫ハ公立學校職員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應シ退職料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス但委員長ニ於テ總顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ必要ト認メサルモノハ常務顧問醫之ヲ審査ス
 - 第五條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得
 - 第六條 恩給顧問醫ハ文部大臣之ヲ命ス
 - 第七條 常務顧問醫ニハ一箇年五百圓以内其ノ他ノ顧問醫ニハ事件ノ輕重難易ヲ斟酌シ毎件三圓以上十圓以下ノ手當ヲ給ス
 - 第八條 公立學校職員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二章 市町村立小學校教員恩給審査委員**
- 第九條 北海道廳府縣ニ市町村立小學校教員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 市町村立小學校教員恩給審査委員ハ市町村立小學校、公立實業補習學校及公立幼稚園職員ノ退職料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス
 - 第十條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申ス
 - 第十一條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ其ノ屬高等官委員ハ其ノ屬官吏ノ中ヨリ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス
 - 第十二條 北海道廳府縣ニ恩給顧問醫三人以内ヲ置ク

府縣小學校教員恩給基金管理規則

- 文部省令第七號(明治二十四年十月九日)
(沿革)明治三十一年三月文部省令第九號、三十九年四月同第七號、四三年六月同第一七號改正
- 第十四條 遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス
 - 第十五條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得
 - 第十六條 恩給顧問醫ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス
 - 第十七條 顧問醫ニハ相當ノ手當ヲ給ス其ノ費用ハ北海道廳及沖繩縣ニ在テハ地方經濟ニ關スル費用ノ負擔トシ其ノ他ノ府縣ニ在テハ府縣ノ負擔トス
 - 第十八條 市町村立小學校教員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ北海道廳府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ
- 則**
- 第一條 小學校教員恩給基金ハ他ノ府縣有財產ト區分シテ之ヲ管理スヘシ
 - 第二條 小學校教員恩給基金ハ現金又ハ國債府縣債證書ト爲スヘシ
現金、國債證書ハ大藏省預金ニ寄託スヘシ但シ大藏省預金ニ寄託スルヲ得サルモノハ此ノ限ニアラス
 - 第三條 當該年度ノ支出ニ充テタル小學校教員恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ニシテ殘餘アルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ恩給基金ニ加入シ又ハ翌年度へ繰越スヘシ
 - 第四條 小學校教員恩給基金ノ整理方法ハ特別ノ規定ナキモノハ總テ他ノ

府縣有財產ノ例ニ依ル

官吏恩給法

- 法律第四十三號(明治二十三年六月二十一日)
(沿革)明治三十三年二月法律第一〇號、四一年四月同第五四號、四三年四月同第六〇號、四四年三月同第三號改正
- 官吏恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 官吏恩給法**
- 第一條 文官列任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス
 - 第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス
 - 一 年滿六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ
 - 二 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ
 - 三 廢官廢職若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ
 - 第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス
 - 一 公務ニ因リ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ
 - 二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顯ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ
 - 第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラズ恩給ヲ給ス
 - 第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ

第九章 職員 第一節 退職料、扶助料

- 二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス
- 非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最長ノ俸給ニ於テ之ヲ算定ス
- 交際官及領事官事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス
- 兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ
- 恩給年額未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム
- 第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷疾疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査察ノ上相當ノ恩給ヲ給ス
 - 一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二箇年
 - 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三箇年
- 第七條 在官年數ハ列任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス
- 明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲クル者退官スルトキハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス
- 第八條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ
 - 一 列任以上出仕官ニ在ルノ月數
 - 二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キテ後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數
 - 三 從軍年加算ノ年月

- 四 非職及休職中ノ月數
- 五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數
- 六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内官任官以上在官中ノ月數
- 第九條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ
 - 一 年齡二十歳未満者ノ在官月數
 - 二 高等官試補及列任官見習中ノ月數
 - 三 郡區判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數
 - 四 御用掛職等外出仕勤仕ノ月數
 - 五 第八條第二ニ掲クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數
 - 六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數
- 第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス
- 第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス
 - 一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス
 - 二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未満ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ增加セス
- 第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス
 - 一 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス
 - 二 列任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受ケタルトキ但商業ヲ營ムコトヲ

- 得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス
- 二 公權ヲ停止セラレタルトキ
- 第十三條 年齡未ダ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ
- 法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員或ハ町村長助役收入役名譽職參事會員東京市京都市大阪市北海道ノ區長沖繩縣區制ニ依ル區長及居留民團ノ民長助役會計役ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス
- 第十四條 郡區判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏或ハ高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス
- 商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏或ハ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限リ退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得
- 第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス
- 第十六條 恩給ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後七箇年内ニ請求セラレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス
- 第十七條 恩給ノ支給ハ本廳長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス
- 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス
 - 一 傷病疾病ノ原因及其輕重

- 二 職務ニ堪エルト否ヲサルト
- 第十八條 恩給ハ賣買讓與買入書入スルコトヲ得ヌ又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ヌ
- 第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル
- 第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三箇年内ニ請求セラレハ之ヲ受ケヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス
- 第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

- 二 戶籍謄本
- 第四條 公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其實質ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ
 - 一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
 - 二 醫師ノ診斷證書
- 第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ査察ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本廳長官ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ
- 恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ爲替貯金局ニ通報スヘシ

官吏恩給法施行規則

- 附令第三號(明治二十三年七月二日)
- (沿革) 明治二十七年一〇月附令第五號、四一年一二月同第五號、四三年三月同第三號、大正二年七月同第四號改正
- 官吏恩給法施行規則左ノ通定ム
- 官吏恩給法施行規則
- 第一章 恩給ノ請求
- 第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受ケヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本廳長官ニ差出スヘシ但廳官廳長官ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ
- 第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受ケヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
 - 一 在官中履歴書

- 第二章 恩給ノ支給
- 第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三個月分ヲ支給ス但權利消滅若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラヌ之ヲ支給ス
- 恩給支給ニ關スル手續ハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第八條 (削除)
- 第九條 (削除)
- 第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ
 - 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日

刑罰ノ刑ニ處セラレタル者、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ
ニ在リテハ裁判確定ノ日
其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル
日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタ
ル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公権ヲ停止セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ニ處セラ
レタル者ニ在リテヲ以テ支給ヲ終リ刑ヲ執行ヲ終リタル日ノ翌日又
ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺
草米蔵ノ平均相場ニ依リ當時ノ官職一箇月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲クル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ
等差ハ左ノ如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
第二項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
第四項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
第六項 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷疾疾病ノ等差ハ明治十八年達文官傷疾疾病等差例ニ依ル

第三章 恩給ノ停止

官吏遺族扶助法

法律第四十四號(明治二十三年六月二十一日)
(沿革)明治三二年二月法律第一六號、三三年二月同第一一號、四四年三
月同第四號改正

官吏遺族扶助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏遺族扶助法

第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法
律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナ
スヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラズ

一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ
二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ
三 恩給ヲ受クル者死去シタルトキ

第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普
通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受クル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ
納金ヲ爲スヘシ

都判任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル
官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏ハ第二條ノ納金ヲ要セス

第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ
一トス

官吏遺族扶助法

公務ノ爲メ受ケタル傷疾ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞働及困苦ヲ以
勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒
感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタ
ル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタ
ル恩給年額三分ノ二トス

扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿シム

第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタ
ルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼承者ニ給シ戶主ニ非サル者ノ
孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼承者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ
支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼承者ヲ
除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料
ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年額二十歲未滿ノ男女子ニシテ未ダ結婚セ
サル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼承者ニ限ル

第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及
孤兒戶籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母
アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給ス
ルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキ
ハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ給シ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル
者ノ戶籍内ニ在ル二十歲未滿又ハ癱疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト
能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助

一 個年分ヨリ少カラズ五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラズ
一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得
第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三個年分ニ請求セ
サレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス
第十三條 扶助料ハ實質課與實入書入スルコトヲ得ヌ又負債ノ抵償トシテ
差押フルコトヲ得ヌ
第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス
一 寡婦死去又ハ離婚シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
二 孤兒死去又ハ離婚シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チ
タル月ノ翌月
三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能
ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身
給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ
其間之ヲ給セス
第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ
處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス
公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス
扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス
第十七條 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルト
キハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス
前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乘シタル額ト
ス但一年未滿ノ在官月數ハ計算セス
第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申渡ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣
總理大臣之ヲ裁定ス
行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ侵害セラレタルトスル者ハ六

個月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ
一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受
ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ
此法律ニ依ル
第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス
●官吏遺族扶助法施行規則
附令第四號(明治二十三年七月二日)
(沿革)明治二十七年一〇月附令第六號、三十七年三月同第一號、四一年一二月
同第六號、四三年三月同第四號、大正二年七月同第四號改正
官吏遺族扶助法施行規則左ノ通定ム
官吏遺族扶助法施行規則
第一章 扶助料ノ請求
第一條 官吏遺族扶助法第一條第一第二及第十七條ニ當ル者アリタルトキ
ハ本屬國ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料
又ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ
第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶
助料請求ノ證ト爲スヘシ
第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬國ニ於
テ事實ヲ查察シ其傷病若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書
類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診察書ヲ併セテ其遺族ニ
下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ
第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チ
タルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト
爲スヘシ

第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫
ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ
第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其事由ヲ詳記シ廢
疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診察書ヲ添ヘ扶助料ヲ
請求スヘシ
第七條 官吏遺族扶助法ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ其ノ請求書ニ戸籍謄
本及第一條乃至第六條ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ住所ノ地方長官ニ差出スヘシ
第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ査察ノ上扶助料年額ノ計算書
ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本
人ニ下付セシム但一時ノ支給ニ保ルモノハ辭令書ヲ用ユ
扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ爲替貯金局ニ
通報スヘシ

給法施行規則第十六條ノ例ニ依ル
●官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
法律第三十六號(明治二十九年三月三十日)
(沿革)明治三十三年二月法律第一二號、四四年三月同第五號改正
朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム
官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
第一條 地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長ノ在官月數ハ官吏ノ恩給及遺
族扶助ニ關スル在官年數中ニ算入ス
第二條 明治二十三年七月一日以後ニ退官シタル文官列任以上ノ者ニシテ
地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケタル郡區長在官中ノ月數ヲ除算シ恩給ヲ受ケ若
ハ之カ爲恩給ヲ受ケサリシ者ニハ其ノ月數ヲ算入シ恩給ヲ増加シ又ハ新
ニ之ヲ給スルコトヲ得
第三條 第二條ニ相當スル者在官中又ハ退官ノ後死去シ其ノ遺族ニシテ扶
助料若ハ一時扶助金ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケサリシ者ニハ第一條ニ依リ算定

第九條 (削除)
第三章 扶助料ノ支給及停止
第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條及第十條第一第三ノ例
ニ依ル
第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿
チタルトキハ爲替貯金局ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ内閣恩給局ニ
通知スヘシ
前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ爲替貯金局ニ於
テ其扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ
第十二條 官吏恩給法施行規則第十三條及第十五條ハ扶助料ヲ受クル者ニ
之ヲ準用ス
第十三條 爲替貯金局ニ於テ第十二條ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩
給局
第九節 職員 第七節 退職料、扶助料

三三八ノ七

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

シタル恩給年額若ハ在官年數ニ依リ其ノ扶助料若ハ一時扶助金ヲ増加シ又ハ新ニ之ヲ給スルコトヲ得

- 第四條 第二條、第三條ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ方法ニ依リ最後ニ受ケタル退官賜金又ハ一時扶助金ノ一部ヲ返納セシム
第五條 恩給ヲ受クル者郡列任官及臺灣總督府地方廳稅務吏ニ任用セラレタルトキハ其ノ間恩給ヲ停止ス
第六條 第二條、第三條ニ依リ給スル恩給及扶助料ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ起算シテ之ヲ給ス
第七條 第二條、第三條ニ依リ受クヘキ恩給、扶助料又ハ一時扶助金ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年内ニ請求セサレハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス
第八條 此ノ法律ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル
第九條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

- 閣令第二號(明治二十九年三月三十日)
官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則左ノ通定ス
第一條 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則ニ依リ恩給ノ増加ヲ受ケ

若クハ新ニ恩給ヲ受ケントスル者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

- 第二條 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則第三條ニ依リ扶助料又ハ一時扶助金ノ増加ヲ受ケ若クハ新ニ之レヲ受ケントスル者ハ其ノ請求書ヲ居住地ノ地方長官ニ差出スヘシ
第三條 恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
一 在官中ノ履歷書
二 市町村長ノ證明シタル戸籍寫
但恩給ヲ請求スル者ニ在リテハ其ノ退官當時ノ戸籍寫扶助料若クハ一時扶助金ヲ請求スル者ニ在リテハ元官更タリシ者死亡當時ノ戸籍寫及明治二十九年四月一日現在ノ戸籍寫トス
三 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行前ニ恩給又ハ扶助料若クハ一時扶助金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ證書若クハ辭令書
第四條 第一條ニ依リ新ニ恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ官吏恩給法施行規則第五條ニ掲ケル計算書ノ外退官當時給與シタル退官賜金ノ調書ヲ添付スヘシ
第五條 恩給ヲ受ケタル者ヲ郡區書記ニ任用シ若クハ解任シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十條第十四條及第十六條ヲ準用ス但從來任用シタル者ハ直ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ
第六條 本規則ニ於テ特別ノ規程ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則及官吏遺族扶助法施行規則ノ例ニ依ル

△學覽

郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件

勅令第二十五號(明治四十三年三月十六日)
郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國庫ノ支辨ニ屬スル年金、恩給、遺族扶助料及退職料ノ支給ニ關スル事務ハ逕信省(統監府)、臺灣總督府、關東都督府及樺太廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム
前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ逕信大臣ノ定ムル所ニ依ル
第一項給與金ノ支辨ニ關シテハ歲入金歲出金並歲入歲出外現金ノ交互換替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

附則
本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

年金恩給支給規則

逕信省令第六號(明治四十三年三月十七日)
(沿革)明治四三年三月逕信省令第六〇號、四五年五月同第二五號、大正二年四月同第六號、同年六月同第五二號改正
年金恩給支給規則左ノ通定ム
第一條 國庫ノ支辨ニ屬スル左記給與金ノ支給手續ニ關シテハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ノ定ムル所ニ依ル
一 明治二十三年法律第四十三號官吏恩給法ニ依ル給與金
二 明治二十三年法律第四十四號官吏遺族扶助法ニ依ル給與金

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

- 三 明治二十三年法律第四十五號軍人恩給法ニ依ル給與金
四 明治二十三年法律第九十一號府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助法ニ依ル給與金
五 明治二十四年法律第四號明治七年以後ノ戰役ニ死没シタル軍人軍屬ノ遺父母及祖父母扶助ニ關スル法律ニ依ル給與金
六 明治二十九年法律第十三號公立學校職員退職料等ニ關スル法律ニ依ル給與金
七 明治二十九年法律第三十六號官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則ニ依ル給與金
八 明治二十九年法律第七十八號臺灣總督府所屬職員ニ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ヲ適用スルノ法律ニ依ル給與金
九 明治三十三年法律第七十五號臺灣又ハ樺太ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
十 明治三十三年法律第七十六號臺灣又ハ樺太ニ服役スル軍人ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
十一 明治三十三年法律第七十七號臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケル文官列任以上ノ學校職員ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
十二 明治三十四年法律第三十八號逕信省看守退職料及遺族扶助法ニ依ル給與金
十三 明治三十五年法律第二十九號臺灣ニ在勤スル逕信省看守陸軍監獄看守陸軍看守女監取締退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
十四 明治三十八年法律第六十四號在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ニ依ル給與金
十五 明治三十九年法律第二十九號廢兵院法ニ依ル給與金

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

- 十六 明治四十年法律第四十八號「統監府」及關東都督府等在職官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 十七 明治四十年法律第四十九號「統監府」、關東都督府及樺太等在勤巡查、看守及女監取締ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 十八 明治四十一年法律第三十五號樺太廳立小學校教員退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 十九 明治四十三年法律第三十號警部補退職料及遺族扶助料等ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 二十 明治四十五年法律第十一號朝鮮ニ於ケル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ノ支給ヲ受ケサル文官列任以上ノ者ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依ル給與金
- 二十一 明治二十七年勅令第七十三號金鷄勳章年金令ニ依ル給與金
- 二十二 前各號ノ外官吏恩給令、陸軍恩給令、海軍恩給令、海軍退職令其ノ他舊令ニ依ル給與金並特ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金
- 第二條 前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス
- 第三條 給與金ノ支給期日ハ之ヲ告示ス
- 第四條 受給者ハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屬ヲ作製シ給與金ノ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ差出スヘシ但シ一時限ノ給與ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印屬ヲ作製シ支給郵便局ニ差出スヘシ
- 第五條 受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作製シタル給與金受領證書ト引換ニ現

- 金ヲ受取ルヘシ
- 受給者ノ代理人ニ於テ給與金ヲ受取ラムトスルトキハ委任狀ヲ差出シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高並指定支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ爲替貯金局ニ差出スヘシ
- 第七條 一時限ノ給與金ヲ受クル者ハ給與金額及支給ヲ受ケムトスル郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ニ給與ニ關スル辭令書ノ寫ヲ添ヘ爲替貯金局ニ差出スヘシ
- 第八條 受給者第六條又ハ第七條ノ請求ニ對シ爲替貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ第五條ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 受給者ハ支給郵便局ニ於テ給與金ヲ受領スル際其ノ給與金ヲ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條ノ例ニ依リ權利者タルコトヲ證明シ且給與金受領證書ニハ振替預入ノ旨ヲ附記シ郵便貯金通帳ニ振替預入金ノ記入ヲ受ケヘシ
- 第十條 受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ爲替貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 受給者前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯金通帳ノ記號番號、給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號並請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ
- 第十一條 爲替貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス
- 第十二條 第十條ニ依リ郵便貯金ニ振替預入ノ請求アリタル給與金ハ其ノ支給期毎ニ爲替貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入レ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

△學

- 受給者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ郵便貯金通帳ヲ添ヘ支給郵便局ニ差出シ恩給ニ振替預入金ノ記入ヲ受ケヘシ
- 第十三條 受給者第十條ニ依リ振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル届書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ爲替貯金局ニ差出スヘシ
- 爲替貯金局ニ於テ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス
- 第十四條 受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ
- 第十五條 受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作製シ新支給郵便局ニ差出スヘシ
- 郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

附則

- 第十六條 本規則ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年三月三十一日迄ニ支給期ノ到來シタル給與金ニシテ同年五月三十一日迄ニ支給ヲ爲スモノハ仍從前ノ手續ニ依ル
- 明治四十三年四月ニ於テ支給期ノ到來スル受給者ニ對シテハ爲替貯金局ニ於テ其ノ支給郵便局ヲ指定ス

●年金、恩給、遺族扶助料及退職料等支給期日

適信省告示第三百四十一號(明治四十三年三月十七日)
 本年四月以降郵便局所ニ於テ取扱フ年金、恩給、遺族扶助料及退職料等ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス但シ東京市内ニ在ル郵便局ニ於テ支給スヘキモノハ左ノ期日ニ依ル

第九章 職員 第七節 退職料、扶助料

- 年金
- 文官恩給、學校職員並逕查看守退職料同上遺族扶助料
- 陸軍並海軍恩給同上遺族扶助料
- 一時限ノ給與金ニ付テハ前項ノ期日ニ拘ハラズ之ヲ支給ス
- 郵便局所ニ於ケル給與金ノ支給事務取扱時間ハ郵便爲替貯金受拂ノ例ニ依ル

●官吏遺族扶助法納金收入規則

- 勅令第二百二十五號(明治二十三年七月十四日)
- (沿革)明治三二年三月勅令第六〇號、三三年四月同第一五一號、四四年三月同第二一號改正
- 官吏遺族扶助法納金收入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 官吏遺族扶助法納金收入規則
- 第一條 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條ニ依リ文官列任以上ノ者ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ
- 郵書記又ハ臺灣總督府地方廳稅務吏ノ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ郵役所又ハ臺灣總督府地方廳會計吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ
- 第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ歲入徵收官ノ計算ニ移シ直ニ報告書ヲ作り之ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ
- 前條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏及郵役所又ハ臺灣總督府地方廳會計吏ニ於テ差引シタル金員ハ納金額表ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ
- 第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給

支給ノトキ之ヲ整理スヘシ
免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納
入ニ於テ差引スヘシ

●市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ於ケル納金收入ニ關スル規則設定方

文部省訓令第三號(明治二十四年十月九日)

北海道廳 府縣

明治二十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ納金收入ニ關スル規則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

●府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則

勅令第五號(明治二十五年一月十二日)

(沿革)明治三十二年五月勅令第一九九號改正

府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

收入規則

第一條 府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十四條第一項ニ依リ府縣立師範學校長ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ明治二十三年勅令第二百二十五號官吏遺族扶助料法納金收入規則ニ依リ收納スヘシ

公立中學校長並府縣立師範學校公立中學校ノ正教員會監督記ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ之ヲ差引スヘシ

第二條 前條第二項ニ依リ差引シタル金員ハ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ヨリ每翌月十日マテニ仕譯書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第十章 生徒

●朝鮮公立小學校兒童及卒業者他ノ學校ヘ入學轉學ニ關シ取扱方

文部省令第十二號(明治四十五年五月三十一日)

朝鮮公立小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●朝鮮總督府中學校生徒及卒業者他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件

文部省令第十一號(大正二年五月二日)

朝鮮總督府中學校規則ニ依リ中學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ第二部ノ生徒及卒業者ハ此ノ限ニ在ラス

●朝鮮公立高等女學校生徒及卒業者他ノ學校ヘ入學轉學ニ關シ取扱方

文部省令第十三號(明治四十五年五月三十一日)

朝鮮公立高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●朝鮮公立實業專修學校及朝鮮公立簡易實業專修學校生徒及卒業者他ノ學校ヘ入學轉學ニ關シ取扱方

文部省令第十四號(明治四十五年五月三十一日)

朝鮮公立實業專修學校及朝鮮公立簡易實業專修學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十九號實業學校令ニ依リ設置シタル相當實業學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●臺灣總督府國語學校中學校及臺灣小學校生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

文部省令第二十四號(明治三十六年六月九日)

臺灣總督府國語學校中學校及臺灣小學校生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

公立中學校長並府縣立師範學校公立中學校ノ正教員會監督記ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ之ヲ差引スヘシ

第二條 前條第二項ニ依リ差引シタル金員ハ會計事務ヲ管理スル府縣官吏郡役所會計吏又ハ市町村收入役ヨリ每翌月十日マテニ仕譯書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ依リ府縣郡市町村ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ毎年四月十日及十月十日マテニ其前六箇月分ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第十章 生徒

●朝鮮公立小學校兒童及卒業者他ノ學校ヘ入學轉學ニ關シ取扱方

文部省令第十二號(明治四十五年五月三十一日)

朝鮮公立小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●朝鮮總督府中學校生徒及卒業者他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル件

文部省令第十一號(大正二年五月二日)

朝鮮總督府中學校規則ニ依リ中學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ第二部ノ生徒及卒業者ハ此ノ限ニ在ラス

●臺灣總督府國語學校中學校及臺灣小學校生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

文部省令第二十四號(明治三十六年六月九日)

臺灣總督府國語學校中學校及臺灣小學校生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

●臺灣總督府國語學校第三附屬高等女學校ノ生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル取扱方

文部省令第六號(明治三十八年四月十八日)

臺灣總督府國語學校第三附屬高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

文部省令第三十五號(明治四十年十一月十五日)

(沿革)明治四四年一〇月文部省令第三〇號改正
臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ
臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校

第一條 校へ入學轉學ニ關スル規程

臺灣總督府中學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ第一部ニ在リテハ第二學年以上ノ生徒ニ限ル

第二條 臺灣總督府高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

關東州小學校兒童及卒業者他ノ學校へ入學轉學ニ關スル取扱方

文部省令第十五號(明治四十年五月十四日) 關東州小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

關東都督府ノ設置セル大連高等女學校生徒及卒業者他ノ學校へ轉學入學ニ關スル取扱方

文部省令第六號(大正五年一月十七日) 關東都督府ノ設置セル大連高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ轉學入學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

旅順高等女學校生徒及卒業者他ノ學校へ入學轉學ニ關スル取扱方

文部省告示第一號(明治四十五年一月九日) 關東都督府ノ設置セル旅順高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル

青島守備軍小學校兒童及卒業者他ノ學校へ轉學入學ニ關スル件

文部省令第十八號(大正四年十二月二十一日) 青島守備軍小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校へ轉學入學ノ關係ニ就キ小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

〔清國〕人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程

文部省令第十九號(明治三十八年十一月二日) 〔清國〕人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ入學願書ニ本邦所在ノ〔清國〕公使館ノ紹介書ヲ添付セシムルコトヲ要ス

第二條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ學校所定ノ學科目ノ中一科目若ハ數科目ヲ關カシムルコトヲ得

第三條 〔清國〕人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ其ノ教育ニ關係スル職員ノ名簿、〔清國〕人ノ学籍簿、出席簿及往復書類ヲ備フベシ

第四條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ学籍簿ニハ生徒ノ姓名、原籍、年齢、居所、入學前ノ經歷、入學ノ紹介シタル官廳ノ名稱、官費私費ノ區別、賞罰、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、轉學退學ノ事由等ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ成績不其ノ願書ニ本邦所在ノ〔清國〕公使館ノ承認書ヲ添付セシムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ試験ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該吏員ハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十二條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎學年終了後一箇月以内ニ其ノ〔清國〕人ノ学籍簿ノ教育上ノ經過ヲ文部大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十三條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テ此規定ニ違背シ又ハ其ノ成績不其ノ願書ニ本邦所在ノ〔清國〕公使館ノ承認書ヲ添付セシムルコトヲ要ス

第十四條 本令ノ規定ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方官ヲ經由スベシ

第十五條 本令ノ規定ハ小學校及小學校ニ類スル各種學校ニ關シテ之ヲ適用ス

附則 本令ハ明治三十九年二月一日ヨリ施行ス

女子師範學校高等女學校生徒學業成績調査等ニ關スル件

文部省訓令第六號(明治三十三年三月二十六日) 北海道 府縣 女子ノ師範學校及高等女學校ニ在學スル年記ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ右等ノ學校ニ在リテハ女生徒學業ノ成績ハ平常ニ於テ便宜ノ調査セシムルコトトシ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試験ヲ行フコト勿カラシムヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメサルヲ要ス

生徒德育上ノ注意 文部省訓令第十三號(明治四十二年九月十三日) 直轄諸學校 教育ハ人物ノ養成ヲ以テ主眼トス普通教育ト專門教育トヲ問ハス常ニ重キヲ品性ノ陶冶ニ置クヘキコト論ヲ俟タズ故ニ直轄諸學校ニ於テモ後來此ノ

前項ノ規定ハ〔清國〕人ノ学籍簿ニ報告スヘシ

第六條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ学籍簿ニ報告スヘシ

第七條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ〔清國〕人ノ学籍簿ニ報告スヘシ

點ニ注意ヲ志ラサリシハ本大臣ノ認ムル所ナリ是等諸學校ノ生徒ハ既ニ中學校以下ニ於テ修身教育ヲ受ケタルモノナリト雖道德上ノ觀念尙堅實ヲ缺キ各種ノ誘惑ニ陥リ易ク教育上最モ注意ヲ要スル時期ニ屬ス故ニ自今直轄諸學校ニ於テハ一層力ヲ修身ノ教育ニ致シ定時ニ修身ノ教授ヲ爲スノ外必要ニ應ジ隨時訓誨ヲ施シ生徒ノ道義的觀念ヲ鍊成シ以テ實踐躬行ノ意志ヲ強固ナラシメシコトヲ要ス又學校長及教官ハ常ニ協心協力シ躬ラ學校德育ノ中心ト爲リテ生徒ヲ薰陶シ以テ教育勸導及成申詔書ノ聖旨ヲ貫徹センコトヲ努ムヘシ

行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

文部省訓令第十八號(明治四十三年八月二十六日)

(沿革)明治四十四年七月文部省訓令第一號、大正五年一〇月同第五號改正

北海道廳 府縣 直轄學校

行幸啓ノ節學生生徒ノ敬禮方左ノ通相定ム

一 武裝携銃ノ場合
學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ劔ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム
御車中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス
二 武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)
學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車中隊ヲ前ニ達シタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシム

(體ノ上部ノ約三十度前方ニ屈シ御車ニ注目セシム)「直レ」ノ號令ニテ元ノ姿勢ニ復セシム
御車中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

學生生徒風紀振肅ニ關スル件

文部省訓令第一號(明治三十九年六月九日)

學生生徒ノ本分ハ常ニ健全ナル思想ヲ有シ確實ナル目的ヲ持シ刻苦勤勉他日ノ大成ヲ期スルニ在リハ固ヨリ言フ俟タズ殊ニ職後ノ國家ハ將來ノ國民ニ期待スル所益々多ク今日ノ學生生徒タル者ハ其ノ責任一層ノ重キヲ加ヘタルヲ以テ各々學業ヲ勵ミ一意専心其ノ目的ヲ完ウスルノ覺悟ナカルヘカラス
然ルニ近年青少年子女ノ間ニ往々氣風沈シ風紀頹廢セル傾向アルヲ見ルハ本大臣ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ現ニ修學中ノ者ニシテ或ハ小成ニ安シ奢修ニ流レ或ハ空想ニ傾倒シテ世世ノ本務ヲ閑却スルモノアリ甚シキハ放縱浮靡ニシテ操行ヲ紊リ恬トシテ恥ヲ知テキニアラズ斯ノ如キハ家庭ノ監督其ノ方ヲ誤リ學校ノ規律漸ク弛緩セルノ致ス所ニシテ今ニ於テ嚴ニ戒慎ヲ加フルニアラスハ禍害ノ及フ所實ニ測リ知ルヘカラス
社會一部ノ風潮漸ク輕薄ニ流レトスルノ兆アルニ際シ青少年子女ニ對スル誘惑ハ日ニ益々多キヲ加ヘムトス就中近時發刊ノ文書圖書ヲ見ルニ或ハ危激ノ言論ヲ掲ケ或ハ厭世ノ思想ヲ説キ或ハ陋劣ノ情態ヲ描キ教育上有害ニシテ斷シテ取ルヘカラサルモノ多シトセス故ニ學生生徒ノ閱讀スル圖書ハ其ノ内容ヲ精査シ有益ト認ムルモノハ之ヲ勸奨スルト共ニ有害不良ノ結果ヲ生スヘキ虞アルモノハ學校ノ内外ヲ問ハズ嚴ニ之ヲ禁遏スルノ方法ヲ取ラサルヘカラス
又頃者極端ナル社會主義ヲ鼓吹スルモノ往々各所ニ出現シ種々ノ手段ニ依リ教員生徒等ヲ誑惑セムトスル者アリト聞ク若シ夫レ斯ノ如クシテ建國ノ

大本ヲ觀望シ社會ノ秩序ヲ紊亂スルカ如キ危險ノ思想教育界ニ傳播シ我教育ノ根柢ヲ動カスニ至ルコトアラハ國家將來ノ爲メ最モ寒心スヘキナリ事ニ教育ニ當ル者宜シク留意戒心シテ矯激ノ僻見ヲ斥ケ流弊ヲ未然ニ防クノ用意ナカルヘカラス

學校生徒ノ喫煙ニ關スル件

文部省訓令第五號(明治三十三年三月二十六日)

北海道廳 府縣 文部省直轄學校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年文部省訓令第六號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令申學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト亦ナカラズ殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トヲ問ハズ喫煙シ及煙草器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシムコトヲ期スヘシ

學校生徒飲酒取締ノ件

文部省訓令第十二號(明治四十二年九月九日)

北海道廳 府縣

學校生徒ノ飲酒ハ教育上取締ヲ要スヘキハ言フ俟タズ從來各學校ニ於テモ常ニ適當ノ方法ヲ講シテ訓戒監督ヲ怠ラサルハ本大臣ノ認ムル所ナリ然レトモ訓育ノ目的ヲ貫徹セント欲セハ學校ト家庭ト常ニ聯絡ヲ保タンコトヲ

要ス因テ各學校ニ於テハ自今飲酒ノ取締ニ就キ一層家庭ト聯絡ヲ保ツコトニ注意シ以テ教育ノ效果ヲ完ウセンコトヲ努ムヘシ

生徒ノ服忌ニ關スル通牒

官報(明治四十四年八月二十九日)

生徒ノ服忌ニ關シ本月二十一日文部次官ヨリ各地方長官ニ左ノ通牒ヲ發セリ(文部省)

服忌ノ制ハ風ニ明治七年太政官布告第八號ヲ以テ規定相成居候儀ニ有之候處近來小學校其他諸學校ニ於テ往々其生徒ノ父母祖父母等ノ死亡ニ際シテモ右ノ制度ヲ等閑ニ附スルカ如キモノモ有之ヤニ相聞エ道徳教育上頗ル遺憾ノ次第ト被存候就テハ小學校及中等程度ノ諸學校ニ於テハ自今生徒ヲシテ克ク服忌ニ關スル心得ヲ會得セシメ又之ニ丁リタル者ニ對シテハ相當期間休業ヲ認許シ尙試驗ノ時期等ニ際シテハ特別ノ取扱ヲ爲ス等便宜ノ方法ヲ講シ以テ苟モ孝悌ノ至情ヲ傷ハシメサル様深ク注意スヘキ旨御示達相成度依命此段及通牒候也

學生生徒身體檢查規程

文部省訓令第四號(明治三十三年三月二十六日)

(沿革)明治三十四年三月文部省令第六號、三十七年九月同第一八號、四一年三月同第一三號、四五年一月同第一號改正

學生生徒身體檢查規程ヲ定ムルコト左ノ如シ
第一條 學生生徒身體檢查規程
第二條 學生生徒ノ身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ
學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ學生生徒ニ就キ臨時身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ施行スルコトヲ得
第三條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カサル町村立學校及私立ノ小學校及各種學校ハ本令ノ身體檢查ヲ行ハサルコトヲ

得
 第三條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ學校醫ヲ置カサル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
 第四條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ
 一 身長 二 體重 三 胸圍 四 脊柱 五 體格 六 視力 七 喉疾 八 聽力 九 耳疾 十 齒牙 十一 疾病
 小學校生徒ニ在リテハ視力及聽力ノ二項目ヲ検査スルコトヲ要セス但シ著シキ障害アリト認めル者ハ此限ニ在ラス
 第五條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ
 一 (削除)
 二 検査ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ分ニ止ムヘシ
 三 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩膝ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ鬢アル者ハ小髻ヲ鬢下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ
 四 體重ハ著衣ノ體測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
 五 胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニアラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ常時ヲ測定スヘシ充盈、空虛ノ差ヲ測定スルトキ亦同シ但シ小學校生徒ニ在リテハ常時ノミヲ測定スルモノトス
 六 脊柱ハ正、左彎、右彎、前屈、後屈ヲ検査シ屈彎ニ就テハ其ノ程度ニ依リ各強中弱ノ三種ニ區別スヘシ
 七 體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ
 八 視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キテ各別ニ検査スヘシ
 九 聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ検査スヘシ

十 齒牙ハ齲齕ニ就キ検査スヘシ
 十一 疾病ハ喉病、營養不良、貧血、脚氣、肺結核、頭痛、吐血、神經衰弱、鼻疾、咽喉病、傳染性皮膚病其ノ他慢性疾患等検査ノ際ニ發見シタルモノヲ記入スヘシ
 前各號ノ外身體検査上必要ト認めタル事項ハ特ニ検査ヲ行フヘシ
 第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ左ノ様式ニ依リ身體検査票ヲ調製スヘシ

校何(科)姓名		出生年月	出生地	學年	視力	眼疾	聽力	耳疾	齒牙	齲齕	喉疾	鼻疾	咽喉病	傳染性皮膚病	其他慢性疾患	検査ノ際ニ發見シタルモノ	
検査年月	體格	脊柱	胸圍	體重	身長	視力	眼疾	聽力	耳疾	齒牙	齲齕 <td>喉疾</td> <td>鼻疾</td> <td>咽喉病</td> <td>傳染性皮膚病</td> <td>其他慢性疾患</td> <td>検査ノ際ニ發見シタルモノ</td>	喉疾	鼻疾	咽喉病	傳染性皮膚病	其他慢性疾患	検査ノ際ニ發見シタルモノ

第六條ノ二 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校校長ハ各本人ニ關スル検査ノ

結果ヲ學生生徒又ハ其ノ保護者ニ示スヘシ
 第七條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校校長ハ左ノ様式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限リ文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校長ニ

在リテハ地方長官ニ報告スヘシ
 地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ年六月限リ文部大臣ニ報告スヘシ

(校名)學生生徒身體検査統計表 (男女)(明治 年四月検査)

年	身長	體重	胸圍	脊柱	體格	視力	眼疾	聽力	耳疾	齒牙	齲齕	喉疾	鼻疾	咽喉病	傳染性皮膚病	其他慢性疾患	検査ノ際ニ發見シタルモノ																								
																		何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年							
身長	總長	最大	最小	平均	總長	最大	最小	平均	常時	最大	最小	平均	總長	最大	最小	平均	左彎	右彎	前屈	後屈	體格	強健	中等	薄弱	視力	兩眼	左眼	右眼	眼疾	ト	ラ	ホ	ム	他	聽力	障害アル者	耳疾	齲齕アル者	疾病	検査人員	備考

ノ各欄ニハ其ノ検査人員中ノ最大、最小ナルモノヲ掲ケ平均ノ各欄ニハ其ノ検査人員ヲ以テ身長、胸圍ノ總長又ハ體重ヲ除シタル商ヲ掲ケヘシ

一視力ニ就キテハ兩眼ノ欄ニハ兩眼トモ正視、遠視、近視又ハ其ノ他(亂視、斜視、弱視等)ノ者ノ人員ヲ掲ケ左眼又ハ右眼ノ欄ニハ左眼又ハ右眼ノ一方ノ正視、遠視、近視又ハ其ノ他(亂視、斜視、弱視等)ノ者ノ人員ヲ掲ケヘシ但シ失明者ニ關シテハ兩眼又ハ片眼ニ區別シ備考ノ欄ニ於テ其ノ數ヲ示スヘシ

一検査スヘキ項目ノ一部ノ検査ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ記入スヘカラス

一外國人ニ係ルモノハ之ヲ計入スヘカラス

一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

一學校ニ於ケル重ナル疾病ノ原因及豫防等ニ關シ學校醫等ノ意見アルトキハ之ヲ表末ニ附記スヘシ

第八條 幼稚園ニ於テハ本令中小學校生徒ノ身體検査ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

●徵兵事務條例ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル規程

文部省令第三十九號(明治三十六年十二月二十六日)

徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學生、生徒ニ在學證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニ據ルヘシ

在學ノ學科及學年
入學ノ年月日

原籍 氏名
生年月日

徵兵事務條例第五十五條ニ依リ在學證明書ニ關スル規程

年 月 日

學校所在地 何々學校長 氏名 印

第二條 學校長ハ在學證明書交付名簿ヲ調製シ前條ノ證明書ヲ交付スルトキハ證明書ノ番號ヲ該名簿ニ記入シ且證明書ト名簿トニ別印ヲナスヘシ

第三條 卒業若ハ退學等ニ依リ第一條ノ證明書ヲ交付シタル學生、生徒ノ學籍ヲ除キタルトキハ學校長ハ其ノ除籍ノ事由及年月日ヲ十四日以内ニ原籍地ノ市長、北海道、沖繩縣、東京市、京町村長、町村制ヲ施行セザル地ニ準シテハ町村長ニ通知スヘシ

附 則

明治十八年文部省達第一號ハ之ヲ廢止ス

●學校生徒徵集猶豫ニ關スル取締方

文部省訓令第一號(明治三十七年一月九日)

北海道廳 府縣 學2

兵役ハ臣民カ國家ニ對シテ負擔スル重大ナル義務タルニ拘ラス一定ノ學校ニ在學スル者ニ對シ徵集猶豫ノ特典ヲ與ヘラルルハ國家カ教育ヲ重シ之ヲ獎勵スルノ趣旨ニ出テタルヤ明ナリ然ルニ往々此ノ特典ヲ濫用シ名ヲ在學ニ藉リテ徵集猶豫ヲ受ケントシ學校ニ於テモ亦別ニ注意ヲ加フル所ナクシテ容易ニ之ヲ認容スルモノアリト聞ク此ノ如キハ實ニ徵集猶豫ノ本旨ニ背反スルノミナラス又臣民ノ本分ヲ愆ルモノト謂フヘシ地方長官ハ深ク此ノ點ニ留意シ徵兵令上ノ特典ヲ有スル學校ニ對シテハ客年本省令第三十九號ノ手續ヲ實行セシムルハ勿論其ノ生徒ノ入學在學出席退學ニ關シ常ニ精確ノ調査ヲナサシムル等特ニ監督ヲ嚴正ニシ苟モ徵兵忌避ノ疑アルカ如キ場合ニ於テハ速ニ其ノ情況ヲ本大臣ニ具申シ又法令ノ命スル所ニ從ヒテ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ怠ラサルヘシ

●文部省直轄實業專門學校委託生規程

文部省令第二十三號(明治四十年七月二十五日)

文部省直轄實業專門學校委託生規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 北海道府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體及私人ハ文部省直轄實業專門學校生徒ニシテ卒業後其ノ公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者ニ學費ヲ補助シ委託生トシテ在學セシムルコトヲ得

第二條 公共團體又ハ私人ハ委託生ノ選定ヲ當該學校長ニ委嘱スルコトヲ得

第三條 公共團體又ハ私人ヨリ委託生ニ補給スヘキ學費ハ一箇月十圓以上トス

第四條 委託生ニハ授業料ヲ徵收セス

第五條 委託生ハ卒業ノ日ヨリ學費ノ補助ヲ受ケタル期間ニ一箇年ヲ加ヘタル期間當該公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ職務ヲ有ス

第六條 委託生ニシテ在學中中途退學シ又ハ委託生タルコトヲ止ムルトキ若ハ卒業後左ノ各號ノ一ニ當スルトキハ其ノ補助ヲ受ケタル學費ヲ當該公共團體又ハ私人ニ償還スヘシ但シ當該公共團體又ハ私人ニ於テ酌量スヘキ情狀アリト認メタルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

第十章 生徒

- 一 前條ノ義務ヲ盡ササルトキ
 - 二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ
 - 三 免許狀檢奪ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 第七條 學校長ハ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

第十一章 教科用圖書

● 小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程

文部省告示第二百五十四號(明治四十二年十月二日)

(沿革)明治四三年八月文部省告示第二〇九號、四五年六月同第一六一號、

大正三年三月同第三四號、四年三月同第六二號改正

小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程

第一條 文部省ニ於テ著作權ヲ有スル左記小學校教科用圖書ハ此ノ規程ニ依リ其ノ翻刻發行ヲ日本書籍株式會社、東京書籍株式會社、大阪書籍株式會社ニ其ノ販賣ヲ株式會社國定教科書共同販賣所ニ許可ス

- 一 修身
 - 二 國語
 - 三 歴史
 - 四 地理
 - 五 算術
 - 六 圖畫
 - 七 理科
- 各會社ニ翻刻發行ヲ許可スル圖書ノ割合ハ各種各卷ニ就キ日本書籍株式會社、東京書籍株式會社ハ各十分ノ四大阪書籍株式會社ハ十分ノ二トス
- 第二條 翻刻發行許可ノ期間ハ大正五年度所用分ヨリ以後六箇年トス但シ翻刻發行者ニ於テ此ノ規定ニ違背シタルトキ若ハ其ノ信用缺乏シ又ハ其ノ業務株主ノ行動等ニシテ不都合アル場合ハ期間内ト雖モ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一章 教科用圖書

學

學

翻刻發行者ハ許可滿期ノ場合ニ於テ繼續許可ヲ出願スルコトヲ得

第三條 前條第一項但書ノ規定ハ共同販賣所ニ之ヲ準用ス

第三條ノ二 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可以外ノ業務ヲ行フコトヲ得

ス但シ特ニ文部大臣ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 各翻刻發行者ノ毎年發行スヘキ圖書ノ種類及冊數ハ文部大臣之ヲ

指定ス但シ指定以前ニ於テ製造ニ著手セントスルトキハ其ノ種類及冊數

ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ

翻刻發行者前項ノ指定ヲ受ケタルトキハ共同販賣所ト協議ノ上更ニ之ヲ

各卷ニ分配シタル圖書ヲ製シ文部省ニ提出スヘシ

第五條 翻刻發行者ニ於テ毎年發行スヘキ圖書ノ冊數ヲ變更セントスルト

キハ事情ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ

第六條 製版、印刷、製本ニ關スル總テノ工場及事務所所在地ハ東京、大

阪ニ限ル工場及事務所ノ設置又ハ變更ハ遲滞ナク文部省ニ届出ツヘシ

第七條 翻刻發行者ハ其ノ製造シタル圖書ノ全部ヲ共同販賣所ニ賣渡スヘ

シ

前項ノ賣渡ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ

第八條 共同販賣所ハ道府縣内ニ少クトモ一箇ノ共同販賣支所又ハ特約販

賣所ヲ設ケ其ノ下ニ若干ノ取次販賣所ヲ置キ各其ノ供給區域ヲ劃定シ圖

書供給ノ普及ヲ圖ルヘシ

前項ノ供給區域及販賣ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ

第九條 共同販賣所ハ圖書ヲ檢査シ此ノ規程第十條乃至第十六條ニ違背セ

リト認ムルモノハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十條 圖書ハ用紙白色ニシテ強キ光澤ナク其ノ質強靱ニシテ粗穢ナラス

印刷鮮明ニシテ製本堅牢ナルコトヲ要ス

第十一條 圖書ノ定價及用紙ノ標準ハ別ニ之ヲ告示ス

第十二條 翻刻發行者ハ各圖書ノ見本三部ヲ文部省ニ提出シ檢査ヲ受ケヘ

圖書ハ前項ノ検査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス
 第十三條 圖書ノ文字ノ大小、圖畫、卷數、枚數、頁數、行數及毎行ノ字數其ノ他圖書ノ種類ニ依リ特ニ定ムル事項ハ文部省ノ見本ト同一ナルコトヲ要ス
 第十四條 文部省ニ於テ圖書ノ見本ニ修正ヲ加ヘタルトキハ特ニ定ムル期限後ハ從前ノ見本ニ依リテ翻刻シタル圖書ヲ販賣スルコトヲ得ス
 修正圖書ハ第十二條ノ規定ニ準シ検査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス
 第十五條 圖書ノ用紙、印刷及製本ハ第十二條第一項ノ検査ヲ經タル見本ト同一ナルコトヲ要ス
 第十六條 圖書ニハ各冊尾ニ第十二條第一項ノ検査済年月日及定價ヲ記載ス
 第十七條 翻刻發行者ハ翻刻發行許可手数料トシテ發行圖書一冊毎ニ金三厘五毛ヲ納付ス
 前項ノ手数料ハ發行圖書ノ指定冊數(指定以前ニ製造著手ノ承認ヲ受)又ハ製造著手ノ承認冊數ニ應シテ積算シタル額ヲ二分シ其ノ一分ハ指定又ハ承認ノ日ヨリ五日以内ニ他ノ一分ハ五十日以内ニ納付ス
 第十七條ノ二 共同販賣所ニ於テ各翻刻發行者ヨリ賣渡ヲ受クル圖書ノ冊數ハ前條ノ手数料納付済ニ保ル冊數ヲ超過スルコトヲ得ス
 第十八條 圖書ハ定價ヲ超ニテ販賣スルコトヲ得ス
 第十九條 翻刻發行者ハ文部大臣ヨリ發行冊數ノ指定若ハ承認ヲ受ケタルトキハ速ニ圖書製造ノ功程ニ關スル豫定計畫書ヲ提出ス
 前項ノ豫定計畫書ヲ不適當ナリト認ムルトキハ文部大臣ハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ
 第二十條 圖書ハ其ノ使用期ヨリ遅クトモ六十日以前ニ翻刻發行者ヨリ共

同販賣所ニ納付シ共同販賣所ハ使用期二十日前マテニ各地販賣所ニ到達スル機發送ス
 第二十一條 共同販賣所ハ常ニ在庫圖書ノ種類冊數ヲ明瞭ナラシメ其ノ保管ニ關シ十分ノ注意ヲ爲シ且時々地方ニ於ケル需要供給ノ狀況ヲ取調ヘ若シ發行冊數ニ不足ヲ生スルノ見込アルトキハ速ニ文部省ニ申出ツヘシ
 第二十二條 圖書製造ノ功程遅延ニシテ第二十條ノ期限内ニ製本ヲ完了スルコト能ハスト認ムルトキハ文部大臣ハ翻刻發行ノ指定冊數ヲ減少シ若ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 文部大臣ニ於テ第十條乃至第十七條ニ違背セリト認メタル圖書ニ就キテハ廢棄又ハ改良等必要ノ處分ヲ命スルコトアルヘシ
 第二十三條 圖書ノ翻刻發行及保管ニ要スル工場、倉庫其ノ他ノ設備不完全ナリト認ムルトキハ文部大臣ハ之カ増設又ハ改良ヲ命スルコトアルヘシ
 第二十四條 圖書ノ供給ニ關スル施設ニシテ供給上不便ト認メタルトキハ文部大臣ハ之カ改良ヲ命スルコトアルヘシ
 第二十五條 (削除)
 第二十六條 左ノ事項ハ總テ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ
 一 會社ノ取締役、監査役及代表者ノ選任
 二 株式ノ讓渡
 三 定款
 四 各種積立金ノ使用
 五 用紙ノ購入契約
 六 公債以外ノ有價證券ノ取得
 第二十七條ノ二 各會社ハ他ノ會社ノ株式ノ引受又ハ讓受ヲナスコトヲ得ス
 第二十七條 各會社ノ利益配當ハ拂込資本金ニ對シ年八分トス若シ殘餘

ルトキハ之ヲ再配當ニ充ツルコトヲ得但シ配當ハ通シテ年一割二分ヲ超過スルコトヲ得ス
 第二十八條 文部大臣ハ必要ニ應シ吏員ヲ派シテ圖書ノ製造販賣及會計其ノ他業務ノ實況ヲ検査シ又帳簿及書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ翻刻發行者又ハ販賣者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
 第二十九條 文部大臣ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ規程ノ條項ニ修正ヲ加フルコトアルヘシ
 第三十條 第二條第一項但書第三條第二十二條第二十三條第二十四條第二十九條第三十二條ノ場合ニ於テ發行者又ハ販賣者カ損害ヲ受クルモ文部省ハ其ノ賠償ノ責ニ任セス
 第三十一條 翻刻發行者ハ其ノ發行ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ公債證書、勸業債券、興業債券若ハ北海道拓殖銀行債券ヲ以テ保證金ヲ納付ス
 保證金ハ總額ヲ十二万五千圓トシ各翻刻發行者ノ納付額ハ文部大臣之ヲ指定ス
 第三十二條 翻刻發行者ニ於テ期限内ニ保證金ノ納付ヲ爲サ、ルトキハ翻刻發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 第三十三條 翻刻發行者ニ於テ翻刻發行ノ事業ヲ止メタルトキハ納付ノ保證金ハ請求ノ日ヨリ三箇月以内ニ拂戻ヲ爲ス
 第三十四條 翻刻發行者ニ於テ此ノ規程又ハ此ノ規程ニ依リ發スル文部大臣ノ命令ニ違背シタルトキハ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ
 違約金ハ保證金額ノ範圍内ニ於テ文部大臣之ヲ定ム
 第三十五條 翻刻發行者ニ於テ前條ノ違約金ヲ文部大臣ノ指定シタル期限内ニ納付セサルトキハ保證金ヲ以テ辨濟ニ充ツヘシ
 第三十六條 保證金ヲ納付セントスルトキハ第一號書式ニ依リ公債證書又ハ債券ノ種類ヲ届出テ寄託通知書ノ交付ヲ受クヘシ

公債證書ノ價格ハ額面ニ債券ノ價格ハ納付前日ノ市價ニ依ル
 第三十七條 前條ノ寄託通知書ヲ受領シタルトキハ該通知書記載ノ金庫ニ公債證書又ハ債券ヲ提供シ保管證書ヲ受ケ第三號書式ノ實據設定證書及記名公債證書(記名國債證書ヲ除ク)記名債券ノ場合ハ民法第三百六十四條ノ規定ニ依リタル書類ト共ニ第二號書式ノ保證金納付書ニ添付シ文部大臣官房會計課長ニ提出ス
 附則
 第三十八條 印紙ノ種類及用紙ノ標準ニシテ既ニ告示シタルモノハ其ノ告示ニ依ル
 明治三十八年文部省告示第六十八號小學校教科用圖書翻刻發行規則第十條及第四十二條第二項ニ依リ定メタル圖書ノ定價ハ仍其ノ效力ヲ有ス
 第三十九條 明治三十八年文部省告示第六十八號小學校教科用圖書翻刻發行規則ハ之ヲ廢止ス
 第四十條 明治四十三年度所用分圖書ハ各會社ヘ其ノ發行冊數ヲ指定スルマテハ從來ノ規則ニ依リ從來ノ翻刻發行者之ヲ發行スヘシ但シ證明料ニ關シテハ第十七條ノ規定ニ依ルモノトス
 第四十一條 共同販賣所ニ對シ從來文部大臣ニ於テ命令又ハ承認シタル事項ニシテ此ノ規程ト抵觸セサルモノハ仍其ノ效力ヲ有ス
 ○大正三年文部省告示第三十四號附則
 本規程施行以前ニ指定ヲ受ケタル冊數中證明料未納ニ係ルモノハ本規程施行ノ日ニ指定ヲ受ケタルモノト看做ス
 ○大正四年三月文部省告示第六二號附則
 大正四年度所用分圖書ニ關スル翻刻發行及販賣ニ就キテハ仍從來ノ規定ニ依ル舊第二十五條ニ依ル積立金ノ使用ニ就キ亦同シ
 (第一號書式)
 保證金種類屆

一金何圓也

保證金額

何圓券何々公債證書 何 枚
 何第何番 自何第何番至何第何番
 何圓券何々公債證書 何 枚
 何第何番 自何第何番至何第何番
 何圓券何々公債證書 何 枚
 何第何番 自何第何番至何第何番
 何圓券何々公債證書 何 枚
 何第何番 自何第何番至何第何番
 何圓券何々公債證書 何 枚
 何第何番 自何第何番至何第何番
 何圓券何々公債證書 何 枚
 何第何番 自何第何番至何第何番

無記名 出者所有ノ分
 時價何圓(又ハ發行最) 低價格何圓
 無記名 何某所有ノ分
 時價何圓(又ハ發行最) 低價格何圓
 記名 出者名義ノ分
 時價何圓(又ハ發行最) 低價格何圓
 記名 何某名義ノ分
 時價何圓(又ハ發行最) 低價格何圓

教科用圖書翻刻發行人 何 某印

(第二號書式)

三 錢

保證金額

印紙

保證金額

一金何圓也 保證金額
 但シ何々金庫第何號保管證書ノ通
 外ニ
 一 實權設定證書
 一 第三債務者ヘ通知ノ請書(又ハ承諾書)
 一 何々(ナル書類アルトキ)
 右納付候也

何 通
 何 通
 何 通

年 月 日 住所 何 通

教科用圖書翻刻發行人(又ハ第三者) 何 某印

教科用圖書翻刻發行人 何 某印

(第三者ヨリ實權ノ設定ヲナシタルトキハ連署ヲ要ス)

(第三號書式)

應金高

實權設定證書

印紙

無記名ノ例) 何 枚
 一 何圓券何々公債證書
 何第何番 自何第何番至何第何番
 右ハ出者ノ所有ニ有之候處教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權設定候也

右ハ出者ノ所有ニ有之候處何縣何郡何市何町何村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權設定候也

右ハ出者ノ所有ニ有之候處何縣何郡何市何町何村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權設定候也

(記名ノ例)

一 何誰記名何圓券何々公債證書 何 枚
 何第何番 自何第何番至何第何番
 右ハ出者ノ所有ニ有之候處教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權ヲ設定シ第三債務者ヘ通知ノ請書(又ハ承諾書)添付候也

右ハ出者ノ所有ニ有之候處何縣何郡何市何町何村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權ヲ設定シ第三債務者ヘ通知ノ請書(又ハ承諾書)添付候也

右ハ出者ノ所有ニ有之候處何縣何郡何市何町何村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付實權ヲ設定シ第三債務者ヘ通知ノ請書(又ハ承諾書)添付候也

△學1

△學7

文部大臣官房會計課長宛
 備考
 一 公債證書ノ種類、券面額毎ニ區別列記スルモノトス
 一 記名ト無記名及實權設定者ノ異ナル毎ニ別紙ニ調製スルモノトス

●翻刻發行許可小學校教科用圖書 定價

書	目	定 價	告 示
尋常小學校	卷一教師用	〇七〇大	一〇七
尋常小學校	卷二教師用	〇七〇大	一〇七
尋常小學校	卷三教師用	〇九〇大	一〇七
尋常小學校	卷四教師用	〇九〇大	一〇七
尋常小學校	卷五教師用	一〇〇大	一〇七
尋常小學校	卷六教師用	一〇〇大	一〇七
尋常小學校	複式編制學校教師用甲	二五〇大	二六三
尋常小學校	複式編制學校教師用乙	二五〇大	二六三
尋常小學校	乃至第四學年教師用甲	一一〇大	二八
尋常小學校	乃至第四學年教師用乙	一一〇大	二八
尋常小學校	卷一兒童用	〇三〇大	一〇七
尋常小學校	卷二兒童用	〇四〇大	一〇七
尋常小學校	卷三兒童用	〇五〇大	一〇七
尋常小學校	卷四兒童用	〇六〇大	一〇七

書	目	定 價	告 示
同	卷五兒童用	〇六〇大	二〇八
同	卷六兒童用	〇六〇大	二〇八
同	複式編制學校兒童用甲	〇三〇大	一六三
同	複式編制學校兒童用乙	〇三〇大	一六三
同	同第一學年兒童用	〇四〇大	一四三
同	同第二學年兒童用	〇四〇大	一四三
同	同第三、四學年兒童用甲	〇四〇大	一四三
同	同第三、四學年兒童用乙	〇四〇大	一四三
同	第二學年用第十八天集陸下	〇八〇大	二八
同	第二學年用	〇八〇大	二八
同	複式編制學校用甲	一、八〇〇大	二八
同	複式編制學校用乙	一、九〇〇大	二八
同	複式編制學校用甲	二、〇〇〇大	二八
同	複式編制學校用乙	二、〇〇〇大	二八
同	卷一	〇六〇大	二八
同	卷二	〇七〇大	二八
同	卷三	〇七〇大	二八
同	卷四	〇八〇大	二八
同	卷五	〇八〇大	二八
同	卷六	〇八〇大	二八
同	卷七	〇八〇大	二八
同	卷八	〇八〇大	二八

●小學校教科用圖書用紙標準

文部省告示第七號(明治三十六年五月二十七日)

(沿革)明治三十七年六月文部省告示第一三四號、同年一〇月同第一八四號、

四一年八月同第二一七號改正

【小學校教科用圖書翻刻發行規則】ニ依リ翻刻發行ヲ許可スヘキ圖書ノ用紙ニ關シ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教科用圖書用紙標準

- 第一條 小學校教員用又ハ兒童用教科書ニ機械濾紙ヲ用フルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ
 - 一 用紙ノ原料ハ木綿、蠶、化學的木材纖維ノ内ヲ擇フヘシ摺漬木材質ハ用フヘカラス
 - 二 用紙中ニ混入スル白土等ハ其ノ重量ノ百分ノ十五ヲ超過スヘカラス
 - 三 用紙ハ松脂糊(ロジンサイズ)ヲ十分ニ施セルモノタルヘシ
 - 四 用紙ノ重量ハ一平方尺ニツキ兩面摺用紙ハ一匁九分以上、片面摺用紙ハ一匁一分以上タルヘシ
 - 五 紙力ハ幅一寸長七寸五分ニテ兩面摺用紙ハ十七ポンド以上、片面摺用紙ハ十四ポンド以上タルヘシ
- 第二條 小學校教員用又ハ兒童用教科書ニ手漉紙ヲ用フルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ
- 一 用紙原料ハ楮皮、三椏皮、葛、化學的木材纖維ノ内ヲ擇フヘシ摺漬木材質ハ用フヘカラス

△學

第二項第三項ノ用紙ハ紙面緻密ニシテ印刷ニ必要ナル光澤ヲ備フルコトヲ要ス

第五條 小學校教科用圖書ノ表紙ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

- 一 用紙ノ原料ハ楮皮、三椏皮、蠶、化學的木材纖維(用紙全體ニ對シテ)ノ内ヲ擇フヘシ但シ手漉貼合紙ノ内部ニ用フルモノハ此限ニアラス
- 二 用紙ノ厚ハ機械濾紙ハ一匁六毛以上、手漉紙ハ一匁二毛以上タルヘシ
- 三 紙力ハ幅四分五厘長六寸五分ニテ機械濾紙ハ三十ポンド以上、手漉紙ハ三十五ポンド以上タルヘシ
- 四 用紙ハ松脂糊(ロジンサイズ)ヲ十分ニ施セルモノタルヘシ但シ手漉貼合紙ハ此限ニアラスト雖モ澱粉糊ヲ十分ニ施シ剝離ノ虞ナキモノタルヘシ
- 五 用紙ハ堅實ニシテ折目ヨリ脆裂ヲ生セス表面緻密ニシテ纖維ノ剝脫セサルモノタルヘシ
- 六 用紙ニ厚六厘以上ノ堅實ナル板紙ヲ用フルトキハ前各條ニ依ラサルコトヲ得但シ其表裏ニ貼合スヘキ用紙ノ原料ハ仍第一號規定ノモノタルヘシ

○明治四十一年文部省告示第二百十七號附則

本標準ハ明治四十二年度用圖書ノ新ニ翻刻發行スヘキ分ヨリ施行ス但シ既ニ製造準備中ニ係ルモノハ明治四十二年度用ニ限リ從來ノ標準ニ依ルモ妨ナシ

●採定小學校教科用圖書紙質印刷等ノ標準ニ供用ノ爲檢印付與

文部省告示第二百十一號(明治三十四年十二月八日)

地方廳ニ於テ小學校令第二十四條ノ審判用ニ供シ又ハ既ニ採定セル小學校

- 二 用紙中ニ白土等ヲ混入スヘカラス
 - 三 用紙ノ重量ハ一平方尺ニツキ五分以上タルヘシ
 - 四 紙力ハ幅一寸長七寸五分ニテ十三ポンド以上タルヘシ
- 第三條 小學校教授用掛圖ニ機械濾紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二匁五分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ポンド以上トスル外第一條ニ準ス但シ幾何畫教科書說明ノ部ハ用紙ノ重量及紙力ニ關シテモ仍第一條ニ準ス
- 小學校圖書教科書ニ機械濾紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二匁二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ポンド以上トスル外第一條ニ準ス
- 小學校地理附圖ノ地圖用紙ニ機械濾紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ポンド以上トスル外第一條ニ準ス
- 第二項第三項ノ用紙ハ紙面緻密ニシテ印刷ニ必要ナル光澤ヲ備フルコトヲ要ス

第四條 小學校教授用掛圖ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ九分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十七ポンド以上トスル外第二條ニ準ス

小學校圖書教科書ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ二分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十五ポンド以上トスル外第二條ニ準ス但シ幾何畫教科書說明ノ部ハ用紙ノ重量及紙力ニ關シテモ仍第二條ニ準ス

小學校地理附圖ノ地圖用紙ニ手漉紙ヲ用フルトキハ用紙ノ重量ヲ一平方尺ニツキ七分以上、紙力ヲ幅一寸長七寸五分ニテ十五ポンド以上トスル外第二條ニ準ス

教科用圖書ノ紙質印刷等ノ標準ニ供センカ爲地方廳又ハ圖書發行者ノ請求アリタルトキハ本省ニ於テ其圖書ニ檢印ヲ與フヘシ

●小學校教科用圖書供給上取締方

文部省令第四號(明治三十五年二月十四日)

小學校教科用圖書ノ發行者ニ於テ採定セラレタル圖書ノ供給ヲ怠リ又ハ之ヲ拒否シタル事實アルトキハ其ノ情狀ニ依リ文部大臣ハ該圖書又ハ該發行者ノ發行ニ係ル小學校教科用圖書ノ全部ノ檢定ヲ無效トシ又其ノ發行ニ係ル小學校教科用圖書ヲ檢定セサルコトアルヘシ

●教科用圖書檢定規則

文部省令第二號(明治二十年五月七日)

(沿革)明治二十五年三月文部省令第三號、同年四月同第五號、二八年五月同第三號、二九年四月同第五號、三〇年一〇月同第一八號、三二年四月同第二三號、同年一月同第四〇號、三九年七月同第一二號、四〇年一〇月同第三一號改正

明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ヲ廢シ師範學校小學校及中學校教科用圖書ノ檢定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

教科用圖書檢定規則

第一條 教科用圖書ノ檢定ハ(師範學校令)中學校令高等女學校令小學校令及規則ノ旨趣ニ合シ教科用ニ適スルコトヲ認定スルモノトス

本規則ニ於テ教科用圖書ト稱スルハ師範學校中學校高等女學校ニ關シテ前項ノ教師用圖書トシ小學校ニ關シテハ教師用圖書及兒童用圖書トス

等ヲ記載シタル圖書又ハ該圖書ニ附屬シテ兒童ニ示スヲ目的トスル掛圖類ヲ云フ

第二條 圖書ノ發行者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

第十一章 教科用圖書

外國ニ於テ發行シタル圖書ハ左ノ各條ノ一ニ當ルモノニ限リ發行者ニ於テ其圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

一 師範學校中學校又ハ高等女學校ニ於ケル英語獨語佛語ノ教科用ヲ目的トスルモノ

二 小學校ニ於ケル英語ノ教科用ヲ目的トスルモノ

第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ第一條第二項ノ掛圖類ハ二部ノ定價其ノ他ハ二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ文部省ニ納ムヘシ但檢定ヲ得タル後定價ヲ増加シタルトキハ本例ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ

定價ヲ記載セサル圖書ハ檢定セズ

第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中瑣少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其廉ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ

第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數、定價、目的トスル學校或學科ノ種類、版權免許又ハ發行ノ年月日或該圖書ニ記載スル著譯者及發行者ノ族籍住所姓名等ヲ廣告スヘシ

第六條 檢定ノ效力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告シタル定價、發行ノ年月日或著譯者及發行者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ效力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定出願者ニシテ檢定ヲ得マリシ事由ノ大要ヲ知ラントスルトキハ指令到達ノ日ヨリ六十日以内ニ願出ツヘシ

第九條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ノ半額ヲ納ムヘシ但第四條ノ指示ヲ受ケテ修

正ヲ加フル場合ハ此限ニアラス

第十條 圖書ノ發行者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變更アルニ會スルトキハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後ハ其願下ヲナストキ又ハ其他何等ノ事由アリトモ既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還付セサルモノトス

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖畫ヲ増減若クハ校訂シ又ハ枚數行數字體畫形ヲ變更シ又ハ檢定願書ニ添ヘ差出シタル圖書ニ比シ紙質印刷ヲ粗惡ニシ又ハ註解附錄序數ヲ加除若クハ變更スル場合ヲ包含スルモノトス

第十三條 第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ廉ヲ指示シタルトキハ一箇年以内ニ其廉ヲ修正シテ該圖書ノ檢定ヲ追願スヘシ此期限内ニ修正追願セサルトキハ該圖書ハ檢定ヲ與ヘズ

第十四條 檢定ヲ得タル圖書ハ每冊見易キ所ニ明治何年何月何日文部省檢定済何學校何學科用ノ文字ヲ記載スヘシ但小學校教科用圖書ニ在リテハ仍兒童用教師用ノ別ヲ附記スヘシ

第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定済其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ販賣シ又ハ情ヲ知リテ其圖書ヲ受託販賣スルコトヲ得ズ

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ二十五圓以内ノ罰金又ハ二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第十七條 圖書ハ其全部揃ヒタルモノニアラサレハ檢定セズ

第十八條 第六條第七條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定済其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ販賣シタルトキハ其檢定ノ效力ヲ取消スルコトアルヘシ

第十九條 第二條第二項ニ依リ檢定ヲ請フ者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ檢定ニ關スル一切ノ事項ヲ代理セシメンカ爲ニ帝國内ニ住所ヲ

有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

第二十條 代理人ヲ置ク場合ニ於テハ檢定出願ノ際委任狀寫ヲ差出スヘシ其外國語ヲ以テ認メタルモノニハ譯文ヲ添附スヘシ

第二十一條 第三條第一項及第九條ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第二十二條 檢定ヲ得タル圖書ノ出版ヲ止ムルカ爲ニ需要者ニ對シテ學年ニ供給スル能ハサル事情アルトキハ發行費ニ檢定済年月日ヲ具シ其ノ前年十月末日迄ニ文部省ニ届出ツヘシ

前項本文ノ届出ナクシテ圖書ノ供給ヲ怠ル者ハ供給スヘキ學年ノ始ヨリ起算シ五箇年間其ノ者ニ係ル圖書ノ檢定ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二十三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ甲號書式ニ依リ第十三條ニ依リ追願スル者ハ乙號書式ニ依リ又檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ丙號書式ニ依リ願出ツヘシ

○明治四十年文部省令第三十一號附則

第二十二條ハ明治三十三年三月末日以前ニ檢定ヲ受ケタル圖書ニハ之ヲ適用セズ

(乙號書式)

檢定出願

圖書ノ名稱	卷冊ノ記	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	修正發行ノ目的トスル學校
號數	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	年月日	學科ノ種類
號數	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	年月日	學科ノ種類

右ハ年月日附檢定願出候處年月日ノ御指示ニ基キ今般修正發行致候間御檢定相成度該圖書……部相添ヘ此段相願候也

年月日

文部大臣宛

住所

氏名

名印

(丙號書式)

修正檢定願

圖書ノ名稱	卷冊ノ記	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	修正發行ノ目的トスル學校
號數	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	年月日	學科ノ種類
號數	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	年月日	學科ノ種類

右ハ年月日檢定済ノ處修正發行致候間御檢定相成度該圖書……部及手数料金……相添ヘ此段相願候也

年月日

文部大臣宛

住所

氏名

名印

教科用圖書檢定規則中改正ノ件

文部省令第二十六號(明治三十二年四月五日)

明治三十年文部省令第十八號ハ同令施行前ニ發行シタル教科用圖書ニ關シテモ之ヲ適用ス但此省令ハ明治三十三年一月一日ヨリ施行ス

說明

檢定願

(印紙貼附ノ場所)

圖書ノ名稱	卷冊ノ記	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	發行ノ目的トスル學校
號數	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	年月日	學科ノ種類
號數	著譯者ノ姓名	發行者ノ姓名	年月日	學科ノ種類

右ノ圖書御檢定相成度該圖書……部及手数料金……相添ヘ此段相願候也

年月日

文部大臣宛

住所

氏名

名印

第十一章 教科用圖書

教科用圖書ノ紙質印刷ハ檢定出願ノモノヲ以テ標準トスヘキハ當然ノ事
項ナルニ拘ラス之ヲ供給販賣スルニ當リ紙質印刷ヲ粗悪ナラシムルコト
益々甚シキヲ加フルカ故ニ明治三十年文部省令第十八號ヲ以テ是等弊害
ノ取締ニ關シ嚴重ナル制裁法(罰金禁錮等)ヲ設ケタリ然レニ尙同令施行
前ノ檢定ニ係ル教科用圖書ノ紙質印刷ヲ粗悪ニシ檢定出願ノ圖書ニ比シ
殆ト別本ノ觀アルモノヲ供給販賣セルモノ少カラス是レ蓋シ同令カ既往
ニ過リテ效力ヲ有セサルカ爲ナラン而シテ今日府縣ニ於テ採用セル小學
校教科用圖書ハ省令第十八號施行前ニ檢定ヲ得タルモノ其大半ヲ占メ紙
質印刷等ニ對スル苦情益々多キニ際シ斯ル不正ノ所業ヲ防遏シ依テ以テ教
科用圖書ノ改良ヲ圖ルコトヲ得サルハ法令ノ效用ヲ完カラシムル所以ニ
アラス是レ此省令ヲ發布スルノ已ムコトヲ得サル所以ナリ然レトモ一朝
俄ニ此弊害ヲ除カントセハ爲ニ供給ノ不足ヲ來シ却テ弊害ヲ著大ナラシ
ムルノ憂ナシトセス即チ適當ノ猶豫ヲ與ヘテ此省令ヲ施行スル所以ナリ

●檢定出願教科用圖書定價標準

文部省告示第二十五號(明治四十四年八月二十四日)
自今檢定出願教科用圖書ノ定價ハ凡ソ左ノ標準ニ從フヘシ
小口一枚ニ付菊判金壹圓以内四六判金壹圓五毛以内但シ地圖圖書帖ハ小
口一枚ニ付菊判金壹圓以内四六判金壹圓五毛以内
前記ノ標準ニ依リ難キ場合ニハ豫メ見本ヲ文部省圖書局ニ差出シ許可ヲ受
ケテ定價ヲ定ムヘシ

**●檢定出願教科用圖書ノ文字印刷
等ニ關スル標準**

文部省告示第六十一號(明治三十一年十月十四日)
學生生徒ノ近視眼ヲ患フル者次第ニ増加スルハ教育上看過スヘカラサル所

ナリ而シテ其原因多カルヘシト雖モ日常誦讀スル圖書ノ文字印刷等衛生上
不適當ナルモノアルコト其ノ原因タラスンハアラス依テ今同學校衛生顧問
ニ諮詢シ檢定出願ノ教科用圖書ニ關シ左ノ標準ヲ定ム其他參考用圖書等ニ
關シテモ教師又ハ父兄ニ於テ十分ニ監督アランコトヲ望ム
檢定出願ノ教科用圖書ノ文字印刷等ニ關シテハ明治三十二年四月一日以後
左ノ標準ニ從フヘシ

一文字
甲 漢字及假名
師範學校中學校用ノモノ 凡明朝活字 四號(十四ポイント)ノ大
サ以上

乙 歐字
師範學校中學校用ノモノ 凡「バйка、オールドスタイル」(十二ポイ
ント)ノ大サ以上
師範學校中學校歐文教科用圖書中註解例題參照若クハ之ニ類スルモノ
ノ文字ハ凡「ロングブリマー、オールドスタイル」(十ポイント)マテヲ
用フルコトヲ得

師範學校中學校歐文教科用圖書中地圖繪畫表圖等ノ文字ハ凡「ミニオ
ン、オールドスタイル」(七ポイント)著色部ニハ「プレビア、オールド
スタイル」(八ポイント)マテヲ用フルコトヲ得
二教科用圖書ハ習字科用ノモノヲ除キ文字ト文字トノ間ニ凡當該文字ノ四
分ノ一以上ノ字間ヲ存スルヲ要ス

三教科用圖書ハ習字科用ノモノヲ除キ行ト行トノ間ニ凡當該文字ノ大サ以
上ノ字間ヲ存スルヲ要ス

上ノ行間ヲ存スルヲ要ス

歐文ニアリテハ師範學校中學校用ノモノハ凡曲尺一分以上ノ行間ヲ存ス
ルヲ要ス
四教科用圖書中各行ノ長サ(輪廓アルモノハ其輪廓トモ)ハ習字科用ノモノ
ヲ除キ縱行ノモノニアリテハ小學校用ノモノハ凡曲尺五分以下其他
ノモノハ凡曲尺五分以下橫行ノモノ若クハ歐文ノモノニアリテハ凡曲尺
三寸三分以下タルヲ要ス

五教科用圖書ノ用紙ハ白色ニシテ光澤ナク其實強靱ナルヲ要ス且成ルヘク
裏面ノ文字若クハ圖書ノ表面ニ透ラサルモノヲ選フヘシ
六印刷ハ其墨色眞黒ナルヘキハ勿論著色ノ部分ト雖モ區畫整正ニシテ鮮明
ナルヲ要ス
七掛圖ハ凡五間ノ距離ニ於テ其記載ノ事物ヲ明瞭ニ識別シ得ルヲ要ス
八高等女學校教科用圖書ハ之ヲ用フヘキ學年ニ應シ師範學校中學校ノ例ニ
準スヘシ

**●檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教
科用圖書有效ノ件**

文部省令第三號(明治二十年五月七日)
明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科
用圖書ハ本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則ニ依リ檢定シタルモノ
ト同一ノ效ヲ有スルモノトス

**●教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文
法上許容スヘキ事項**

文部省告示第五十八號(明治三十八年十二月二日)
教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項ヲ定ムルコト左ノ如シ

文法上許容スヘキ事項

一 「居リ」恨ム「死ヌ」ヲ四段活用ノ動詞トシテ用キルモ妨ナシ
二 「シク、シキ」活用ノ終止言ヲ「アシシ」「イサマシシ」ナド用キル習慣
アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
三 過去ノ助動詞「キ」ノ連體言「シ」ヲ終止言ニ用キルモ妨ナシ

例
火災ハ二時間ノ長キニ互リテ鎮火セザリシ
金融ノ靜謐ナリシ割合ニハ金利ノ引強ヲ見ザリシ
四 「コトナリ」(異)ヲ「コトナレリ」「コトナリテ」「コトナリタリ」ト用キル
モ妨ナシ
五 「ハ、セサス」トイフベキ場合ニ「セ」ヲ略スル習慣アルモノハ之ニ從フ
モ妨ナシ

例
手習サス
周旋サス
實買サス
六 「ハ、セラル」トイフベキ場合ニ「ハ、サル」ト用キル習慣アルモノハ之
ニ從フモ妨ナシ
例
罪サル
評サル
七 「得シム」トイフベキ場合ニ「得セシム」ト用キルモ妨ナシ

例
最優等者ニノミ褒賞ヲ得セシム
上下賤ノ別ナク各其地位ニ安ズルコトヲ得セシムベシ

八 佐行四段活用ノ動詞ヲ助動詞ノ「シ・シカ」ニ連ネテ「暮シシ時」過シシカ「」ナドイフベキ場合ヲ「暮セシ時」過セシカバ「ナドトスルモ妨ナシ」

九 唯一通ノ通告ヲ爲セシニ止マレリ
攻撃開始ヨリ陥落マテ僅ニ五箇月ヲ費セシノミ
てにをばノ「」ハ動詞、助動詞ノ連體言ヲ受ケテ名詞ニ連續スルモ妨ナシ

十 花ヲ見ルノ記
學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ
市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラズ
疑ノてにをばノ「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ

十一 父ニ似タルヤ母ニ似タルヤ
てにをばノ「トモ」ノ動詞、使役ノ助動詞、及、受身ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

十二 てにをばノ「ト」ノ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ

十三 月出アルト見エテ
嘲弄セラルト思ヒテ
終日業務ヲ取扱ハシムルトイフ
萬人皆其徳ヲ稱ヘケルトゾ
語句ヲ列擧スル場合ニ用キルてにをばノ「ト」ハ誤解ヲ生ゼザルトキニ限リ最終ノ語句ノ下ニ之ヲ省クモ妨ナシ

十四 宗教ト道徳ノ關係
京都ト神戸ト長崎ヘ行ク
最終ノ「ト」ヲ省クトキハ誤解ヲ生ズベキ例
史記ト漢書①ノ列傳ヲ讀ムベシ
史記ト漢書ノ列傳②ヲ讀ムベシ
上ニ疑ノ語アルトキニ下ニ疑ノてにをばノ「ヤ」ヲ置クモ妨ナシ

十五 誰ニヤ問ハン
幾何ナルヤ
如何ナル故ニヤ
如何ニスベキヤ
てにをばノ「モ」ハ誤解ヲ生ゼザル限リニ於テ「トモ」或ハ「ドモ」ノ如ク用キルモ妨ナシ

十六 何等ノ事由アルモ(アリトモ)講場ニ入ルコトヲ許サズ
期限ハ今日ニ迫リタルモ(タレドモ)準備ハ未ダ成ラズ
經過ハ頗ル良好ナリシモ(シカドモ)昨日ヨリ聊カ疲勞ノ狀アリ

誤解ヲ生ズベキ例

請願書ハ會議ニ付スルモ(ストモ)之ヲ朗讀セズ
給金ハ低キモ(ケレドモ)應募者ハ多カルベシ
十六 「トイフ」トイフ語ノ代リニ「ナル」ヲ用キル習慣アル場合ハ之ニ從フモ妨ナシ

例
イハニル哺乳獸ナルモノ
顔回ナルモノアリ
理由書

國語文法トシテ今日ノ教育社會ニ承認セララルモノハ徳川時代國學者ノ研究ニ基キ專ラ中古語ノ法則ニ準據シタルモノナリ然レドモ之ニノミ依リテ今日ノ普通文ヲ律センハ言語變遷ノ理法ヲ輕視スルノ嫌アルノミナラズコレマテ破格又ハ誤謬トシテ斥ケラレタルモノト雖モ中古語中ニ其用例ヲ認メ得ベキモノ尠シトセズ故ニ文部省ニ於テハ從來破格又ハ誤謬ト稱セラレタルモノノ中慣用最モ弘キモノ數件ヲ擧グ之ヲ許容シテ在來ノ文法ト並行セシメンコトヲ期シ其許容如何ヲ國語調査委員會及高等教育會議ニ諮問セシニ何レモ審議ノ末許容ヲ可トスルニ決セリ依テ自今文部省ニ於テハ教科書檢定又ハ編纂ノ場合ニモ之ヲ應用セントス

師範學校中學校高等女學校教科用圖書檢定方

文部省告示第五十九號(明治三十一年十月七日)
師範學校(尋常)中學校高等女學校教科用圖書ノ檢定ハ自今其圖書ノ組織程度分量記事ノ性質誤謬ノ多少等ニツキ大體ノ調査ヲ爲スニ止ムルモノトス

檢定ヲ行ハサル教科用圖書

第十一章 教科用圖書

●文部省告示第二百一十一號(明治三十三年十月十三日)
郷土史談及郷土地理ニ關シテハ自今教科用圖書ノ檢定ヲ行ハス但シ一地方ノ地理ニシテ教員用若ハ教授用ヲ目的トスル圖書ハ此ノ限ニアラズ

●文部省告示第六十二號(明治三十七年八月二十六日)
師範學校高等女學校國語科中學校國語漢文科ノ作文ニ關シテハ自今出願ノ教科用圖書ニ對シ檢定ヲ行ハス

●文部省告示第十一號(明治三十八年一月十四日)
師範學校高等女學校修身科ノ作法ニ關シテハ自今其教科用ヲ目的トスル圖書ニ對シ檢定ヲ行ハス

中學校及高等女學校教科書ニ付 稟申方

文部省訓令第三號(明治三十二年四月一日)
北海道廳 府縣

中學校及高等女學校教科書ニシテ明治三十二年勅令第二十八號中學校令第十二條第一項但書及同年勅令第三十一號高等女學校令第十三條第一項但書ニ依ルノ必要アルトキハ地方長官ハ該教科書ノ名稱、著作者及發行者ノ氏名、發行年月日、卷冊ノ記號ヲ記載シ文部大臣ニ稟申スヘシ但稟申ノ際該圖書一部ヲ納付セシムルコトアルヘシ

文部省版權所有ノ圖書翻刻出版ニ關スル規定

文部省令第二十二號(明治二十七年八月十一日)
文部省版權所有ノ圖書ノ翻刻出版ニ關シ規定スルコト左ノ如シ
第一條 文部省版權所有ノ圖書ハ其ノ種類ニ依リ明治二十七年十二月十一日以後此ノ省令ノ規定ニ依リ廣ク翻刻出版ヲ許可スヘシ但翻刻出版ヲ許

可スヘキ圖書ノ名目ハ官報ヲ以テ公告スヘシ

第二條 翻刻出版ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ其圖書ノ名目及翻刻出版シテ

發賣スヘキ定價ヲ具シ文部大臣ニ願出ヘシ

前項及其ノ他此ノ省令ノ條項ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ總テ地

方長官ヲ經由スヘシ

第三條 翻刻出版ノ圖書ハ紙質脆弱又ハ粗惡ナルヘカラス印刷鮮明ニシテ

製本堅固ナルヲ要ス

第四條 翻刻出版ノ圖書ハ文字ノ大小字體圖書冊數枚數及每行ノ字數

ハ原本ト異ナルヘカラス但圖書ノ種類又ハ部分ニ依リ本文ノ制限ニ依ラ

サラントスルトキハ見本ヲ添ヘテ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 翻刻出版ノ圖書ハ每冊ニ翻刻出版許可ノ年月日ヲ明記スヘシ

第六條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後定價ヲ變更セントスルトキハ豫メ文部

大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 翻刻出版ノ圖書ハ見本三部ヲ文部省ニ差出シ検査ヲ受クヘシ其ノ

検査ヲ經タル後ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス改版シタルトキモ亦同

第八條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後三箇月ヲ經テ出版セサルトキハ翻刻出

版許可ノ效ヲ失フ

第九條 翻刻出版者ニ於テ定價ヲ超ニタル價格ヲ以テ其ノ圖書ヲ發賣シ又

ハ文部省ノ検査ヲ經タル見本ト異ナルモノヲ發行シ其ノ他前諸條ノ規定

ニ背クトキハ文部大臣ハ何時ニテモ翻刻出版ノ許可ヲ取消スヘシ

第十條 前諸條ニ依ルノ外文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ翻刻出版者

ヲシテ特ニ契約書ヲ差出サシメ相當ノ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘ

シ

第十一條 地方長官ハ其ノ管内ニ行ハル、翻刻出版ノ圖書ヲ監視シ若シ此

ノ省令ノ規定ニ背クモノアルトキハ文部大臣ニ報告スヘシ

△學1

第十二章 學校ノ認定、指定

●公立私立學校認定ニ關スル規則

文部省令第三十四號(明治三十二年六月二十八日)

(沿革)明治三十四年三月文部省令第五號、三十六年八月同第三〇號、三十七年

三月同第一號、四〇年十一月同第三三號、四三年六月同第一五

號、大正二年三月同第七號、同年八月同第二五號改正

公立私立學校認定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 公立私立學校認定ニ關スル規則

中學校ト同等以上トシテ文部大臣ノ認定ヲ受ケントスルトキハ公立學校

ニ在リテハ其管理者、私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ記

載シタル書類ヲ添ヘ申請スヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若

クハ其認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 名稱

二 位置

三 學校ノ沿革

四 學則

五 學校長、學校長ナキトキハ其設立者ノ履歷

六 教員ノ氏名、資格、學業經歷分擔學科及專任兼任ノ區別

七 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數

八 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況

九 校地、校舎及寄宿舎ノ圖面

十 經費及維持ノ方法

十一 教科書目錄

十二 教科用器具、器械及標本目錄

△學1

特別ノ規定アル場合ヲ除ク外學則ニ規定スヘキ事項ニ關シテハ中學校令施行規則第五十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ申請ニ基キ文部大臣ニ於テ認定ヲ爲スヘキ學校ハ其管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 專門學校(別科ヲ除ク)及實業專門學校(別科ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ入學者ハ中學校ヲ卒業シタル者、專門學校令第五條ノ檢定ニ合格シタル者、又ハ當該學校ノ豫科ヲ修了シタル者タルコト

二 實業學校ニ在リテハ甲種實業學校若ハ之ト同等以上ノ學科程度ヲ具ヘ修業年限三箇年以上ノモノ

三 其ノ他ノ學校ニ在リテハ其ノ學科程度、入學規則、編制及設備等中學校ノ規定ニ準スルモノ

前項第三號ノ學校ニ在リテハ其ノ教員全數ノ三分ノ一以上ハ專任タルヘク且中學校ノ程度ニ準シ中學校ト同種ノ學科目ヲ教授スル教員ニ就キテハ中學校ノ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數之ヲ有スル者ノ數ヲ超過スルヲ得ス

專門學校及實業專門學校ニ於テ中學校ト同等程度ノ豫科ヲ置キタル場合ハ前項ノ要件ニ適合スルモノタルヘシ

第三條 文部大臣又ハ地方長官ハ必要ト認メタルトキハ主務官吏ヲシテ認定ヲ受ケタル學校ノ入學試驗ニ立會ハシメ又ハ入學試驗問題及其答按ヲ査閲セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ試驗ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該官吏ハ其變更ヲ命スルコトヲ得

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ名稱、位置、學則、生徒定員、校地、校舍及學校維持ノ方法ヲ變更セントスルトキ若ハ特別ノ事情ニ依リ第二條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ難キトキハ公立學校ニ在リテハ其管理

者私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ又ハ文部大臣ニ届出ツヘキ事項ニ關シテハ各々其規定ニ依ルヘシ

設立者變更ノ場合ニ於テモ前項ノ規定ニ依ルヘシ

第五條 中學校令施行規則第三十四條、第三十九條第二項、第四十八條、第五十一條及第五十二條ノ規定ハ認定ヲ受ケタル學校ニ關シテ之ヲ準用ス

第六條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條ノ規定ニ該當セサル生徒ヲ入學セシムルトキハ其生徒ニ特別ノ名稱ヲ附シ且其學籍簿ヲ別冊トナスヘシ但認定ノ效力ハ本文ノ生徒ニ及ハス

前項ノ生徒ニ關シテハ第五條ノ表簿ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 (削除)

第八條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シ又ハ其成績不良ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向テ其認定ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 此規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ其書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

附則

第十條 本令ハ明治三十二年七月十五日ヨリ施行ス

第十一條 明治二十六年文部省令第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 本令施行前ニ爲シタル認定ハ尙其效力ヲ有ス但本令ニ抵觸スル事項アルトキハ當該學校ニ於テ本令施行ノ日ヨリ六箇月内ニ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ修正スヘシ

○明治四十三年文部省令第十五號附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ既ニ認定ヲ受ケタル學校ニ對シテモ之ヲ適用ス

△學1

●文官任用令上學校認定ニ關スル件

文部省令第二號(大正四年二月八日)

文官任用令上學校認定ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 大正三年十二月一日以前ニ於テ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタル學校ニシテ未タ文官任用令ニ依リ認定ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ニ於テ

文官任用令ニ依リ之ヲ認定ス

前項ニ依ル認定ノ效力ハ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタル時ニ遡ル

第二條 大正三年十二月一日以前ニ於テ文官任用令ニ依リ認定ヲ受ケタル學校ニシテ其ノ認定前既ニ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタルモノニ在リテハ

文官任用令ニ依リ認定ノ效力ハ徵兵令ニ依リ認定ヲ受ケタル時ニ遡ル

第三條 前二條ニ依リ認定ノ效力ハ徵兵令ニ依リ認定ニ於テ除外シタルモノニ及ハス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

△學1

四十二年告示第二百一十一號ヲ以テ「認定ノ效力ハ大學別科生ニ及ハス」ヲ加フ	微	二	七	二	四
東京法學院 但シ認定ノ效力ハ普通生ニ及ハスニ 十二年十月「英吉利法律學校」ヲ改稱	微	二	八	九	五
△元私立東京法學院大學 三十八年八月告示第四百十號ヲ以テ「東京法學院」ヲ改稱三 門科別科生及研究科別科生ニ及ハス」ヲ加フ三十八年告示第九十五號ヲ以テ「認 定ノ效力ハ補修學生及外國語專修科學生ニ及ハス」ヲ加フ	微	二	九	九	一六
△私立中央大學 三十八年八月告示第四百三十號ヲ以テ「私立東京法學院大學」ヲ改稱	微	二	九	九	一六
△東京佛學校法律科 二十二年九月「私立東京法學院」ト 合併「私立和佛法律學校」ト爲ス	微	二	九	九	一六
和佛法律學校 但シ認定ノ效力ハ 專修生ニ及ハス	微	二	九	九	一六
△私立法政大學 三十六年八月告示第五百七號及第五百十八號ヲ以テ「和佛法律 及聽講生ニ及ハス」三十八年告示第五百十二號ヲ以 テ「認定ノ效力ハ外國語專修科生ニ及ハス」ヲ加フ	微	二	八	九	六
△元東京法學校 二十二年九月「私立東京佛學校」ト 合併「私立和佛法律學校」ト爲ス	微	二	八	九	六
△元東京專門學校 但シ認定ノ效力ハ甲種生ニ及ハス本校ハ法律學科ノミ認定シタルヲ 效力ハ甲種生ニ及ハス」三十四年四月告示第六十三號ヲ以テ「同校全部認定但シ認定ノ 二種生ニ及ハス」ト追加三十五年九月私立早稻田大學ト爲ス	微	二	八	九	六
△私立早稻田大學 三十五年九月私立東 京專門學校ヲ改稱	微	二	八	九	六
元私立專修學校 但シ認定ノ效力ハ普通生及員外生ニ及ハス三十七年四月告示第七十 二月告示第二百五號ヲ以テ「認定ノ效力ハ普通生及聽講生ニ及ハス」ト改ム三十七年 所生徒ニ及ハス」ヲ加フ三十八年告示第六十七號ヲ以テ「認定ノ效力ハ特別科 生ニ及ハス」ヲ加フ三十九年告示第八十號ヲ以テ「認定ノ效力ハ專門部 普通科、高等專攻部普通科、商業實務講習科及財務官講習科ニ及ハス」ヲ加フ	微	二	八	九	六

學了

△私立專修大學 大正二年七月十一日「私 立專修學校」ヲ改稱	微	二	七	一	一七
△元私立水産講習所 三十一年 十月廢止	微	二	九	一	一七
△私立慶應義塾 三十三年三月告示第五十號ヲ以テ「普通科高等科大學部」ノ九字削除 ハス」ヲ加フ三十九年四月告示第九十一號ヲ以テ「認定ノ效力ハ大學院學生ニ及 一號ヲ以テ「別科生ニ及ハス」ヲ加フ	微	二	九	一	一七
△私立都立館中學校 三十三年十二月告示第二百三十六號ヲ以テ認定取消三十四年十 二月二十七日私立 中學部文館ヲ改稱	微	三	三	一	二六
私立日本中學校	微	三	三	一	二六
元私立明治議會中學校 三十三年十二月告示第二百三十六號ヲ 以テ認定取消明治三十九年三月廢止	微	三	三	一	二六
私立錦城中學校	微	三	三	一	二六
私立麻布中學校	微	三	三	一	二六
私立正則中學校	微	三	三	一	二六
私立攻玉社中學校	微	三	三	一	二六
私立京北中學校	微	三	三	一	二六
私立立教學院立教中學校	微	三	三	一	二六
元私立日比谷中學校 三十八年告示第四百十九號ヲ以テ三十九年三月三十一日限閉鎖 及ハス」	微	三	三	一	二六
私立京華中學校	微	三	三	一	二六
△元私立真宗東京中學 三十七年十月告示第八十二號 ヲ以テ同年八月三十一日限廢校	微	三	三	一	二六
私立大成中學校 三十八年告示第六十七號ヲ以テ三十九年三月三十一日限認定取消 ヲ加フ四十一年三月告示第 百十五號ヲ以テ更ニ認定	微	三	三	一	二六

第十二章 學校ノ認定、指定

私立東京中學校 三十八年告示第四百七十七號ヲ以テ三十九年三月三十一日限認定取消
フ四十二年四月告示第百五十三號ヲ以テ更ニ認定

私立早稲田中學校

元哲學館 但シ認定ノ效力ハ特別生ニ及ハス

△元私立哲學館大學 三十六年十月告示第百八十四號ヲ以テ「私立哲學館」ヲ三十七年四月二日ヨリ「私立哲學館大學」ト改稱三十七年四月告示第七十號ヲ以テ「認定ノ效力ハ大學部別科生、專門部別科生及豫科生ニ及ハス」又三十八年告示第七十二號ヲ以テ「第二種生ニ及ハス」ヲ加フ

△私立東洋大學 三十九年六月告示第百四十九號ヲ以テ「私立哲學館大學」ヲ改稱

△私立明治學院中學部 大正四年二月十五日私立明治學院普通學部ヲ改稱

△私立明治學院高等學部 但シ認定ノ效力ハ特別生ニ及ハス

元日本法律學校 但シ認定ノ效力ハ正科生、副科生、普通研究科生ニ及ハス三十四年十二月告示第百二十四號ヲ以テ但書中「研究科生」ノ下ニ「第一種高等師範科生及撰科生」ノ十三字追加三十五年二月告示第三十四號ヲ以テ但書ヲ「認定ノ效力ハ正科生、高等專攻科、溫習生、副科生、普通研究科生、第一種高等師範科生、撰科生、第一種高等豫備科生、高等豫備科撰修生、同溫習生、第一種高等法學科生ニ及ハス」ト改正三十六年八月告示第百四十四號ヲ以テ「高等專攻科」ヲ「專門部高等專攻科」ト改稱「高等師範科」ヲ「高等師範部」ト改ム

△私立日本大學 三十六年十月告示第百四十四號ヲ以テ「私立日本法律學校」ヲ改稱三十七年四月告示第七十二號ヲ以テ「第一種大學部生」ノ下ニ「外國語專修部生」ヲ追加三十七年四月告示第七十二號ヲ以テ三十九年告示第百八十三號中但書ヲ「但シ認定ノ效力ハ特別生、撰修科生、撰科生、溫習科生、聽講生、外國語專修部生ニ及ハス」ト改ム三十九年一月告示第十號ヲ以テ「認定ノ效力ハ大學部商科附屬殖民科生ニ及ハス」ヲ加フ四十年四月告示第

徽 三三 四 一六 一一四

徽 三三 四 二四 一二七

徽 三三 五 九 一四二

徽 三三 二 二二 一六二

徽 三三 一 二二 一七二

徽 三五 四 二九 一六一

徽 三五 一 七一

徽 三三 八 二七 一八三

徽 三三

立

百五號ヲ以テ「認定ノ效力ハ專門科豫科生ニ及ハス」ヲ加フ

元淨土宗高等學院 但シ認定ノ效力ハ高等正科第二部生ニ及ハス又三十四年九月以後部生ノ下ニ「及高等豫科生」ヲ加フ

元私立淨土宗大學院 三十七年五月告示第百七號ヲ以テ淨土宗高等學院ヲ改稱京都府京都市上京區ニ私立淨土宗大學院專門科、京都市芝區ニ私立淨土宗大學院傳道部ト稱スル分枝ヲ設置ス又同年告示第百八號ヲ以テ「但シ認定ノ效力ハ豫科生及別科生ニ及ハス」ト改ム

元私立淨土宗大學 三十七年十月告示第百八十號ヲ以テ私立淨土宗大學院ヲ改稱京都市上京區ニ設置セシ私立淨土宗大學院專門科ヲ「私立淨土宗大學專門科」東京市芝區ニ設置セル「私立淨土宗大學傳道部」ヲ私立淨土宗大學傳道部ト改稱三十八年三月私立淨土宗大學傳道部ヲ廢止

△私立宗敎大學 四十年三月私立淨土宗大學ヲ改稱京都府分枝ヲ設置ス四十年四月告示第百四十六號ヲ以テ三十七年告示第百八號中「豫科生」ヲ削ル四十年五月告示第百四十六號ヲ以テ「但シ認定ノ效力ハ豫科第二部生ニ及ハス」ヲ加フ

元私立國學院 但シ認定ノ效力ハ普通本科及普通撰科生ニ及ハス三十四年十一月告示第百九十五號ヲ以テ但書中「及別科生」ニ及ハスト追加三十六年十月告示第百九十九號ヲ以テ但書中「研究科」種生ニ及ハスト追加三十七年四月告示第百九十九號ヲ以テ三十四年告示第二號中但書ヲ「但シ認定ノ效力ハ研究科乙種生、師範部國語漢文歷史科乙種生、專修部乙種生及速成科生ニ及ハス」ト改ム

△私立國學院大學 三十九年六月告示第百三十五號ヲ以テ國學院ヲ改稱四十年九月告示第百五十三號ヲ以テ「認定ノ效力ハ乙種生及撰科生ニ及ハス」ヲ加フ

元私立眞宗大學 三十七年二月告示第百三十三號ヲ

元臺灣協會學校 以テ「臺灣協會專門學校」ト爲ス
元私立臺灣協會專門學校 三十七年四月ヨリ「臺灣協會學校」ヲ改稱四十年一月告示第百二十一號ヲ以テ「東洋協會專門學校」ト爲ス

徽 三三 一一 二八 二三五

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

徽 三四 一 四 二

- △元私立東洋協會專門學校 四十年二月ヨリ「臺灣協會專門學校」ヲ改稱
- △私立東洋協會植民專門學校 大正四年八月ヨリ「東洋協會專門學校」ヲ改稱
- 私立曉星中學校
- △私立青山學院中學部 大正四年三月私立青山學院中等科ヲ改稱
- △私立青山學院高等科 但シ認定ノ效力ハ乙種生ニ及ハス三十七年二月告示第三十一號ヲ以テ「認定ノ效力ハ種生」ヲ「別科生」ニ改ム四十二年二月告示第四十種生及別科生ニ及ハス」ヲ加フ
- △私立青山學院高等學部 大正四年三月「青山學院高等科」ヲ改稱
- 元私立青山學院神學科 但シ認定ノ效力ハ別科生及聽講生ニ及ハス四十五年五月告示「但シ認定ノ效力ハ研究科生ニ及ハス」ヲ加フ
- △私立青山學院神學部 大正四年三月「青山學院神學科」ヲ改稱
- 元私立佛敎高等中學 但シ認定ノ效力ハ第二部生ニ及ハス三十四年四月以後入學シタト爲ス
- △元私立高輪佛敎大學 三十五年五月ヨリ「佛敎高等中學」ヲ改稱三十七年三月告示第六十一號ヲ以テ三十七年三月十五日限廢止
- △私立大倉商業學校本科
- △元新義眞言宗豐山派 高等中學林 三十六年十一月告示第二百十二號
- △私立豐山中學校 豐山派 高等中學林 三十七年一月ヨリ「新義眞言宗豐山派 高等中學林」ヲ改稱

學

- 私立東京開成中學校
- △私立高輪中學校 「私立模範佛敎中學」ヲ三十五年五月ヨリ「私立第一佛敎中學」ト改稱三十九年四月ヨリ組織ヲ變更シテ中學校令ニ依リ改稱
- △私立早稻田實業學校 四十五年三月告示第七十九號ヲ以テ「但シ認定ノ效力ハ夜學部生ニ及ハス」ヲ加フ
- △私立京華商業學校初 私立京華商業學校本科ニ對シテ認定 三十七年告示第百六十九號ヲ以テ「本科」ノ「字」ヲ削ル
- △私立東京慈惠會醫院醫學專門學校 三十六年十月告示第百八十七號但書追加「但シ示第百六十九號ヲ以テ「東京慈惠醫院醫學專門學校」ヲ改稱
- △私立東京農業大學 四十一年二月告示第四十一號ヲ以テ「大日本農會附屬私立東京農業大學」ト改稱四十四年十一月「私立東京高等農學校」ヲ改稱四十四年十一月十六日告示第百五十四號ヲ以テ「認定ノ效力ハ選科生及聽講生ニ及ハス」ヲ加フ
- △私立曹洞宗第一中學林 但シ認定ノ效力ハ三十六年十二月十日以前ニ入學シタル生徒ニ及ハス
- △私立天台宗中學 但シ認定ノ效力ハ三十六年十二月十八日以前ニ入學シタル生徒ニ及ハス三十九年十一月二十六日ヨリ「天台宗東部中學」ヲ改稱
- △私立天台宗大學 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス
- △私立日蓮宗大學 初「日蓮宗大學林專門科、高等科、中學科」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス四十四年四月告示第百七號ヲ以テ「日蓮宗大學林」ヲ改稱同年同月告示第百八號ヲ以テ「認定ノ效力ハ研究院生及別科生ニ及ハス」ト改ム
- △私立曹洞宗大學 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年一月「曹洞宗大學林」ヲ改稱
- △元東洋商業專門學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス四十四年七月限廢校
- △私立中央商業學校

學

第十二章 學校ノ認定、指定

私立順天中學校	私立順天中學校	三七〇ノ一二
△私立麻布歌醫產科學校ニ及ハス明治四十四年七月十日私立麻布歌醫學校ヲ改稱ス	△私立麻布歌醫產科學校ニ及ハス明治四十四年七月十日私立麻布歌醫學校ヲ改稱ス	徵三八 一 二三 一九
△私立專門學校東京三一神學校 但シ認定ノ效力ハ別科生及傍聴生ニ及ハス三十九年八月「私立東京三一神學校」ヲ改稱ス	△私立專門學校東京三一神學校 但シ認定ノ效力ハ別科生及傍聴生ニ及ハス三十九年八月「私立東京三一神學校」ヲ改稱ス	徵三八 三 一〇 四一
△私立東京學院	△私立東京學院	徵三九 一 二二 四
△元淨土宗第一教區宗學教授 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス	△元淨土宗第一教區宗學教授 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス	徵三九 三 二二 二七
△私立芝中學校 淨土宗第一教區宗學教授ニ對スル認定ノ效力ヲ三十九年四月ヨリ移轉セシム	△私立芝中學校 淨土宗第一教區宗學教授ニ對スル認定ノ效力ヲ三十九年四月ヨリ移轉セシム	徵三九 三 二二 五五
△私立聖公會神學院 六號ヲ以テ「別科生」ヲ「撰科生」ト改ム四十四年七月「私立聖公會神學院」ヲ改稱ス	△私立聖公會神學院 六號ヲ以テ「別科生」ヲ「撰科生」ト改ム四十四年七月「私立聖公會神學院」ヲ改稱ス	徵三九 一〇 一二 一八八
△私立立教學院立教大學 但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス四十四年十一月告示第二種生ニ及ハス	△私立立教學院立教大學 但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス四十四年十一月告示第二種生ニ及ハス	徵四一 三 九 七三
△私立明治學院神學部 但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	△私立明治學院神學部 但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	徵四一 五 六 六一
△私立慶應義塾商工學校	△私立慶應義塾商工學校	徵三九 一 二 六 二〇六
私立聖學院中學校	私立聖學院中學校	徵四〇 六 一五 一八二
△私立東京商科醫學專門學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス四十四年七月告示第二號ヲ以テ但書ニ「研究科生ニ及ハス」ヲ加フ	△私立東京商科醫學專門學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス四十四年七月告示第二號ヲ以テ但書ニ「研究科生ニ及ハス」ヲ加フ	徵四〇 一〇 二六 二六七
私立日本體育會在原中學校	私立日本體育會在原中學校	徵四〇 一 一 三 二七八
私立海城中學校	私立海城中學校	徵四一 四 二八 一五三
△私立豊山大學 但シ別科生並ニ研究科生ニ及ハス	△私立豊山大學 但シ別科生並ニ研究科生ニ及ハス	徵四二 二 一六 三一
△私立錦城商業學校	△私立錦城商業學校	徵四二 二 二六 四四

第十二章 學校ノ認定、指定

府立	府立	三七〇ノ一三
△私立東洋商業學校 四十四年三月二十一日告示第七十五號ヲ以テ認定ノ效力ハ夜學專修科生ニ及ハス	△私立東洋商業學校 四十四年三月二十一日告示第七十五號ヲ以テ認定ノ效力ハ夜學專修科生ニ及ハス	徵四二 二 二六 四三
△私立東京歌醫學校 四十二年十月告示第二百七十三號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス	△私立東京歌醫學校 四十二年十月告示第二百七十三號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス	徵四二 五 一七 一六五
△私立日本商科醫學專門學校 但シ認定ノ效力ハ別科生及研究科生ニ及ハス	△私立日本商科醫學專門學校 但シ認定ノ效力ハ別科生及研究科生ニ及ハス	徵四二 一 二 二九 三〇六
△私立京北實業學校	△私立京北實業學校	徵四二 一 二 二八 三〇四
私立目白中學校	私立目白中學校	徵四四 四 七 一一七
私立日本濟美學校中學部	私立日本濟美學校中學部	徵四四 四 七 一一七
△私立日本體育會體操學校 但シ認定ノ效力ハ「普通科生」ニ及ハス	△私立日本體育會體操學校 但シ認定ノ效力ハ「普通科生」ニ及ハス	徵四四 四 七 一一六
私立高千穂中學校	私立高千穂中學校	徵四四 九 一五 二二八
△私立日本歌醫學校 四十五年四月告示第三百三十三號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ附屬工科生ニ及ハス	△私立日本歌醫學校 四十五年四月告示第三百三十三號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ附屬工科生ニ及ハス	徵四四 九 一五 二二七
△私立東京神學社神學專門學校 但シ認定ノ效力ハ聽講生ニ及ハス	△私立東京神學社神學專門學校 但シ認定ノ效力ハ聽講生ニ及ハス	徵四五 三 八 五二
△私立日本醫學專門學校	△私立日本醫學專門學校	徵大正 二 一八 二二
△私立上智大學	△私立上智大學	徵二 二 一八 二二
私立明治大學附屬明治中學校	私立明治大學附屬明治中學校	徵三 一 一 一四四
△京都府立醫學專門學校 三十六年六月告示第二百二十八號ヲ以テ三十八年六月三十日ヨリ「京都府醫學專門學校」ヲ改稱四十年三月告示第九十八號ヲ以テ「認定ノ效力ハ研究科生ニ及ハス」ヲ加フ	△京都府立醫學專門學校 三十六年六月告示第二百二十八號ヲ以テ三十八年六月三十日ヨリ「京都府醫學專門學校」ヲ改稱四十年三月告示第九十八號ヲ以テ「認定ノ效力ハ研究科生ニ及ハス」ヲ加フ	徵明治 二 五 九 三
△京都府立農林學校 三十一年四月以後ノ入學生ニ限ル三十四年二月告示第二十九號ヲ以テ但書ニ「認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス」ト追加三十七年二月告示第三十二號ヲ以テ「京都府立農林學校」ヲ三十七年四月ヨリ改稱ス	△京都府立農林學校 三十一年四月以後ノ入學生ニ限ル三十四年二月告示第二十九號ヲ以テ但書ニ「認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス」ト追加三十七年二月告示第三十二號ヲ以テ「京都府立農林學校」ヲ三十七年四月ヨリ改稱ス	徵文 三 一 六 二 二六

第十二章 學校ノ認定、指定

三七二

又私立臨濟宗大學 四年九月「私立花園學院高等部」獨立改稱

徴 四一 二一〇 三三

又私立眞宗大谷大學 四十四年九月東京府ニ設置シタル「私立眞宗大學」ノ位置ヲ京都市ニ變更シ同時ニ改稱

徴 三三 二二八 三六

又私立大日本武徳會武術專門學校 別科生ニ及ハス

徴 四五 二二三 三六

財團法人私立東山中學校

徴 四五 二二七 九〇

元私立高等學院 別科生ニ及ハス

徴 四五 五三一 一四八

又△私立佛敎專門學校 大正二年四月五日「私立高等學院」ヲ改稱

徴 大正 元正 八六 一

元私立眞宗學院 大正三年六月二十五日廢止

徴 三 四一一 七〇

又私立眞智宗智山派私立大學智山勤學院 別科生ニ及ハス

徴 明治 二 五九 三

元大阪府立高等醫學學校 初「大阪醫學學校」ニ對シテ認定三十六年九月告示第六十七號改稱但シ認定ノ效力ハ

徴 二 二九 六〇

研究別科生ニ及ハス

徴 二九 六七 二五四 一六〇

△府立大阪醫科大學 大正四年十月二十七日「大阪府立高等醫學學校」ヲ改稱

徴 三四 一一一 二〇八

又大阪府立農學校 三十七年三月告示第六十二號ヲ以テ但

徴 三四 一一一 二〇八

市立大阪高等商業學校元甲種科 初「甲種商業科」ニ對シテ認定三十八年告示第五十九號ヲ以テ學科名改稱四十五年三月廢止

徴 文 三 四 一一一 二〇八

市立大阪工業學校本科

徴 文 四 二 四 一一一 二〇一

市立大阪甲種商業學校

徴 文 四 五 三 一一九 六〇

大阪府

私立

又市立大阪高等商業學校 二十三年二月「大阪府立大阪商業學校」ヲ市立ニ變更認定三十八年告示第六十四號ヲ以テ改稱三十七年三月告示第六十四號ヲ以テ「認定」ノ效力ハ豫科生ニ及ハスト追加三十八年告示第五十九號ヲ以テ「甲種商業科」ヲ「甲種科」ト改ム四十五年三月甲種科廢止

徴 文 二 二 六 七 二 一九 六 九

又私立大阪商業學校 三十六年十二月告示第二百三十號ニ依リ三十七年四月三十日限認定ノ效力ヲ受クルノ限ニテ三月二十六日以後ニ入學シタル生徒ハ

徴 三 四 四 一〇 九二

元私立明星商業學校

徴 三 五 三 三一 五九

元私立關西法律學校 但シ認定ノ效力ハ第二種本科生及第二種高等科生ニ限ル三十七年一月告示第一號ヲ以テ「認定」ノ效力ハ別科生、別科研究生及撰

徴 三 五 五 二〇 九七

又△私立關西大學 三十八年一月關西法律學校ヲ改稱三十八年告示第二號ヲ以テ「認定」ノ效力ハ外國語專修科生ニ及ハス又同年告示第十六號ヲ以テ「認定」ノ效力ハ外國語專修科生ニ及ハス

徴 三 七 四 一六 九四

私立桃山中學校

徴 三 七 四 一六 九四

又元私立大阪三一神學校 但シ認定ノ效力ハ三十七年十二月十九日以前ニ入學シタル生徒並ニ別科生聽講生ニ及ハス大正四年九月十一日廢止

徴 三 七 一一九 一九九

又私立淨土宗 第七教區聯合教校 但シ認定ノ效力ハ

徴 三 九 三 二 二八

又私立成器商業學校 三十九年六月ヨリ「私立大阪城南商業學校」ヲ改稱四十四年十二月二十七日告示第二百六十四號ヲ以テ「認定」ノ效力ハ第二部生

徴 三 九 五 八 一一〇

又財團法人私立大阪大倉商業學校

徴 四 三 九 六 二一〇

私立上宮中學校

徴 大 正 三 三 二六 八七

又私立關西甲種商業學校

徴 大 正 三 三 三 三 三九

第十二章 學校ノ認定、指定

三七三

新 潟 縣		郡		立	
縣	立	元新潟縣十日町染織學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス初「中魚沼郡立中魚沼染織學校」ニ對シテ認定四十年四月ヨリ縣立ニ變更改稱四十二年三月廢止	徵文	三七 一 一九 一三
縣	立	元新潟縣立能生水産學校	但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス	文徵	四四二 二 三 一三 一五七
縣	立	新潟縣立工業學校	別科生ニ及ハス	徵文	四三 二 一四 二五
縣	立	元中頸城中學校	三十二年四月縣立ニ變更	徵	二七 三 七 二
縣	立	元長岡中學校	同上	徵	二七 三 七 二
縣	立	元佐渡中學校	同上	徵	三一 八 二六 四九
縣	立	元新潟縣北魚沼郡立小千谷中學校	大正三年三月縣立ニ變更	徵	二 四 八 九八
縣	立	元新潟縣西頸城郡立糸魚川中學校	同上	徵	二 四 八 九八
縣	立	元新潟縣西蒲原郡立卷中學校	同上	徵	二 四 八 九八
町	立	元高田中學校	高等中學校科則大綱ニ依リタルモノニ限ル	文	二九 六 二六 七
市	立	長岡市立商業學校	同上	徵文	四四 一 二 二七 二六 三
組合	立	元北蒲原中學校	三十三年三月郡立ニ變更同年四月縣立ニ變更	徵	三一 八 二六 四九
私	立	元私立有恒學舍	但シ認定ノ效力ハ農業實習科生及特別科生ニ及ハス	徵	三九 二 一〇 一七

學 7

埼 玉 縣		郡		立	
縣	立	埼玉縣立熊谷農學校	初「甲種熊谷農學校」ニ對シテ認定、但シ認定ノ效力ハ撰科生ニ及ハス三十六年三月告示第五十九號ヲ以テ改稱	徵文	三六 三 二 三 五六
縣	立	埼玉縣立川越染織學校	同上	文徵	四四二 二 三 一五〇 二七四
縣	立	秩父郡立農業學校	同上	徵文	三六 九 一五 一六三
縣	立	私立埼玉中學校	同上	徵	二七 七 一九 六

群 馬 縣		郡		立	
縣	立	元群馬縣立織物學校	（本科）三十二年四月町立ヲ縣立ニ變更三十八年四月「群馬縣立織物學校」ニ合併	徵文	三二 五 九 六七
縣	立	元群馬縣立伊勢崎染織學校	（本科）但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年四月「群馬縣立伊勢崎染織學校」ニ合併	文徵	三三 六 四 二〇 一四九
縣	立	群馬縣立中ノ條農業學校	三十二年四月「郡立吾妻農學校」ヲ縣立ニ變更改稱明治四十五年四月ヨリ改稱	徵文	三三 二 二 一四 二八
縣	立	群馬縣立工業學校	但シ認定ノ效力ハ別科生及講習生ニ及ハス	徵文	四五 二 二八 四六
縣	立	群馬縣立勢多農林學校	同上	徵文	四三 六 二四 一八九
縣	立	群馬縣立蠶絲學校	但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス	徵文	四三 四 九 八一
市	立	群馬縣高崎市立甲種商業學校	同上	徵文	四三 明 一 二五 一〇
私	立	元私立甲種高山社實業學校	本科	徵	三五 二 二七 三四
私	立	元千葉縣立茂原農學校	三十四年五月「千葉縣立農學校」ヲ改稱	文徵	三四 六 一五 一三〇
私	立	元千葉縣立高等園藝學校	同上	文徵	四五 二 一〇 一六二

第十二章 學校ノ認定、指定

〔千葉県立銚子商業學校〕

千葉県 町村組合立 元千葉県海上郡銚子町外二町五箇村組合立銚子中學校 四十四年四月一日限廢止

元私立佐倉中學校 三十二年四月 縣立ニ變更

私立成田中學校

元千葉県私立松戸中學校 四十二年三月三十一日廢校

茨城縣立農學校(本科、專攻)

茨城縣立商業學校

茨城縣立工業學校

元元鹿島郡立農學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十七年三月限廢止 月告示第五十七號ヲ以テ三十七年三月限廢止

〔栃木縣中學校元農業專修科 三十一年三月 專修科廢止〕

〔栃木縣立工業學校(別科) 除ク〕

〔栃木縣立農學校本科〕

〔栃木縣立商業學校〕

〔栃木縣下都賀郡立栃木農學校〕

〔私立下野中學校〕

〔私立鳥山中學校〕

奈良縣

縣

立

奈良縣立工業學校(初)本科ニ對シテ認定三十八年告示第四十七號ヲ以テ 本科ヲ削リ但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハスヲ加フ

徵文 三四 一二 二八 二二一

立

私立中學文武館

徵文 三五 五 一三 九二

立

三重縣立工業學校

徵文 三六 一一 一一 二二五

立

三重縣立四日市商業學校(初)本科ニ對シテ認定三十二年二月告示第二十四號ヲ以テ 日市市立商業學校(本科)ノ二字削除三十七年四月告示第七十五號ヲ以テ一四 四月ヨリ縣立ニ變更改稱

徵文 三〇 四 一 四

立

三重縣立農林學校(初)三重縣立農業學校ニ對シテ認定但シ認定 三 三重縣立鳥羽商船學校 但シ認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス 四 三重縣立立島商船學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス四十二年二月校名改稱

徵文 三八 三 二八 五七

立

〔元神宮皇學館(本科) 三十二年五月豫科廢止三十 元 元私立眞宗勸學院 六年九月ヨリ官立ト爲ル〕

徵文 三一 一二 二四 九五四

立

〔愛知縣立醫學專門學校(初)愛知醫學學校ニ對シテ認定三十六年七月告示第三百十七 元 元私立眞宗勸學院 六年九月ヨリ官立ト爲ル〕

徵文 三五 九 二〇 一六〇

立

愛知縣立工業學校 四十年三月告示第六十二號ヲ以テ但シ認定 愛知縣立農林學校 三十九年三月告示第五十九號ヲ以テ認定

徵文 三六 二 二四 三五

立

元名古屋商業學校 但シ二十年八月以後ノ規則ニ依リ 元 元古屋商業學校 但シ二十年八月以後ノ規則ニ依リ

徵文 三五 二 二四 三五

第十二章 學校ノ認定、指定

第十二章 學校ノ認定、指定

市 立 岐阜市立岐阜商業學校
町 立 大垣町立大垣商業學校

徴文 三九 一一 二一九九
徴文 四一 三一 一八九

長野縣

縣 立

長野縣立上伊那農業學校 三十五年告示第百十九號ヲ以テ「正科」ヲ創リ但書「但シ示第二十一號ヲ以テ郡立ヲ縣立ニ變更シ三十七年四月ヨリ改稱四十四年十一月「長野縣立上伊那甲種農業學校」ヲ改稱
長野縣立小縣農業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス又三十四年四月以後入學シ四年十一月「長野縣立小縣甲種農業學校」ヲ改稱
長野縣立木曾山林學校 三十九年四月ヨリ「郡立木曾山林學校」ヲ縣立ニ變更改稱
元諏訪中學校 三十二年十二月諏訪實科中學校ヲ改稱三十四年四月ヨリ縣立ニ變更
市立長野商業學校 大正二年四月改稱

徴文 三三 八 一七 一七九
徴文 三四 一二 二四 二一八
徴文 三一 二 一七 一
徴文 三七 四 一九 九五
徴文 三七 四 一九 九六

市 立 宮城縣立水産學校
縣 立 宮城縣立水産學校
宮城縣立小牛田農林學校 四十三年四月郡立達田郡甲種農學校ヨリ組織變更改稱認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス
宮城縣立工業學校

徴文 四一 三一 一六 八六
徴文 三五 七 二 二二四
徴文 四 一三〇 一〇

宮城縣

郡 立
市 立
私 立

元郡立牡鹿水産學校 三十七年十一月告示第百八十八號ニテ「但シ認定ノ效力ハ別科止限廢
元刈田郡立刈田中學校 四十三年四月ヨリ縣立ニ變更シ宮城縣立白石中學校ト爲ル
市立仙臺商業學校本科
市立東北學院中學校 大正四年五月私立東北學院普通科ヲ改稱
私立東北中學校
私立東北學院專門部 初「專門科」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十八年六月「專門部」ト改稱
私立曹洞宗第二中學校 但シ認定ノ效力ハ特種生ニ及ハス

徴文 三七 四 一二 九〇
徴文 三五 三 二二 五三
徴文 三五 一 一六 七
徴文 三六 一 二四 一四
徴文 三七 四 一四 九二
徴文 三八 三 一四 四三
徴文 三一 三 三〇 七六
徴文 三八 一 一八 一五
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四

福島縣

縣 立
私 立

福島縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス大正元年九月告示第十六號ヲ以テ工業學校染織科ヲ改ム
私立石川中學校
元巖手縣立醫學學校 三十二年四月廢止
巖手縣立農業學校 (農科) 三十四年六月巖手縣農學校ヲ改稱三十五年五月告示第九十九號ヲ以テ「養蠶科」ヲ追加
巖手縣立水産學校 但シ認定ノ效力ハ別科ニ及ハス
巖手縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ乙科別科補習科ニ及ハス

徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四
徴文 三三 三 二九 五四

第十二章 學校ノ認定、指定

第十二章 學校ノ認定、指定

郡立東磐井蠶業學校 別科生ニ及ハス

元青森縣專門學校本科

青森縣立畜産學校 (畜産科) 初「青森縣農學校 (農學科)」ニ對シテ 認定三十四年二月學科名改稱同年四月校名改稱

青森縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ木工科 生豆漆工科生ニ及ハス

青森縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ「別科生」ニ及ハス 大正二年四月ヨリ縣立ニ變更改稱

元青森縣南津輕郡立農學校

元弘前市立弘前中學東奧義塾 四十二年四月ヨリ縣立ニ變更シ青 森縣立弘前中學東奧義塾ト爲ル

山形縣立村山農學校 三十四年三月山形 縣農學校ヲ改稱

山形縣立庄内農學校 但シ認定ノ效力ハ農科 限ル別科ニ及ハス

山形縣立置賜農學校 但シ認定ノ效力ハ 農科 蠶科ニ限ル

元山形縣西村山郡立西村山中學校 四十二年 十月廢止

徵文 大正 四 一 三〇 一一

徵文 明治 二 九 一〇 一二 一九

徵文 三三 一 二七 一三

徵文 四四 八 一九 二二三

徵文 四四 八 一九 二二三

徵文 三九 一二 二五 二一八

徵文 三四 八 二六 一六四

徵文 三二 一七 四七 一三三

徵文 三一〇 五五 二九 一八四

徵文 三四 一〇 一一 一八三

徵文 三四 一〇 一一 一八三

秋田縣

立

秋田縣立秋田農學校 但シ認定ノ效力ハ農科 蠶科ニ及ハス

秋田縣立秋田工業學校 別科生ニ及ハス

秋田縣立農林學校

福井縣立福井農林學校 本科及補習科 初「福井縣農學校本科」ニ對シテ認定三十六年四 月告示第七十四號ヲ以テ「本科」ヲ「本科及補習 科」ニ改ム三十四 年六月校名改稱

福井縣立小濱水産學校 但シ認定ノ效力ハ別科生及明治三十五年度ニ 入學シタル第二學年、第三學年生ニ及ハス

福井市立福井商業學校

敦賀町立商業學校

立

元弘前市立第二佛敎中學 四十二年四月ヨリ私 立北陸中學校ト爲ル

元石川縣專門學校 (但シ附屬初等中學科) 及法學科兼科ヲ除ク

石川縣立工業學校 本科

石川縣立工業學校 補習科

石川縣立工業學校 元專攻科

石川縣立金澤商業學校 初「市立金澤商業學校」ニ對シテ 認定四十二年二月縣立ニ變更改稱

元大谷中學校 二十六年 六月廢止

徵文 二六 五 二二 一

徵文 三三 四 四 四四 四八

徵文 三三 四 四 四四 四八

徵文 三三 四 四 四四 四八

徵文 三三 四 四 四四 四八

徵文 四〇 五 一五 一六〇

徵文 四三 三 二四 九八

徵文 四二 九 九 二三七

徵文 四二 九 九 二三七

徵文 四二 九 九 二三七

徵文 四二 九 九 二三七

徵文 四二 九 九 二三七

徵文 二五 七 一五 六

石川縣

縣

立

石川縣立工業學校 本科

石川縣立工業學校 補習科

元大谷中學校 二十六年 六月廢止

福井縣

市

立

元弘前市立第二佛敎中學 四十二年四月ヨリ私 立北陸中學校ト爲ル

元石川縣專門學校 (但シ附屬初等中學科) 及法學科兼科ヲ除ク

石川縣立工業學校 本科

石川縣立工業學校 補習科

石川縣立工業學校 元專攻科

石川縣立金澤商業學校 初「市立金澤商業學校」ニ對シテ 認定四十二年二月縣立ニ變更改稱

青森縣

郡

立

元青森縣南津輕郡立農學校

元弘前市立弘前中學東奧義塾 四十二年四月ヨリ縣立ニ變更シ青 森縣立弘前中學東奧義塾ト爲ル

山形縣立村山農學校 三十四年三月山形 縣農學校ヲ改稱

山形縣立庄内農學校 但シ認定ノ效力ハ農科 限ル別科ニ及ハス

山形縣立置賜農學校 但シ認定ノ效力ハ 農科 蠶科ニ限ル

元山形縣西村山郡立西村山中學校 四十二年 十月廢止

元青森縣專門學校本科

青森縣立畜産學校 (畜産科) 初「青森縣農學校 (農學科)」ニ對シテ 認定三十四年二月學科名改稱同年四月校名改稱

青森縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ木工科 生豆漆工科生ニ及ハス

青森縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ「別科生」ニ及ハス 大正二年四月ヨリ縣立ニ變更改稱

元青森縣南津輕郡立農學校

元弘前市立弘前中學東奧義塾 四十二年四月ヨリ縣立ニ變更シ青 森縣立弘前中學東奧義塾ト爲ル

山形縣立村山農學校 三十四年三月山形 縣農學校ヲ改稱

山形縣立庄内農學校 但シ認定ノ效力ハ農科 限ル別科ニ及ハス

山形縣立置賜農學校 但シ認定ノ效力ハ 農科 蠶科ニ限ル

元山形縣西村山郡立西村山中學校 四十二年 十月廢止

元青森縣專門學校本科

青森縣立畜産學校 (畜産科) 初「青森縣農學校 (農學科)」ニ對シテ 認定三十四年二月學科名改稱同年四月校名改稱

青森縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ木工科 生豆漆工科生ニ及ハス

青森縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ「別科生」ニ及ハス 大正二年四月ヨリ縣立ニ變更改稱

元青森縣南津輕郡立農學校

元弘前市立弘前中學東奧義塾 四十二年四月ヨリ縣立ニ變更シ青 森縣立弘前中學東奧義塾ト爲ル

山形縣立村山農學校 三十四年三月山形 縣農學校ヲ改稱

山形縣立庄内農學校 但シ認定ノ效力ハ農科 限ル別科ニ及ハス

山形縣立置賜農學校 但シ認定ノ效力ハ 農科 蠶科ニ限ル

元山形縣西村山郡立西村山中學校 四十二年 十月廢止

元青森縣專門學校本科

青森縣立畜産學校 (畜産科) 初「青森縣農學校 (農學科)」ニ對シテ 認定三十四年二月學科名改稱同年四月校名改稱

青森縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ木工科 生豆漆工科生ニ及ハス

青森縣立農學校 但シ認定ノ效力ハ「別科生」ニ及ハス 大正二年四月ヨリ縣立ニ變更改稱

元青森縣南津輕郡立農學校

元弘前市立弘前中學東奧義塾 四十二年四月ヨリ縣立ニ變更シ青 森縣立弘前中學東奧義塾ト爲ル

山形縣立村山農學校 三十四年三月山形 縣農學校ヲ改稱

山形縣立庄内農學校 但シ認定ノ效力ハ農科 限ル別科ニ及ハス

富山縣

- 市
 - 市立富山商業學校 但シ認定ノ效力ハ簡易科生ニ及ハス三十五年四月告示第百五號ヲ以テ「認定ノ效力ハ乙種商業科生ニ及ハス」ヲ加フ
 - 市立高岡商業學校ノ效力ハ專修科生ニ及ハス三十四年四月改稱
- 町
 - 元富山縣射水郡新湊町立新湊甲種商船學校 但シ認定ノ效力ハ專修科ニ及ハス三十四年三月縣立ニ變更
- 縣立
 - 元富山縣立農學學校 但シ認定ノ效力ハ五號ヲ以テ「認定ノ效力ハ乙種商業科生ニ及ハス」ヲ加フ
 - 又富山縣立商業專門學校 別科生ニ及ハス

又富山縣立工業學校 初「富山縣工業學校本科」ニ對シテ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年九月告示第百九十九號ヲ以テ「本科」ノ二字削除但書ヲ加フ
 追加三十四年九月改稱

又富山縣立農學學校 初「富山縣農學學校本科」ニ對シテ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年四月告示第百三十四號ヲ以テ「本科」ノ二字削除但書ヲ加フ
 追加三十四年九月改稱

文	徵	徵	文	文	徵	文	文	文	文	文	文	文	文
大	四	三	二	二	四	四	三	三	三	四	四	三	二
正	四	二	四	二	三	三	二	二	一	二	二	一	二
三	三	二	二	二	二	三	三	三	三	三	三	三	二
三	二	二	二	二	二	三	三	三	三	三	三	三	二
五	三	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	二	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二
八	七	六	六	六	七	七	七	七	七	七	七	七	六
七	六	五	五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	五
七	六	五	五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	五
七	六	五	五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	五
九	八	七	七	七	八	八	八	八	八	八	八	八	七
八	七	六	六	六	七	七	七	七	七	七	七	七	六
二	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	一
九	八	七	七	七	八	八	八	八	八	八	八	八	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	一
九	八	七	七	七	八	八	八	八	八	八	八	八	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

鳥取縣

- 縣立
 - 鳥取縣立農林學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス三十四年三月告示第百五十二號ヲ以テ但書削除
 - 鳥取縣立商業學校 但シ認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス
 - 元鳥取縣立水産學校
 - 元鳥取縣立隱岐商船學校 四十四年三月三十一日限廢止
 - 元彌川中學校 三十四年四月縣立ニ變更
 - 元私立中學修道館 四十年四月廢止
- 町立
 - 元岡山縣立農學學校 初「農科」縣立ニ變更
 - 又岡山縣立商業學校
 - 又岡山縣立工業學校
 - 又岡山縣立兒島商船學校 但シ認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス大正二年四月ヨリ縣立ニ變更改稱
 - 又岡山縣立英田郡組合立農林學校 三十九年八月告示第百六十一號ヲ以テ認定ノ效力ハ別科ニ及ハス」ヲ加フ
- 郡組合立
 - 又岡田町立商業學校
- 私立
 - 私立關西中學校
 - 私立金川中學校
 - 私立中學開谷
 - 私立金光中學校
 - 私立天城中學校
 - 私立興徳館中學校
 - 私立吉備商業學校

徵	徵	徵	徵	徵	文	文	文	文	文	文	文	文	文
大	四	三	二	二	四	四	三	三	三	四	四	三	二
正	四	二	四	二	三	三	二	二	一	二	二	二	二
三	三	二	二	二	二	三	三	三	三	三	三	三	二
三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
五	三	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	一
三	二	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	一
八	七	六	六	六	七	七	七	七	七	七	七	七	六
七	六	五	五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	五
七	六	五	五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	五
九	八	七	七	七	八	八	八	八	八	八	八	八	七
八	七	六	六	六	七	七	七	七	七	七	七	七	六
二	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	一
九	八	七	七	七	八	八	八	八	八	八	八	八	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	一	一	一	一	二	二	二	二	二	二	二	二	一
九	八	七	七	七	八	八	八	八	八	八	八	八	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

廣島縣

縣	市	郡	私	立
				<ul style="list-style-type: none"> 廣島縣立尾道商業學校 初「廣島商業學校本科專攻科」ニ對シテ認定三十四年四月ヨリ改稱 廣島縣立廣島商業學校 但シ認定ノ效力ハ 廣島縣立商船學校 初「組合立廣島商船學校」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力ハ乙種航定ノ效力ハ專修科ニ及ハス」ヲ加フ 廣島縣立西條農學校 大正四年二月告示第十四號ヲ以テ「認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス」ヲ加フ 廣島縣立職工學校 但シ認定ノ效力ハ別科生及元徒弟學校ノ學則ニ依リテ在學スル生徒ニ及ハス
		元豐田中學校 立	立	三十二年七月町村組合立ヲ郡立ニ變更 三十三年四月縣立ニ變更
		元廣島縣吳市立吳中學校 立	立	四十四年二月縣立ニ變更
		元私立明道中學校 立	立	三十五年七月告示第二百二十六號ヲ以テ認定取消三十六年十二月告示第二百十四號ヲ以テ更正認定大正二年九月十八日認定取消
		私立日影館中學校 立	立	
		私立第四佛敎中學 立	立	
		私立廣陵中學校 立	立	
		元山口縣農學校 立	立	但シ「獸醫學」初「山口農學校」ニ對シテ認定三十二年三月告示第十四號ヲ以テ認定取消六月告示第十四號ヲ以テ認定取消
		山口縣立農學校 立	立	初「山口縣農學校第一部(農學科)」ニ對シ認定三十二年四月告示第十四號ヲ以テ認定取消三十四年五月校名改稱
				科「獸醫學科」ノ十字削除三十四年五月校名改稱

山口縣

縣	市	町村組合立	私	立
				<ul style="list-style-type: none"> 山口縣立大島商船學校 初「山口縣大島郡立大島海員學校航海學科、機關學科」ニ對シテ認定但シ認定ノ效力ハ專修科生ニ及ハス 山口縣立工業學校 大正三年三月限廢止 元市立下關商業學校 初「赤間商業學校」ニ對シテ認定三十五年四月告示第七十五號ヲ以テ但シ認定ノ效力ハ乙種商業科生ニ及ハス」ト追加三十五年六月改稱 元防府町外七箇村學校組合立周陽中學校 大正四年二月縣立ニ變更 元私立曹洞宗第四中學 立
				私立鴻城中學校 立
				財團法人私立興風中學校 立
				元和歌山縣立海草農林學校 認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス大正三年二月改稱
				和歌山市立和歌山商業學校 立
				元私立耐久中學校 初「私立耐久學舍」ニ對シテ認定四十年十二月告示第二九二號ヲ以テ私立耐久學舍ニ對スル認定ノ效力ハ明治四十一年一月一日ヨリ轉移
				元私立古義真言宗高野山中學 立
				元私立真言宗高野山大學 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス
				德島縣立工業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス四十四年三月二十一日告示第七十七號ヲ以テ認定ノ效力ハ
				德島縣立農業學校 但シ認定ノ效力ハ
				德島縣立商業學校 別科生ニ及ハス

第十二章 學校ノ認定、指定

德島縣

郡

立

元德島縣三好郡立三好農林學校 初「德島縣三好郡立三好農學校」ニ對シテ認定但シ認
四十二年四月ヨリ德島縣立
農業學校三好分校ト爲ル

徵文 三四 一二 二四 二一七
文 四二 九 八 二二六

香川縣

市

立

元市立高松商業學校 四十五年
三月廢止

徵文 三九 六 一 一二六
文 三四 一一 一六 一九八

又愛媛縣立農業學校 別科生ニ及ハス

愛媛縣立松山商業學校 初「愛媛縣立商業學校」ニ對
シテ認定三十九年四月改稱

愛媛縣立八幡濱商業學校 初「西字和郡立八幡濱商業學校」ニ對シ
テ認定三十九年四月縣立ニ變更改稱

愛媛縣立弓削商船學校 初「愛媛縣弓削郡弓削村外五箇村組合立弓削甲種商船學校」
ニ對シテ認定四十一年三月告示第百十二號ヲ以テ縣立ニ變更
稱改

立

愛媛縣東字和郡立農藝學校
周桑郡立周桑農藝學校

徵文 四一 一 二五 一七
文 四三 三 一二 七五
徵文 四三 三 一二 七五

△學7

學7

高知縣

市

立

市立高知商業學校本科

徵文 三七 一一 二五 一九〇
文 三二 五 二 六一

又福岡縣立福岡農學校

又福岡縣立福岡工業學校 但シ認定ノ效力ハ
元福岡縣立久留米工業學校 月限廢止

福岡縣立小倉工業學校

元嘉穗郡立嘉穗中學校 四十二年四月
縣立ニ變更

又久留米市立久留米商業學校本科

福岡市立福岡商業學校甲種商業科本科

又私立三井工業學校

又私立明治專門學校

又大分縣立農學校本科
又大分縣立農林學校 但シ認定ノ效力ハ
養蠶別科ニ及ハス

大分縣

郡

立

大分縣南海部郡立佐伯中學校

徵文 四一 一 二五 一七
文 四三 三 一二 七五
徵文 四三 三 一二 七五

佐賀縣	
縣立	佐賀縣立佐賀農學校 初「佐賀縣農學校」ニ對シテ認定三十四年六月改稱 元佐賀縣立佐賀工業學校 初「佐賀縣立工業學校」木工科、金工科ニ對シテ認定三十三年八月「木工科、金工科」ヲ削リ「但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス」ヲ加フ三十四年六月改稱三十九年四月佐賀縣立商船工業學校ニ合併 佐賀縣立有田工業學校 四十年二月告示第三十四號ヲ以テ「但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス」ヲ加フ 元佐賀縣立商船工業學校 初「佐賀縣立海員養成學校」ニ對シテ認定三十六年一月「佐賀縣立甲種商船學校」ト改稱三十九年四月縣立ニ變更シ縣立工業學校ヲ合併改稱四十四年四月ヨリ分裂シテ「佐賀縣立佐賀商船學校」及「佐賀縣立佐賀工業學校」ニ合併 佐賀縣立佐賀商船學校 佐賀縣立佐賀工業學校 佐賀市立佐賀商業學校 町村組合立 元東松海實科中學校 二十九年四月廢止 私立 元第五佛教中學 認定ノ效力四十二年三月私立龍谷中學校ニ移轉 私立龍谷中學校
市立	佐賀市立佐賀商業學校
町村組合立	元東松海實科中學校 二十九年四月廢止
私立	元第五佛教中學 認定ノ效力四十二年三月私立龍谷中學校ニ移轉 私立龍谷中學校
徵文	三一 六一 二二 二四 三一 六一 二二 二五 三六 六一 二二 一五 三五 七一 一八 一七 四三 四 一一 一一 四三 四 一一 一一 四三 八 二六 二〇七 二八 六 二六 四 三七 四 二九 一〇五 四一 三 二〇 九九

熊本縣	
縣立	熊本縣立阿蘇農業學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス 熊本縣立商業學校 初「熊本商業學校」ニ對シテ認定三十四年五月「熊本市立商業學校」ト改稱三十六年三月告示第五十八號ヲ以テ縣立ニ變更改稱三十八年告示第四十四號ヲ以テ認定ノ效力ハ豫科ニ及ハスヲ加フ 熊本縣立球磨農業學校 四十四年三月二十四日告示第八十八號ヲ以テ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハスヲ加フ
私立	元私立九州學院普通部 二十四年十一月濟々醫ヲ九州學院普通部ト改稱二十七年四月縣立ニ變更熊本縣中學校濟々醫ト改稱 私立熊本醫學專門學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス 私立鎮西中學校 私立九州藥學專門學校 但シ認定ノ效力ハ別科生ニ及ハス 私立九州學院
徵文	三五 三一 一〇 四一 三〇 五四 二二 一六 三八 四 一 六四 二〇 一〇 二〇 一一 三七 五 六 一一 四一 三 三 六五 四三 一二 二三 二四三 大正 二 一六 一九五

宮崎縣	鹿兒島縣	沖繩縣
郡	市	縣
立	立	立
<p>宮崎縣立農學校 三十八年告示第百三十四號ヲ以テ「認 定ノ效力ハ別科生ニ及ハス」ヲ加フ</p> <p>宮崎縣立湯郡立農業學校</p>	<p>鹿兒島縣立鹿屋農學校 本科 初「鹿兒島縣立農學校」ニ對シテ認定三十四年六月改稱三 十六年四月告示第九十號ヲ以テ本科ノ次ニ「專攻科及補 習科」ヲ追加</p> <p>鹿兒島縣立大島農學校 別科生ニ及ハス</p> <p>鹿兒島縣立商船水產學校 但シ認定ノ效力ハ專修科生 ニ及ハス四十二年二月改稱</p> <p>鹿兒島市立鹿兒島商業學校 本科 初「市立鹿兒島商業學校」ニ對シテ認定三十五年一月 告示第九號ヲ以テ「專攻科」ヲ加ヘ三十七年四月專攻 科廢止四十二年四月告示第 百四十九號ヲ以テ校名改稱</p> <p>沖繩縣立農學校 四十四年四月「國頭郡各村組合 立農學校」ヲ縣立ニ變更改稱</p> <p>沖繩縣立水產學校 但シ認定ノ效力ハ 「別科生」ニ及ハス</p>	<p>沖繩縣那覇區立那覇商業學校</p> <p>組合立 沖繩縣那覇區立農學校 初「開切島組合立」ナリシカ四 十一年「各村組合立」ト爲ル</p> <p>立 又東亞同文書院</p>
<p>文徵 三〇〇</p> <p>徵文 三三</p> <p>文徵 七四</p> <p>徵文 四</p> <p>文徵 二七〇</p> <p>徵文 二</p> <p>文徵 一七八</p>	<p>文徵 三七</p> <p>徵文 三三</p> <p>文徵 四四</p> <p>徵文 三三</p> <p>文徵 四四</p> <p>徵文 三六</p> <p>文徵 三三</p> <p>徵文 四四</p>	<p>文徵 三九</p> <p>徵文 四一</p> <p>文徵 一〇三</p> <p>徵文 一〇五</p> <p>文徵 一四七</p> <p>徵文 四〇</p>
<p>明治 三〇八</p> <p>七四</p> <p>二二二</p> <p>一七一</p>	<p>四</p> <p>一</p> <p>七九</p> <p>六六五</p>	<p>一〇三</p> <p>一四</p> <p>二四四</p> <p>二四九</p>
三九四		

△學?

學?

上支 海那私 立 又東亞同文書院

●私立醫學專門學校指定規則

文部省令第十二號(明治三十八年七月一日)

(沿革)明治三十九年一〇月文部省令第一六號、四〇年一月同第三四號改

私立醫學專門學校指定規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立醫學專門學校指定規則

第一條 私立醫學專門學校ニシテ醫師法第一條第一項第一號ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 現在生徒ノ學年及學級別人員

二 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況

三 教員ノ氏名、資格、擔當學科目及專任兼任ノ區別

四 教授用及實驗及實習用ノ器具、器械、標本及模型目錄

五 實習用患者ノ入院外來別現在人員數最近一箇年間各月ニ於ケル入院外來新來再來別日々平均人員

六 實習用解剖屍體ノ最近一箇年間實數

第二條 指定ヲ爲スヘキ學校ハ左ノ各號ニ該當シ文部大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績佳良ト認ムルモノニ限ル

一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル校舎、校具、病院其ノ他ノ設備アルコト

二 必修學科目トシテ少クモ解剖學、實習、生理學、病理學、藥物學、內科學、臨床講、外科學、臨床講、眼科學、臨床講、產科學、臨床講、衛生學、法醫學ヲ教授シ修業年限四箇年以上ナルコト

三 前號各學科目毎ニ少クトモ公立私立專門學校規程第七條第一項ノ資格ヲ有スル教員一人ヲ採用セルコト

四 專門學校トシテ認可ヲ受ケタル學則ヲ實施シタル後二箇年ヲ經過シタルコト

五 實習用患者ノ數ハ每學年ノ平均生徒數(本科生共)百人以内ノ學校ニ於テハ入院患者二十五人以上外來患者三十人以上トシ以上生徒十人ヲ増ス毎ニ入院患者外來患者各二人ヲ増スコト

六 實習用解剖屍體ノ數ハ每學年ノ平均生徒數(本科生共)百人以内ノ學校ニ於テハ毎年二十體以上トシ以上生徒十人ヲ増ス毎ニ一體ヲ増スコト

第三條 指定學校ニ於テ別科生等ヲ入學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トナスヘシ

第四條 指定學校ニ於テハ學則所定ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若ハ卒業セシムルコトヲ得ス

第五條 指定學校ニ於テ學年試驗若ハ卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 文部大臣ハ醫術開業試驗委員若ハ其ノ他ノ吏員ヲシテ試驗ニ立會ハシムルコトアルヘシ

前項委員若ハ其ノ他ノ吏員ニ於テ試驗問題若ハ試驗ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更シ若ハ變更セシムルコトアルヘシ

第六條ノ二 指定學校ハ本科ノ卒業試驗合格者ノ族籍、氏名、生年月及各學科目點數ヲ具シ試驗後運滯ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第七條 指定學校ハ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ第一條第一號第三號第五號第六號並ニ掲ケル事項ヲ具シ文部大臣ニ申報スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ申報スヘキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 當該年度經費預算ノ細目

- 二 前年中卒業生員數並卒業後ノ情況
- 第八條 指定學校ニシテ本令ニ違背シ若ハ第二條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不良ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ
- 第九條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス
- 地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ付シテ進達スヘシ
- 明治四十年文部省令第三十四號附則
- 明治十六年十月第三十五號布告醫師免許規則第三條ニ依リ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校ハ醫師法第一條第一項第一號ニ依リ指定シタルモノト看做ス

●公立私立齒科醫學學校指定規則

文部省令第十七號(明治三十九年十月三十日)

(沿革)明治四〇年三月文部省令第五號改正

公立私立齒科醫學學校指定規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

公立私立齒科醫學學校指定規則

第一條 公立私立齒科醫學學校ニシテ齒科醫師法第一條第一號ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニヨリ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 學校ノ沿革

二 位置

三 學則

四 教員ノ氏名、資格、學業經歷、擔當學科目及專任兼任ノ區別

第十二章 學校ノ認定、指定

- 五 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數
- 六 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況
- 七 校地校舎ノ圖面並其ノ所有ノ區別
- 八 經費及維持ノ方法
- 九 教授用及實習用ノ器具、器械、標本及模型目錄
- 十 最近一箇年間各月ニ於ケル實習用患者日々平均人員
- 第二條 指定ヲ爲スヘキ學校ハ左ノ各號ニ該當シ文部大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績佳良ト認ムルモノニ限ル
- 一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル校舎、圖書室、標本室、藥品室、器械室、實習室其ノ他ノ設備アルコト
- 二 本科生徒ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムルコト
- 三 必修學科目トシテ少クトモ(一)解剖學(二)生理學(三)病理學總論、診斷學大意(四)藥劑學(五)細菌學(六)外科學總論(七)齒科學ヲ教授シ修業年限三箇年以上ナルコト
- 四 齒科學ノ科目ハ少クトモ(一)齒科病理學(二)口腔外科學(三)齒科治療學(四)齒科技工學(五)矯正齒科學(六)齒科臨床講ヲ備フルコト
- 五 第三號ノ各學科目ニ對シ公立私立專門學校規程第七條第一項ノ資格ヲ有スル教員齒科學ニ少クトモ三人其ノ他ノ各學科目毎ニ少クトモ一人ヲ採用セルコト
- 六 開校以後二箇年以上ヲ經過シタルコト
- 七 實習用患者ノ數ハ每學年ノ平均生徒數(本科生共)五十人以内ノ學校ニ於テハ外來患者二十人以上トシ以上生徒十人ヲ増ス毎ニ外來患者四人ヲ増スコト

第三條 指定學校ニ於テ名稱、位置、學則、生徒定員、校地、校舍ヲ變更セントスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第四條 公立私立專門學校規程第六條、第十二條及第十三條並立私立醫學專門學校指定規則第三條乃至第六條及第八條ノ規定ハ指定ヲ受ケタル醫科醫學校ニ關シテ之ヲ準用ス

第五條 指定學校ハ本科ノ卒業試驗合格者ノ族籍、氏名、生年月及各學科目點數ヲ具シ試驗後遲滞ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 指定學校ハ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ第一條第四號、第九條第十號並立ニ掲ケル事項ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申スヘキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 現在生徒學年及學級別員數

二 當該學年ニ於ケル入學員數

三 當該年度經費豫算ノ細目

前項第一號及第二號ニ規定セル事項ハ指定ノ效力ヲ享クルモノトテケサルモノトニ區別シテ記載スヘシ

第七條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

私立藥學專門學校指定規則

文部省令第十九號(明治四十三年七月二日)

私立藥學專門學校指定規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 私立藥學專門學校ニシテ藥品營業並藥品取扱規則第四十六條第一

項ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 現在生徒ノ學年及學級別人員

二 卒業生ノ員數及卒業後ノ情況

三 教員ノ氏名、資格、擔當學科目及專任兼任ノ區別

四 教授用實驗及實習用ノ器具、器械、標本ノ目錄

第二條 指定ヲ爲スヘキ學校ハ左ノ各號ニ該當シ文部大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績優良ト認ムルモノニ限ル

一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル教室、圖書室、標本室、藥品室、製練室、器械室、實驗室、實習室、其ノ他ノ設備アルコト

二 必修科目トシテ少クトモ一外國語英語又ハ(一)化學理論及(二)藥物學(四)藥用植物學(五)分析化學(六)衛生化學(七)細菌學(八)裁判化學(九)生藥學(十)藥局方(十一)調劑學(十二)製藥化學(十三)藥品鑑定實習ヲ要スルコト

三 前號各學科目毎ニ少クトモ公立私立專門學校規程第七條第一項ノ資格ヲ有スル教員一人ヲ採用セルコト

四 專門學校トシテ認可ヲ受ケタル學則ヲ實施シタル後二箇年ヲ經過シタルコト

第三條 指定學校ニ於テ別科生等ヲ入學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トナスヘシ

第四條 指定學校ニ於テハ學則所定ノ授業日數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若クハ卒業セシムルコトヲ得ス

第五條 指定學校ニ於テ學年試驗若クハ卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ

三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 文部大臣ハ藥劑師試驗委員若クハ其ノ他ノ吏員ヲシテ試驗ニ立會ハシムルコトアルヘシ

前項立會員ニ於テ必要ト認ムルトキハ自ら試驗ヲ行ヒ又ハ試驗問題、試驗方法若クハ採點方法ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第七條 指定學校ハ本科ノ卒業試驗合格者ノ族籍氏名、生年月及各學科目點數及各學年ニ於ケル授業日數並出席日數ヲ具シ試驗後遲滞ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第八條 指定學校ハ毎年六月三十日ノ調査ニ依リ翌月中ニ第一條第一號第三號並立ニ掲ケル事項ヲ具シ文部大臣ニ申報スヘシ但シ特別ノ規程ニ依リ文部大臣ニ申報スヘキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 當該年度經費豫算ノ細目

二 前年中卒業生員數並卒業後ノ情況

第九條 指定學校ニシテ本令ニ違背シ若クハ第二條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不良ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第十條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ付シテ進達スヘシ

在外指定學校ニ關スル規程

文部省令第二十號(明治三十八年十一月八日)

(沿革)大正三年三月文部省令第六號改正

在外指定學校ニ關スル規程左ノ通相定ム

在外指定學校ニ關スル規程

第十二章 學校ノ認定、指定

第一條 在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ在外指定學校職員規程料及遺族扶助料法第一條ニ關シ指定ヲ受ケントスルトキハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ外務文部兩大臣ニ申請スヘシ

一 學校ノ名稱

二 學校ノ沿革

三 學則

四 職員ノ氏名及其ノ履歷書

五 現在生徒學年別及學級別人員

六 校地校舍及附屬會等ノ平面圖

七 經費及維持ノ方法

前項第一號第三號ノ變更ハ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第二條 學則ニ規定スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項

二 學科課程教授時數ニ關スル事項

三 生徒ノ入學、退學、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 授業料入學料等ヲ徵收スルトキハ之ニ關スル事項

五 寄宿舍ヲ設ケルトキハ之ニ關スル事項

第三條 第一條ノ申請ニ基キ外務文部兩大臣ニ於テ指定ヲ爲スヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具フルモノニ限ル

第四條 第一條ニ依リ指定セラレタル學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由並ニ生徒ノ處分方法ヲ具シ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 小學校ノ教科ヲ授ケル在外指定學校ノ指導ニハ小學校ノ正教員タルヲ得ヘキ免狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ

免狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ

學校長ヲ採用スルトキハ小學校ノ本科正教員タルヲ得ヘキ免狀ヲ有スル者タルヘシ

第十二章 學校ノ認定、指定

第六條 中學校、高等女學校ノ教科ヲ授ケル在外指定學校ノ教諭、助教諭ニハ中學校ノ教員免許狀又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ但シ高等女學校ノ教科ヲ授ケル學校ニ於テハ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採用スルコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ何等ノ名稱ヲ以テスルモ在外指定學校ノ職員ニ採用スルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復舊セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

三 懲戒ニ依リ免官者ハ免職ニ處セラレタル時二箇年ヲ經過セサル者

四 教員免許狀授受ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者

五 明治二十九年法律第八十號ニ依リ在留禁止ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ解禁後二箇年ヲ經過セサル者

六 性行不貞ト認ムヘキ者

第八條 在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ解カレタルモノトス

一 教員免許狀授受ノ處分ヲ受ケタルトキ

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 破産者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第九條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタル在外指定學校職員ノ退任ニ關シテハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ所管領事官ノ認可ヲ受ケヘシ但シ第十九條ノ命令ニ基キ解職スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタル在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所管領事官ハ之ニ依リ命スルコトヲ得但シ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタル者ニ就キテハ外務文部大臣ノ指揮ヲ受ケヘシ

其ノ解職ヲ命スルコトヲ得

第二十條 領事官ハ第十四條又ハ前條ニ依リ免職又ハ解職セラレタル者アルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ外務文部大臣ニ報告スヘシ但シ免職又ハ解職セラレタル者ニシテ教員免許狀ヲ有スルモノナルトキハ其ノ免許狀ノ寫ヲ添付スヘシ

第二十一條 在外指定學校職員ノ職務及俸給ニ關スル規程ハ所管領事官之ヲ定メ外務文部大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ學校ノ管理者又ハ設立者之ヲ定メ所管領事官ニ報告スヘシ

第二十三條 在外指定學校ハ居留民團法ニ依ル監督ノ外所管領事官及外務文部大臣ノ監督ヲ受ケヘキモノトス

第二十四條 在外指定學校ニシテ第三號ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ外務文部大臣又ハ所管領事官ノ爲ス命令ニ違背スルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第二十五條 本令ニ依リ學校ノ管理者又ハ設立者ヨリ外務文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ所管領事官ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十二章 學校ノ認定、指定

一 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサルトキ

二 傷疾者ハ疾病ニ罹リ職務ヲ行フニ妨ケアルトキ

三 支那人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ

四 刑事事件ニ關シテ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第十一條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタル在外指定學校職員ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然休職者トス

第十二條 休職ノ期間ハ第十條第一號乃至第三號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ第十一條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス但シ第十條第三號ノ場合ニ在リテハ所管領事官ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第十三條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ余ク之ヲ受ケザルノ外總テ本職者ト異ルコトナシ

第十四條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタル在外指定學校ノ職員ニシテ服務上ノ職務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ所管領事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ罰責、減俸及免職トス

第十五條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第十六條 文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタル在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス

第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケタル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス

第十九條 第十四條規定以外ノ在外指定學校ノ職員ニシテ同條ニ該當セル所爲アリト認メタルトキハ所管領事官ハ學校ノ管理者又ハ設立者ニ對シ

第十三章 學校衛生

●學校清潔方法

文部省訓令第一號(明治三十年一月十一日)

北海道廳 府縣

學校ノ清潔ハ衛生上忽ニスヘカラサル所ナルヲ以テ學校衛生顧問ニ諮詢シ左ノ通清潔方法ノ標準ヲ定ム依テ各學校ヲシテ之ニ準據シ其清潔ヲ保タシムルコトヲ務ムヘシ

學校清潔方法

清潔方法ヲ分チテ日常清潔方法定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲 日常清潔方法

一、教室及寄宿舎ハ毎日入ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及階段ヲ潤ホシ掛出シタル後濕布ヲ以テ建具校具等ヲ拭フヘシ但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤ホスハ生徒ノ再ヒ之ニ入ルマテニ充分乾燥シ了ルヲ度トスヘシ

二、教室及寄宿舎ニハ其人員ニ應ジ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ片紙其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシムヘカラス

三、寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用キル履物ヲ禁スヘシ但止ムヲ得サル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ

四、靴ノ塵昇校スル校舍ノ出入口ニハ人員ニ應ジ靴拭ヲ備フヘシ

五、寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆衣等ハ務メテ洗濯セシムヘシ

六、便所ノ尿溝及注槽等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ間房ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ桶箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クヘシ

七、糞室内ニハ防臭藥トシテ粗製過錳酸加里、粗製格魯兒滿他(以上百倍三)硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ期ヲ意ラズ汲取ラシムヘシ

八、食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭、煙氣又ハ湯氣ノ鬱滯ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルヘカラス殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓ヲ拭フヘシ

九、芥菜場ノ不潔物ハ期ヲ意ラズ搬送セシムヘシ

十、下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ

十一、庭園、體操場、遊戯場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ

乙 定期清潔方法

定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス

十二、先ツ教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、寢懸等ノ外シ敷物ヲ剝キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井、四壁、牀板、廊下等盡ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱油汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ

十三、簷下、牀下等モ手ノ届ク限リ之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簷廻リハ嘔吐水等ヲ以テ洗拭スヘシ

十四、寢具、寢懸、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ其洗濯シ得ヘカラルモノハ先ツ其塵ヲ掃ヒ書籍文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ

十五、器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカ

第一類 瘡癤及假痘 實布埤利亞 猩紅熱 發疹霍扶斯 ベスト
乙 百日咳 麻疹 流行性感冒 流行性耳下腺炎 風疹 水痘 肺結核 癩病

第二類 赤痢 虎列刺 腸室扶斯 パラチフス

第三類 傳染性皮膚病 傳染性眼炎

第二條 第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒ハ昇校スルコトヲ得ス

前項ノ職員生徒等其傳染病治癒シタル後昇校セントスルトキハ先ツ全身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス

第三條 第一條第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ其病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第四條 職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者、屍體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第五條 教員會監督學校内ニ於テ第一條ノ傳染病若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スヘシ學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシム相當ノ處置ヲナスヘシ

第六條 學校内、學校所在地及其近傍若クハ生徒進學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ全校若クハ

●學校傳染病豫防及消毒方法

文部省令第二十號(明治三十一年九月二十八日)

(沿革)明治三十二年一月文部省令第四四號、三十九年六月同第一一號、四年一月同第二號改正

學校傳染病豫防及消毒方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

學校傳染病豫防及消毒方法

其一 豫防方法

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第十三章 學校衛生

●學校傳染病豫防及消毒方法

文部省令第二十號(明治三十一年九月二十八日)

(沿革)明治三十二年一月文部省令第四四號、三十九年六月同第一一號、四年一月同第二號改正

學校傳染病豫防及消毒方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

學校傳染病豫防及消毒方法

其一 豫防方法

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ

其一部ヲ閉鎖スヘシ

第七條 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スヘシ但第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フヘシ

第八條 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間以内ニ其旨ヲ管理者ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ノ爲ニ閉鎖シタル學校若クハ其舍室ハ再ヒ之ヲ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スヘシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スヘシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體、第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圍房其他障壁、牀、疊、建具、寝具、器具等ハ石灰酸水ヲ以テ消毒スヘシ

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰ヲ以テ消毒シ強亞加加里反應ヲ呈スルニ至ルヘシ

三 食器、被服、寝具等ハ煮沸又ハ蒸汽消毒ニ附スヘシ

四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ焼却スヘシ

五 前各條ノ消毒ニ適セサルモノハ「フオルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルカ又ハ副溶シテ數日間日光ニ曝スヘシ

第十一條 消毒ニ供スル藥劑並其應用ハ左ノ如シ

一 石灰酸水(二十倍) 結晶石灰酸五分、鹽酸一分、水九十

本品ハ屍體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用フヘシ

二 生石灰末生石灰少量ノ水ヲ混キ崩壊セシメ本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フヘシ又消毒、芥子、牀下等ヲ消毒スルニ用フ

三 石炭乳(十倍) 生石灰一分、水九分、本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物、排泄物等ニハ其分量ノ四分ノ一以上ヲ用フ

四 格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分、水九十、格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

五 「フオルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルニハ消毒面又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付日本藥局方「フオルマリン」四十瓦以上ヲ噴霧スルカ又ハ適當ノ裝置ニ依リ「フオルムアルデヒド」五十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ但シ消毒面又ハ室ハ使用前約十二時間寒冷ニ保持スルコトヲ要ス若シ室ニ隣接アルトキハ昇氣流中ニ浸漬セル綿ヲ以テ之ヲ檢塞スヘシ

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

● 種痘法

法律第三十五號(明治四十二年四月十四日) 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル種痘法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

種痘法

ケシムルコト能ハサル場合ニ於テハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ其ノ事由ヲ具シ市町村長ニ報告ヲ申請スルコトヲ得

第八條 市町村長ハ第一期種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルニ至リタル者ヲ戶籍吏ニ通知シ戶籍吏ハ戶籍簿ノ欄外ニ符號ヲ以テ之ヲ記入スヘシ

第九條 市町村長ノ指定シタル日期ニ種痘ヲ受ケス其ノ他種痘ヲ怠リ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル未成年者アルトキハ市町村長ハ更ニ日期ヲ指定シテ種痘ヲ受ケシメ又ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第十條 種痘ヲ怠リタル者又ハ種痘ヲ受ケタル證據不明ナル者ノ定期外ニ受ケタル種痘ハ第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外其ノ定期種痘ト看做ス

第十一條 第五條ノ種痘ヲ受ケタル者ノ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ市町村長ノ指定シタル日期ニ於テ檢診ヲ受ケシムヘシ但シ其ノ期日ニ檢診ヲ受ケシムルコト能ハサル事由アルトキハ市町村長ニ届出ツヘシ

第十二條 醫師定期種痘ヲ施シタル者ヲ檢診シタルトキハ種痘證ヲ交付スヘシ

第十三條 醫師ハ其ノ診察ニ係ル痘瘡患者全治シタルトキ之ニ痘瘡經過證ヲ交付スヘシ

第十四條 當該吏員ノ請求アルトキハ保護者又ハ第三條ノ義務者ハ種痘證證又ハ種痘證ヲ提示セシムヘシ但シ命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三章 學校衛生

其一部ヲ閉鎖スヘシ

第七條 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スヘシ但第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フヘシ

第八條 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間以内ニ其旨ヲ管理者ニ届出ツヘシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スヘシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體、第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圍房其他障壁、牀、疊、建具、寝具、器具等ハ石灰酸水ヲ以テ消毒スヘシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スヘシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體、第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圍房其他障壁、牀、疊、建具、寝具、器具等ハ石灰酸水ヲ以テ消毒スヘシ

臨時種痘ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十六條 醫師處爲ノ種痘證ヲ交付シ又ハ檢診セスシテ種痘證ヲ交付シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ニ掲タル者ハ科料ニ處ス

一 第四條又ハ第十一條第一項ニ違反シタル者
二 保護者又ハ第三條ノ義務者ニシテ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ種痘ヲ受ケシメサル者

第十八條 第十二條又ハ第十四條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十九條 官廳公署及官立公立ノ學校等ニ於テハ第三條第一項及第四條第一項乃至第三項ノ規定ニ準シ其ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主、戸主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ謂フ

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

附則

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

種痘規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前數ハ七歳以前ニ種痘ヲ受ケタル者又ハ種痘ヲ受ケタルモ其ノ時期不明ナル者ハ本法ニ依リ第一期ノ種痘、數ハ八歳以後ニ種痘ヲ受ケタル者ハ第二期ノ種痘ヲ受ケタル者ト看做ス
本法施行前第一期ノ種痘定期ヲ經過シタル未成年者ニ付テハ第四條ノ規定ハ生來種痘ヲ受ケサルカ又ハ之ヲ受ケタル證據不明ナル者ニ關シテ之ヲ適用ス

種痘法施行規則

內務省令第二十六號(明治四十二年十二月二十一日)

種痘法施行規則左ノ通定ム

種痘法施行規則

第一條 市町村長ヲ以テ戶籍吏ニ充ツル市ニ於テハ區長、市制町村制ニ依リハ毎年三月ヨリ六月ニ至ル間ニ於テ現任人中左記各號ニ該當スル者ノ種痘期日ヲ指定スヘシ
一 前年中出生ノ者
二 數ハ十歳ノ者
三 前年ノ定期種痘不感ノ爲更ニ種痘ヲ要スル者

地方長官(東京府ハ警視廳ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラズ種痘期日ヲ指定セシムルコトヲ得)

第二條 市町村長ハ市町村ニ於テ施行スル種痘ノ場所ヲ公告スヘシ

第三條 保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ種痘定期ニ在ル未成年者ヲシテ第一條ノ期日迄ニ醫師ニ就キ又ハ前條ノ種痘所ニ於テ種痘ヲ受ケシムヘシ

第四條 市町村長ハ痘瘡、猩紅熱、實布埃利亞(格魯布、丹毒、麻疹、百日咳)ノ患者アル家ノ未成年者ニ付テ必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シ又ハ別ニ定メタル場所ニ於テ種痘ヲ行フヘシ

第五條 種痘ヲ猶豫セラレタル者ノ保護者又ハ種痘法第三條ノ義務者ハ事故ノ消滅シ又ハ猶豫期間ノ經過シタル日ヨリ三十日以内ニ種痘ヲ受ケシムヘシ

第六條 種痘法第九條ノ未成年者アルトキハ市町村長ハ週クモ次回ノ種痘施行期ニ於テ種痘期日ヲ指定スヘシ

學

六 種痘又ハ痘瘡ノ痕痕俱シ第二期種痘ニ付テハ其ノ證據
第十三條 地方長官ハ臨時種痘ヲ命セムトスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

附則

本則ハ明治四十二年法律第三十五號種痘法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十三年一月一日ヨリ施行)

樣式略ス

肺結核豫防ニ關スル件

內務省令第一號(明治三十七年二月四日)

肺結核豫防ニ關スル件

第一條 學校、病院、製造所、船舶發着待合所、劇場、寄席、旅店其ノ他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若ハ其ノ箇數充分ナラスト認ムルトキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命シ若ハ箇數ヲ指定シテ之ヲ増置セシムルコトヲ得

前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレハ投棄スヘカラス

第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ス

第三條 地方長官ノ指定シタル噴泉場、海水浴場、轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲タル事項ヲ遵守スヘシ

一 營業用ニ供スル器具ハ白布ヲ以テ被包スルコト

二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト

前項指定ノ期日迄ニ種痘ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ直ニ種痘ヲ行フヘシ

第七條 檢診期日ハ種痘ヲ施シタル日ヨリ第六日乃至第八日ノ間ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第八條 種痘證、種痘證及種痘附豫證ハ附錄様式ニ據ルヘシ

第九條 左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ種痘濟證交付後又ハ届出ヲ受ケタル後二月以内ニ其ノ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スヘシ

一 第一期種痘善感シタル者
二 第二期種痘不感ナル者
三 第一期種痘施行前種痘ヲ經過シタル者

第十條 市町村長ハ戶籍吏ヨリ前年中出生ノ本籍人ニシテ種痘法第八條ニ依リ符號ノ記入ナキ者ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ其ノ者カ本籍地外ニ在ルトキハ直ニ之ヲ其ノ寄留地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第十一條 種痘法第十二條第二項ノ届出ハ種痘證ヲ提示シ又ハ醫師ノ證明書ヲ得テ現住地ノ市町村長ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十二條 種痘法第十四條ニ依リ警察官吏又ハ市町村吏員ノ請求アル場合ニ於テ左記各號ノ一ニ依リ種痘ヲ完了シ又ハ之ヲ要セサルコトヲ證明スル者ハ種痘濟證又ハ種痘證ヲ提示スルコトヲ要セス

一 痘瘡經過證
二 種痘猶豫證
三 小學校、之ニ類スル各種學校又ハ幼稚園ノ卒業證書、修業證書又ハ保育證書ニ種痘ニ關スル事項ヲ記入シタルモノ
四 第一期種痘ニ付テハ種痘法第八條ニ依レル符號ノ記入アル戶籍謄本又ハ抄本
五 市町村長ノ證明書

- 三 肺結核患者若ハ其ノ疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラサレハ他人ヲ宿泊セシメサルコト
- 四 前號ニ掲タル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラサレハ他人ニ使用セシメサルコト
- 第四條 病院ハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト
 - 二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラサレハ他ノ患者ヲ收容セサルコト
 - 三 結核病者ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者ヲ更ムル毎ニ消毒スルコト
- 第五條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其ノ首長ハ本令ノ規定ニ準シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ
- 第六條 消毒方法ハ明治三十年五月內務省令第十三號ニ依ルヘシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)結晶石炭酸五分、鹽ヲ使用スヘシ
- 第七條 第一條第一項ニ違背シテ唾痰ヲ配置セサル者、警察官署ノ指定シタル期間ニ其ノ命令ヲ履行セサル者、同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附則 第七條第九條ノ罰金ハ使用者其ノ他ノ從業者ノ所爲ト雖モ之ヲ其ノ首長又ハ營業者ニ科ス
- 第十條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違背シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス
 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス
 第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核預防ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ妨ケス

第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ
 第十三條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

●紫色鉛筆ノ使用禁止及注意ノ件
 文部省訓令第八號(明治三十七年八月九日)
 北海道廳 府縣 直轄學校
 學生生徒等ノ使用スル「コピールビオレット」「リラビオレット」「ヨハン、コピール」「ハ、ツエ、クルツ、コピール」等ノ記號アル紫色鉛筆ハ其ノ製造ノ原料ニ有害ノ色素ヲ包含スルカ故ニ其ノ破片又ハ溶液ノ眼中ニ入ルトキハ激烈ナル毒作用ヲ呈シ覺ニ不治ノ眼疾ニ陥ルコトアリ仍テ幼稚園及小學校等ノ兒童ニハ之カ使用ヲ禁止シ其ノ他ノ學校ノ學生生徒ニ在リテハ必要缺クヘカラサル場合ニ限り之ヲ使用セシムルコトヲ得ルト雖其使用上ニ周密ノ注意ヲ爲サシムヘシ

●師範學校本科生徒病類別患者表
 文部省訓令第三號(明治三十四年十二月四日)
 (沿革)明治三十五年五月文部省訓令第四號、四五年一月同第一號改正
 師範學校本科生徒病類別患者表左記様式ニ從ヒ毎年四月三十日限文部大臣ニ報告スヘシ
 北海道廳 府縣

明治(何)年度(何)師範學校本科第(何)學年(男又ハ女)生徒病類別患者表

病類	疾		病		舊患者		新患者		合計		治癒		死亡		退學		事故		後遺		校內治療		校外治療	
	番	號	番	號	番	號	番	號	番	號	番	號	番	號	番	號	番	號	番	號	人員	日數	人員	日數
痘瘡、假痘	一																							
水痘	二																							
麻疹	三																							
猩紅熱	四																							
發疹「チフス」	五																							
「バスター」	六																							
「ゲフテリア」	七																							
腸「チフス」	八																							
「バラチフス」	九																							
「コレラ」	一〇																							
霍亂	一一																							
「マラリア」	一二																							
赤痢	一三																							
流行性感冒	一四																							
流行性耳下腺炎	一五																							

系 統 神 (二)										病									
脊	神	腦	「ヒステリー」	小	癲	精	計	其	中	喝	營	貧	腺	癭	脚	筋	關	病	
																		症	病
三二	三一	三〇	二九	二八	二七	二六		二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六		

器 行 血 (四)										病 器 吸 呼 (三)										病	
其	脈	心	心	心	計	其	胸	其	肺	肺	肺	氣	喉	鼻	計	其	末	病			
																		他	病	病	病
四八	四七	四六	四五	四四		四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三					

病 器 化 消 (五)																	
計	其	腸、肝	痔	腹	肝	盲腸炎、	慢性腸「カタル」	急性腸「カタル」	胃	胃	胃	慢性胃「カタル」	急性胃「カタル」	扁桃腺炎	口腔、咽頭病	齒病及其繼發病	計
	他	病	疾	炎	臟及脾臟病	盲腸周圍炎	「カタル」	「カタル」	潰瘍	弱	癩	「カタル」	「カタル」	炎	病	病	
	六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	

病 柳 花 (七)											病 器 殖 生 及 器 尿 泌 (六)					眼 (八)			
計	其	梅	橫	軟	淋	計	其	陰	尿	膀	腎	計	傳	非	近	屈			
	他	毒	痲	下	疾		他	及	道	胱	臟		病	染	傳	視	折		
	七四	七三	七二	七一	七〇		子	及	病	病	病	性	染	七九	八〇				

一學年間患者一人平均治療日數	
一學年間在校生徒每千平均一日患者	
一學年間無病生徒	
一學年間治療費	
備考	

樣式說明

- 一 每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一學年度間ニ於ケル表式ノ事項ヲ調査シ各校各學年ニ分チ調製スルモノトス
- 二 男生徒及女生徒ヲ教授スル學校ニ在リテハ男女ニ分チ調製スルモノトス
- 三 患者ハ醫師ノ治療ヲ受ケタルモノトス但シ輕症ニシテ三日以内ニ治癒シ若ハ一日以上ノ學課休ミヲナサ、ル者ハ之ヲ算スヘカラス
- 四 萬患者ハ前學年ノ後遺患者ヲ新患者ハ學年中新ニ疾病ニ罹リタル者ヲ掲ケルモノトス
- 五 一人ニシテ同時ニ二種以上ノ疾病ニ罹リタル者ハ其主症ニ就キ掲ケ併發病、繼續病ニシテ原症ヨリ重症トナリ病名ヲ改メタル場合ニ於テハ原症ノ轉歸ヲ事故トシ併發病繼續病ヲ新ニ一患者トナスモノトス
- 六 「其他」ノ欄ニハ各病類ノ當該欄ニ明示ナキモノヲ記入スルモノトス
- 七 各病類ノ計數ハ朱書スルモノトス
- 八 校内治療ヨリ校外治療ニ又校外治療ヨリ校内治療ニ移リタル者ハ各一人トシテ掲ケルモノトス故ニ校内及校外治療人員ノ計數ハ舊新患者ノ合計ト符合セサルコトアルヘシ但シ校外治療ハ學校ヨリ之ヲナシメタル者ノミヲ掲ケヘシ
- 九 平均一日患者ハ在校日數ヲ以テ患者延人員ヲ除シタル商ヲ掲ケルモノトス
- 十 在校日數ハ生徒ノ在校シタル日數ヲ掲ケルモノトス
- 十一 在校生徒延人員ハ在校日數中日々ノ在校生徒及校外治療生徒ヲ積算シテ掲ケルモノトス
- 十二 平均一日在校生徒ハ在校日數ヲ以テ在校生徒延人員ヲ除シタル商ヲ掲ケルモノトス
- 十三 一學年間患者一人平均治療日數ハ其學年間ノ患者人員ヲ以テ其治療日數ヲ除シタル商ヲ掲ケルモノトス
- 十四 一學年間在校生徒每千平均一日患者ハ其學年間在校生徒延人員ニ對シ患者延人員ヲ比例シ掲ケルモノトス
- 十五 一學年間無病生徒ハ其學年間全ク醫師ノ治療ヲ受ケサル者ノ數ヲ掲ケルモノトス但シ學年中途ニ於テ入學シタル生徒ニシテ無病ノ者モ亦之ヲ算入スヘシ

公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件

- 十六 一學年間治療費ハ其學年間校費ヲ以テ支辨シタル決算額ヲ掲ケルモノトス
 - 十七 平均一日患者、平均一日生徒、一學年間患者一人平均治療日數、同在校生徒每千平均一日患者ハ單位以下二位ニ一學年間治療費ハ單位ニ止メ四捨五入スヘシ
 - 十八 備考ノ部ニハ學校ノ主任醫ヲシテ學校ニ存在スル最多ノ疾病ノ原因及預防等ニ關スル意見等ヲ記述セシメ尙學校醫ノ意見アルモノハ之ヲ附記セシムヘシ
- 勅令第二號(明治三十一年一月十二日)
- 公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件ヲ裁可シ技ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 北海道廳府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク
 - 地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未満ノ町立學校ニハ當分ノ内學校醫ヲ置カサルコトヲ得
 - 第二條 學校醫ハ地方長官之ヲ囑託ス
 - 第三條 學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應ジテ意見ヲ述フヘク又之ニ建議スルコトヲ得
 - 第四條 學校醫ニハ其ノ學校設置ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ
 - 第五條 學校醫ノ囑託執務及其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 附則
- 第六條 本令ニ於テハ北海道沖繩縣ノ區ノ設置ニ係ル學校ハ町立學校ト同視シ沖繩縣ノ間切及島ノ設置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視ス
 - 第七條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本令中市町村長ニ關スル規定ハ島司郡長(北海道ニ在テハ支廳長)區長戶長又ハ之ニ準スヘキモノニ適用ス
 - 第八條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

學校醫ノ資格

文部省令第七號(明治三十一年二月二十六日)

學校醫職務規程

文部省令第六號(明治三十一年二月二十六日)

(沿革)明治三十三年三月文部省令第五號改正

明治三十一年勅令第二號第五條ニ基キ學校醫職務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一條 學校醫ヲ囑託スルニハ左ニ掲ケル各項中ノ一ニ該當シ且醫術開業免狀ヲ有スル者ノ中ニ於テスヘシ
- 帝國大學醫科大學醫學科卒業ノ者
- 元東京大學醫學部醫學科本科又ハ別課卒業ノ者
- 高等學校醫學部醫學科卒業ノ者
- 元高等中學校醫學部醫學科卒業ノ者
- 大阪府京都府愛知縣醫學學校醫學科卒業ノ者
- 元府縣立甲種醫學學校卒業ノ者
- 試驗ヲ經テ帝國大學醫科大學國家醫學講習科ニ入學シ同科ヲ修了シタル者

- 第二條 第一條ノ資格ヲ具フル者ヲ得難キ場合ニ於テハ明治十六年布告第三十五號醫師免許規則第二條又ハ第四條ニ依リ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ囑託スルコトヲ得

第十三章 學校衛生

- 第一條 學校醫務規程
 - 第一條 學校醫ハ本令ニ規程アルモノノ外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル職務ニ従事ス
 - 第二條 學校醫ハ毎月少クトモ一回教授時間内ニ於テ當該學校ニ到リ衛生上ノ事項ヲ視察スヘシ學年ノ終及學期ノ始ニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス
 - 第三條 學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スヘシ
 - 一 換氣ノ可否
 - 二 採光ノ適否
 - 三 机腰掛ノ適否
 - 四 前列及最後列ノ机ト黒板トノ距離
 - 五 煤爐ノ有無及煤爐ト最近生徒トノ距離
 - 六 室内ノ温度
 - 七 圖書掛圖黒板ノ衛生上ノ適否
 - 八 學校清潔方法實行ノ情況
 - 九 飲料水ノ可否
 - 十 其ノ他衛生上必要ナル事項
 - 第四條 學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ノ發見シタルトキハ其病源ニ依リ缺課休學又ハ療治ヲ爲サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
 - 第五條 學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程ニ依リ生徒ノ身體ヲ検査シ身體検査票ヲ調製スヘシ
 - 第六條 學校醫ハ生徒ノ入學選舉等ニ際シ學校長ノ請求ニ應ジ其ノ生徒ノ身體ヲ検査スヘシ
 - 第七條 學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ致次學校ニ到リ必要ナル預防消毒方法ヲ施行シ尙其情況ニ依リ學校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申

四一六ノ二

- 告スヘシ預學生徒ノ所在地ニ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校ヲ禁スヘキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ
- 第七條 學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ申告スヘシ
- 第八條 此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

第十四章 圖書館

圖書館令

勅令第四百二十九號(明治三十二年十一月十一日)

(沿革)明治三十九年一〇月勅令第二七四號、四三年六月同第二七八號改正

- 第一條 北海道府縣郡市町村北海道及沖繩ニ於テハ圖書ヲ蒐集シ公衆ノ閱覽ニ供セムカ爲メ圖書館ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 明治二十六年勅令第三十三號ノ規定ハ圖書館ニ關シ之ヲ準用ス
- 第三條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ圖書館ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 圖書館ハ公立學校又ハ私立學校ニ附設スルコトヲ得
- 第五條 圖書館ノ設置廢止ハ其ノ道府縣立ニ係ルモノハ文部大臣、其ノ他ノ公立ニ係ルモノハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ私立ニ係ルモノハ地方長官ニ開申スヘシ
- 第六條 公立圖書館ニ館長、司書及書記ヲ置クコトヲ得
 - 館長及司書ハ奏任文官又ハ列任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ書記ハ列任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ
- 第六條ノ二 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル館長及司書ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス
 - 一 高等文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者
 - 二 學位ヲ有シ又ハ官立學校ヲ卒業シ學士ノ稱號ヲ有スル者ニシテ一年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ従事シタル者
 - 三 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ従事シ月額四十圓以上ノ俸給ヲ受ケル列任文官以上又ハ列任文官待遇以上ノ職ニ在ル者又ハ在リ

第十四章 圖書館

タル者

- 第六條ノ三 列任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル館長、司書及書記ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス
 - 一 列任文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者
 - 二 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ従事シタル者
- 第六條ノ四 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル館長及司書ノ任免奏薦及宣行ハ高等官官等俸給令第四條及第五條ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ列任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル館長、司書及書記ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ
- 第六條ノ五 館長又ハ司書ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル者ノ官等配當ハ明治二十五年勅令第三十九號中奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル中學校教諭ノ例ニ依リ館長、司書又ハ書記ニシテ列任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル者ノ等級配當ハ同令中學校助教諭ノ例ニ依ル
- 第七條 公立圖書館ニ於テハ圖書閱覽料ヲ徵收スルコトヲ得
 - 附則
- 第八條 諸學校通則第三條中及小學校令中書籍館及圖書館ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●圖書館令施行規則

文部省令第十八號(明治四十三年六月三十日)
圖書館令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

圖書館令施行規則

第一條 圖書館令第五條ニ依リ公立圖書館ヲ設置セントスルトキハ管理者ヨリ左ノ事項ヲ具シ道府縣立圖書館ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ公立圖書館ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

一 名稱

二 位置

三 經費及維持ノ方法

四 敷地建物ノ坪數及圖面

五 開館年月日

六 館則

私立圖書館ニ在リテハ設立者ヨリ前項ノ事項ヲ地方長官ニ開申スヘシ

第二條 名稱、位置、敷地、建物又ハ館則ノ變更ハ道府縣立圖書館ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ圖書館ニ在リテハ地方長官ニ開申スヘシ

第三條 道府縣立圖書館ノ經費豫算ハ文部大臣ニ其ノ他ノ公立圖書館ノ經費豫算ハ地方長官ニ無會計年度開始前ニ開申スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年文部省令第十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●圖書館設立ニ關スル注意事項

文部大臣訓令(明治四十三年二月三日)

各地方長官

圖書館令ノ發布セラレシヨリ以來公立圖書館ノ設置漸ク多キヲ加フルノ狀アルハ尚ニ喜フヘキ現象ナリトモ此等圖書館ノ内容ヲ觀察スレハ往々施設未タ其ノ宜シキヲ得サルモノナキニアラズ依テ茲ニ圖書館ノ施設ニ關シ特ニ注意ヲ要スル事項ヲ掲ケ以テ大體ノ標準ヲ示サントス

圖書館ノ施設ハ規模ノ大小ニ應シテ取捨斟酌宜シキヲ得サルヘカラス近時各地方ニ於テ設立セララルル通俗圖書館又ハ小學校ニ附設スル圖書館ノ類ハ施設其ノ宜シキヲ得ルトキハ小學校及家庭ノ教育ヲ裨補スル上ニ於テ其ノ效益尠少ニ非サルヘシ而シテ此ノ類ノ圖書館ニ在テハ健全有益ノ圖書ヲ選擇スルコト最モ重要ナリトス故ニ成ルヘク其ノ施設ヲ簡易ニシテ主トシテ力ヲ有益ナル圖書ノ蒐集ニ用ヒシメントコトヲ要ス若シ夫レ相當ノ資力ヲ有シ完全ナル圖書館ヲ設立セントスルモノニ在リテハ地方ノ實況ニ應シテ成ルヘク此標準ニ準據シテ適當ノ施設ヲ爲サシメ以テ十分ノ效果ヲ收メントコトヲ期セシムヘシ

右訓令ス

圖書館設立ニ關スル注意事項

一 圖書館ハ學術研究ニ資スルト共ニ一般公衆ノ讀書趣味ヲ涵養シ其ノ風尙ヲ高メ其ノ智徳ヲ進ムルノ用ニ供スルモノナレハ圖書館ノ種類目的ニ應シ適當ニシテ有益ナル書籍ヲ選擇蒐集セントコトヲ要ス通俗圖書館ニ在リテハ殊ニ然リトス依テ其ノ蒐集スヘキ書籍ハ勿論其ノ寄贈ニ係ルモノノ如キモ一般公衆殊ニ青年兒童ノ閱覽ニ供スヘキ雜誌類ニ就キテハ十分取捨選擇ニ注意シ最健全ニシテ有益ナルモノヲ選ミテ閱覽用

△學

△學

一 書目ヲ調製スヘシ
數箇ノ圖書館ヲ有スル地方ニ於テハ成ルヘク毎年各圖書館主任者ノ會議ヲ開キ其ノ閱覽ニ供スヘキ圖書ノ種目ニ關シ標準ヲ議定スルヲ可トス

一 圖書館ハ單ニ其ノ地方ニ古來存在セル古書類ヲ收容シ又ハ寄贈ヲ受ケテ之ヲ閱覽セシムルニ止マラス常ニ有益ナル新刊圖書ノ増加ヲ圖リ館内ニ於テ閱覽ニ供スルハ勿論廣ク館外ニ貸出シ稍々規模ノ大ナル圖書館ニアリテハ或ハ分館ヲ設ケ或ハ巡回文庫ノ制ヲ立ツル等成ルヘク地方一般ニ書籍ノ供給ヲ圖ランコトヲ要ス

一 圖書館ハ一般公衆ノ智識ヲ進メ修養ニ資スヘキハ勿論ナリト雖特ニ學校及家庭ト相待テ教育ノ效果ヲ收ムルコトニ務メ或ハ學校ト聯絡シテ教員ノ學科教授上ニ於ケル參考ニ供シ或ハ家庭ニ對シテ其ノ子弟ノ閱覽スヘキ健全ナル良書ノ標準ヲ示シ以テ子弟ヲシテ幼時ヨリ陋劣ナル書籍ヲ手ニセサルノ習慣ヲ養成セシムヘシ

一 圖書館ハ土地ノ情況及讀者ノ種類ニ應シテ適切ナル圖書ノ選擇ヲ爲ササルヘカラス例ヘハ工業地ニハ工業ニ商業地ニハ商業ニ農業地ニハ農業ニ關シ各必要ナル圖書ヲ供給スルカ如シ又其ノ所在地方ニ關スル圖書記錄類並其ノ地方人士ノ著述ヲ蒐集スルコト最モ重要ナリトス

一 圖書館ヲ建設セントスルニ方リテ府縣廳所在地其ノ他稍々大ナル市街地ニ在リテハ其ノ敷地ハ主トシテ交通、風教、衛生ノ諸方面ヨリ觀察シテ最適當ナル場所ヲ撰ヒ其ノ建築ハ閱覽、管理、衛生上ノ便ヲ圖リ力メテ外觀ノ虛飾ヲ去リ質素堅牢ヲ旨トスヘシ而シテ土地ノ情況ニ依リ圖書館ノ敷地ヲ交通ノ便ナル所ニ求メ難キトキハ分館又ハ巡回文庫ノ制ニ依リ其ノ缺點ヲ補足スルヲ可トス

一 圖書館ノ設備ハ概ネ左ノ各號ニ依ルヘシ但簡易ナル圖書館並小學校等ニ附設スルモノハ此ノ例ニ依ルコトヲ要セス

第十四章 圖書館

一 圖書館ハ閱覽室、書庫及事務室ヲ區分スルヲ可トス其ノ他地方ノ必要ト經費ノ多少トニ應シ成ルヘク兒童室、婦人室、特別閱覽室、休憩室、製本室、使丁室等ヲ設クルヲ便トス

●書籍館圖書目錄編製差出方

文部省達第七號(明治十七年七月十九日)

府縣

書籍館圖書目錄ノ編製町村立私立書籍館ノ分トモ當明治十七年末ノ調査ヲ以テ編製シタルモノヲ取據メ來ル十八年六月迄ニ差出スヘシ且爾後ハ來ル十八年一月ヨリ起算シ該館ノ設置年月ニ拘ラス毎三年末調査ノモノヲ取據メ翌年六月迄ニ差出スヘシ此旨相違候事

但本文圖書目錄ハ學科ニ據リ分類シ書名著譯者ノ氏名出版ノ年月及部冊數等ヲ記載シタル科引目錄ノ儀ト可心得候事

第十五章 教育費

●教育基金特別會計法

法律第八十號(明治三十二年三月二十二日)
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル教育基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 教育基金特別會計法

第二條 價金特別會計資金ノ内千圓ハ教育基金ニ組入ルヘシ

第三條 教育基金ハ普通教育費ニ使用ス

第四條 教育基金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ

第五條 教育基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年教育基金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調整シ歳入歳出ノ

總決算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

勅令第二百五十九號(大正三年十二月十二日)
朕教育基金令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金令

第一條 教育基金ハ本令ニ依リ之ヲ使用ス

第二條 教育基金ハ文部大臣ニ於テ其ノ一部ヲ前前年度末現在ノ學齡兒童

數ニ應シテ北海道及府縣ニ配付シ他ノ一部ヲ普通教育ノ普及改善ニ關シ

テ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教育費國庫補助法

第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲メ國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル

第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小

學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 第一條ノ補助金ハ其ノ半額ハ市町村立小學校ノ本科正教員數ニ他

ノ半額ハ市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤續

スル者ノ數ニ比例シテ之ヲ北海道及府縣ニ配賦ス

附則
第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助

法ハ之ヲ廢止ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ

年功加俸ヲ受クル者ニハ同一學校ニ勤續スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金

額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

市町村立小學校教育費國庫補助

法ニ依ル本科正教員數調査方ノ

件

文部省令第九號(明治四十二年三月十八日)

第十五章 教育費

必要ト認ムル費用ニ使用ス

第三條 北海道及府縣ハ前條ノ配付金ヲ以テ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設

置スヘシ

第四條 教育資金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第五條 教育資金ハ左ノ各號ノ用途ニ之ヲ用ウルモノトス

一 公立小學校設備費ノ貸付又ハ補助

二 公立小學校教員ノ疾病療治料

三 公立小學校教員ノ獎勵其ノ他地方長官ニ於テ普通教育ノ普及改善ニ

關シ必要ト認ムル費用

第六條 前條第一號ノ規定ニ依リ使用スル教育資金ハ特別ノ必要アル場合

ニ於テ公立尋常小學校ノ校地校舍ノ設備費ニ充ツル爲メ市町村又ハ之

ニ準スヘキ公共團體ニ貸付シ市制又ハ町村制若ハ之ニ代ハルヘキ制ヲ施

行セサル地方ニ在リテハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス

公立高等小學校ノ校地校舍ニシテ變災ニ罹リ設備ノ復舊ヲ要スル場合ニ

在リテハ前項ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ貸付金ニ對シテハ一年百分ノ五ノ利子ヲ附セシムヘシ

第七條 地方長官ハ教育資金使用ニ關スル規程ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受

クヘシ

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校ノ本科正教員數

及市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤續スル者ノ

數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月末日ニ於ケル現在數ニ依ルモノトス

附則
本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

市町村立小學校教育費國庫補助

法ニ依ル本科正教員數調査方ノ

件

市町村立尋常小學校設置及ヒ教

育費

文部省令第九號(明治四十二年三月十八日)

第十五章 教育費

四二一

員俸給ニ就キ補助ノ件

文部省訓令第二號(明治三十年二月十六日)

北海道廳 府縣

尋常小學校ノ設置上市町村ノ實力其負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣郡ヨリ補助ヲ與フヘキコトハ小學校令(第四十六條乃至第四十九條)ノ規定スル所ナルヲ以テ必要ニ應ジテ之ヲ適用スルコトヲ怠ラサルヘキハ勿論ナリト雖モ殊ニ今般勅令第二號ヲ以テ市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ發布セラレタルニ付テハ此規定ニ基キ負擔スヘキ適當ノ俸給額ヲ支出スルニ堪ヘスト認定スルトキハ右小學校令ノ規定ニ依リ相當ノ補助ヲ與フルコトヲ勉ムヘシ

實業教育費國庫補助法

法律第九號(大正三年三月二十三日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル實業教育費國庫補助法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實業教育費國庫補助法

- 第一條 實業教育ヲ獎勵スル爲メ國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス
- 第二條 主務大臣ハ前條金額ノ範圍内ニ於テ獎勵上必要アリト認ムル公立私立ノ實業學校ニ對シ補助金ヲ交付ス
- 第三條 補助金ノ交付ハ用途ヲ指定シテ臨時ニ補助スル場合ヲ除クノ外三年ヲ以テ一期トス
- 第四條 補助金ノ年額ハ補助ヲ受クル學校ノ設立者ノ負擔額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ用途ヲ指定シテ臨時ニ交付スル補助金及實業補習學校ニ對シ交付スル補助金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ補助期間其ノ學校經費ヲ繼續支出ス

ル義務アルモノトス

- 第六條 主務大臣補助ヲ受クル學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ其ノ學校主務大臣ノ定ムル規程ニ違背シ第五條ノ義務ヲ盡サス若ハ補助ノ條件ニ違反シタルトキハ補助ヲ廢止シ若ハ停止シ又ハ補助金額ヲ減少スルコトヲ得
- 第七條 主務大臣ハ第二條ノ補助金ノ外公立私立ノ實業學校教員ノ養成費其ノ他實業教育獎勵上必要ト認ムル費用ニ充ツル爲メ第一條ノ豫算定額ノ八分ノ一以內ヲ支出スルコトヲ得
- 第八條 補助金ノ交付ニ關シ必要ナル規程ハ主務大臣之ヲ定ム

附則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ存スル補助ノ期間ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

實業教育費國庫補助法施行規則

文部省令第十三號(大正三年四月二十二日)

實業教育費國庫補助法施行規則左ノ通改正ス

實業教育費國庫補助法施行規則

- 第一條 實業學校ニシテ補助ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其ノ管理私立學校ニ在リテハ其ノ設立者ヨリ收支豫算ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ實業補習學校ニ在リテハ實業學校設置廢止規則第一條第一項第一號乃至第五號第八號及第十號ノ事項ヲ併セシム
- 第二條 補助ヲ受クル私立學校ノ設立者ハ其ノ學校經費ニ關シ政府ノ會計年度ニ依リ毎會計年度ノ收支豫算及決算ヲ調製スヘシ
- 補助ヲ受クル私立學校ノ設立者ハ其ノ學校ノ收支及物品ニ關シ必要ナル會計帳簿ヲ備フヘシ
- 第三條 補助ヲ受クル學校ノ收支豫算ハ每會計年度前之ヲ文部大臣ニ報告

スヘシ

前項ノ收支豫算書ニハ前年度豫算額及之ニ對スル比較増減ヲ示シ且ツ其ノ細目ニ就キ説明ヲ付スヘシ

第五條

實業學校ニシテ器具、器械、船舶、圖書、標本其ノ他教授上必要ナル物品ヲ設備スル爲メ臨時ニ補助ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其ノ管理者私立學校ニ在リテハ其ノ設立者ヨリ左ノ書類ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ現ニ補助ヲ受クル學校ニ在リテハ第二號ノ書類ヲ添付スルヲ要セシム

第六條

前項ノ收支決算ニ關シテハ第四條第一項ノ規定ニ依リ

第七條

補助金ハ補助ヲ與フル月ヨリ月割計算ヲ以テ之ヲ交付ス

第八條

補助金ハ每會計年度ヲ二期ニ區分シ當該年度ノ四月十月ニ各一期分ヲ交付ス但シ新ニ補助ヲ與フル場合ニ於テ其ノ期ニ屬スル補助金額臨時ニ補助ヲ與フル場合ノ補助金ハ本文ノ期月ニ拘ラス之ヲ交付ス

第九條

實業學校設置廢止規則第一條第二項第二條乃至第四條ノ規定ハ補助

第十五章 教育費

勅令第四十二號(大正三年三月二十八日)

朕府縣郡ニ於テ學校圖書館ノ爲ニ設クル基本財産又ハ積立金ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方學事通則第九條ノ規定ニ依リ府縣郡ノ基本財産又ハ積立金ハ特定ノ一若ハ二以上ノ學校圖書館ノ爲ニ之ヲ設ケ又ハ府縣郡若ハ其ノ一部ニ於ケル學校圖書館ヲ通シテ之ヲ設クルコトヲ得

府縣郡ニ於テ學校圖書館ノ爲ニ設クル基本財産又ハ積立金ニ關スル件

第十六章 統計、報告

●學事年報取調條項及諸表樣式

文部省訓令第二號(明治四十四年三月三十一日)

北海道廳 府縣

學事年報取調條項及諸表樣式別冊ノ通改正ス其ノ取調條項中甲款ニ係ルモノ及諸表樣式中甲號並乙號ニ係ルモノハ每統計年度ノ調査ニ依リ翌年度六月十五日限其ノ乙款ニ係ルモノ及諸表樣式中丙號ニ係ルモノハ每統計年度ノ調査ニ依リ翌年度十月三十一日限進達スヘシ
本令ニ統計年度トアルハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテヲ云フ(別冊)

學事年報取調條項

甲 款

一 管内學事ノ狀況

學事施設ノ要領及學事ノ現狀等ヲ記述スヘシ

一 學齡兒童

就學ニ關スル規則施行ノ狀況、就學獎勵ニ關スル特種施設事項、就學猶豫又ハ免除ニ關スル事由等ヲ記述スヘシ

一 小學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、學級編制、二部教授ノ狀況、公立學校ノ配置適否ノ狀況、私立學校ノ狀況、補習科及加設科目ニ關スル狀況、九月一日ニ始マル學年ヲ置ク學校ニ關スル狀況、授業料ニ關スル狀況、教員ノ需要供給、勤課轉免、俸給、加俸其ノ他待遇上ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

一 幼稚園

幼稚園ノ設置、廢止及設備ノ狀況、幼兒保育ノ狀況等ヲ記述スヘシ

一 各種學校

關係等ヲ記述スヘシ但シ實業專門學校ニ係ルモノハ各校各別ニ其ノ他ノ實業學校ニ係ルモノハ學科ノ種類及程度等ニ依リ區別シテ記述スヘシ

一 學校衛生

學校清潔方法施行ノ狀況、學校醫觀察ノ狀況、學校醫資格別、生徒又ハ兒童健康ノ狀況、傳染病預防及消毒ニ關スル施行ノ狀況、校舎内ニ於ケル傳染病罹病者及死亡者ノ數並其ノ處置等ヲ學校ノ種類ニ依リ區別シテ記述スヘシ

一 學校園、學林及樹栽

學校園、學林等ノ施設ニ關スル狀況、生徒及兒童樹栽ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

一 教員檢定及免許狀授與

小學校教員檢定及小學校教員府縣免許狀授與ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ

一 教員講習

道府縣、郡、市、町村及教育會等ニ於テ開催シタル教員講習會ノ種類、開會回数、日數、講習員ノ種類及其ノ數、其ノ他講習ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ

一 教科用圖書

教科用圖書ノ適否、需要供給ノ關係、其ノ他教科用圖書ニ係ル狀況ヲ學校ノ種類ニ依リ區別シテ記述スヘシ

一 圖書館

圖書館ノ設置、廢止及設備ノ狀況、閱覽人ノ狀況、閱覽圖書ノ種類別、

一 盲啞學校

學校ノ設置、廢止及設備ノ狀況、生徒卒業後ノ狀況、生徒失官原因ニ關スル調査等ヲ記述スヘシ

一 師範學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否、生徒修學旅行ノ狀況、本科、預備科入學者ノ父兄ノ職業別、卒業者就職ノ狀況、附屬小學校及幼稚園ノ狀況、講習科及其ノ他臨時施設事項ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

一 中學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否、生徒修學旅行ノ狀況、入學志願者ニ關スル狀況、入學者父兄ノ職業別、補習科ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

一 高等女學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否、本科、實科入學者父兄ノ職業別、選科、補習科、專攻科ニ關スル狀況等ヲ記述スヘシ

一 專門學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、教員ノ資格別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否等ヲ各校各別ニ記述スヘシ又醫學專門學校ニ在リテハ外來、入院ニ係ル學用患者ノ内科、外科、眼科、產科、婦人科等ノ區別人員及屍體解剖數ヲモ記述スヘシ

一 實業學校

學校ノ設置、廢合及設備ノ狀況、教員ノ資格別、生徒訓育ノ狀況、生徒學業ノ進否、生徒實習及修學旅行ニ關スル狀況、學校ト實業界トノ

一 巡回圖書館ノ狀況等ヲ記述スヘシ

一 教育博物館

教育博物館ノ設置、廢止及設備ノ狀況、觀覽人ノ狀況、陳列品ノ種類等ヲ記述スヘシ

一 教育品展覽會

教育品展覽會開催回数及開會日數、觀覽人ノ狀況、陳列品ノ種類及開設ノ效果ヲ記述スヘシ

一 教育會

教育會ノ組織、現在數及會員數、其ノ他事業ノ概況等ヲ記述スヘシ

一 青年團體

青年會、夜學會等ノ教育ニ關スル施設ヲ記述スヘシ

一 教育ニ關スル法人

文部大臣ノ主管ニ屬スル社團法人、財團法人ノ狀況ヲ記述スヘシ

一 府縣會、郡會及市町村會

學事ニ關スル議事ノ概況ヲ記述スヘシ

一 學事關係職員及學事視察

北海道廳、府縣廳、郡、市役所ニ於ケル學事關係職員ノ種類別人員、學事視察ニ關スル狀況、市町村學務委員職務ノ狀況等ヲ記述スヘシ

一 學事獎勵

學事獎勵ニ關シ施行シタル事項ノ狀況及效果等ヲ記述スヘシ

一 將來學事施設上須要ノ件

學事施設上將來須要ト認ムヘキ事項ニ關スル意見、計畫等ヲ記述スヘシ

乙 款

一 公學費及公學資產

公立學校等ノ歳出入ノ狀況、學校基本財産及積立金蓄積、其ノ他維持ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ
 一教育資金
 教育資金貸付、戻入等ノ狀況、奨励金支出ニ係ル種別金額等ヲ記述スヘシ
 一市町村立小學校教員加俸資金
 學事年報諸表様式
 甲 號

市町村立小學校教員加俸令ニ依リ加俸ヲ給與シタル狀況等ヲ記述スヘシ
 以上ノ外學事經濟上ニ關シ特ニ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ
 本取調條項中別ニ表式アルモノニ關シテハ表式ニ示ス事項ノ計數ニ就キ著シキ増減ノ事由等ヲ各別ニ記述スヘシ

甲號表一 學齡兒童數

種別	既就學									
	合		計		計		計		計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
市										
市										
市										
市										
市										
市										
町										
村										
計										

種別	既就學										學齡兒童數									
	合		計		計		計		計		計		計		計		計		計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
市																				
市																				
市																				
市																				
市																				
市																				
市																				
町																				
村																				
計																				

第十六章統計報告

治四十三年度末調査ニ於テハ明治三十七年四月二日生ヨリ同三十八年三月三十一日生マテノ現員ヲ掲クルカ如シ

一 小學校令第三十三條ニ依ル者ニシテ年度内其ノ處分ヲ了セサル者アルトキハ其ノ事項ニ應シテ就學猶豫又ハ就學免除ノ部當該欄内ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

一 學齡兒童ノ居所ノ箇年以上分明ナラサルトキハ之ヲ除キ一箇年未滿分明ナラサルトキハ既ニ就學ノ始期ニ達シタル者ニ在リテハ就學猶豫ノ部當該欄内ニ於テ未ダ就學ノ始期ニ達セサル者ニアリテハ其ノ欄内ニ於テ各適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

一 就學歩合ノ計算ハ單位ノ下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

一 學齡兒童中年度内四月一日ニ於テ未ダ就學ノ始期ニ達セサル者ニシテ小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置キタル市町村ニ居住スル者ニ就キテハ本條ニ準シ別表ニ調製スヘシ但シ本表ニハ別表ニ掲載シタル者ハ之ヲ計入スヘカラス

一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ說明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙年度内ニ於テ小學校令施行規則第八十一條第三項第三號ニ依リ學齡簿ヲ抹消セラレタル兒童ノ男女別人員ヲモ記載スヘシ

甲號表二 市町村立小學校表

種 別	學 校			學 級		本 科 正 教 員	代 用 教 員		准 教 員		專 科 正 教 員			
	校 數	分 校	教 員	正 教 員	補 習 教 員		女	男	女	男	女	男	女	男
市 立														
私 立														
市 立														
私 立														
町 村 立														
私 立														
市 立														
町 村 立														
私 立														
合 計														

小 常

科	兒 正												代 用 教 員		准 教 員		專 科 正 教 員	
	第 一 學 年		第 二 學 年		第 三 學 年		第 四 學 年		第 五 學 年		第 六 學 年		女	男	女	男	女	男
女																		
男																		

常													尋				校場
教											級		學				
高			常			尋					等	高	常	尋			
准		專		本		代		准		專		本		補	正	補	正
員	教	員	正	教	員	員	員	員	員	員	員	員	員	習	教	習	教
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	科	科	科	科

學	校																學童						
	分教	本	者				業				卒				者				入				
			正	正	補	正	補	正	補	正	補	正	補	正	補	計							
モ	ノ	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科							
		女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		

者		入 學		小 童															
				尋 常				高 等											
				高		常		補	科 教			正			補	科 教			正
				習		習			計		第 三 學 年	第 二 學 年	第 一 學 年	計		第 三 學 年	第 二 學 年	第 一 學 年	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		

者		入 學		高 等 小 童																			
				尋 常										高 等									
				補	科			計	教			正	科			計	教			正	代 用 教 員		
					第 六 學 年	第 五 學 年	第 四 學 年		第 三 學 年	第 二 學 年	第 一 學 年		第 六 學 年	第 五 學 年	第 四 學 年		第 三 學 年	第 二 學 年	第 一 學 年		女	男	女
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		

等 高															
兒						教 員				級 學		校			
教 正			代 用			准 教 員	專 科 正 教 員		本 科 正 教 員		補 習 科	正 教 科	分 教 場		
第 三 學 年		第 二 學 年		第 一 學 年		女	男	女	男	女	男	女	男	モ ノ	モ ノ
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	モ ノ	モ ノ

校 學																	
學	數 平 兒 缺 日				數 平 兒 出 日				者 業 卒						等		
	均	童	席	々	均	童	席	々	等 高		常 尋		正 教 員			正 教 員	
本	等	高	常	尋	等	高	常	尋	補 習 科	正 教 科	補 習 科	正 教 科	女	男	女	男	女
校	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

備考	校															小			
	正 教 科		補 習 科		正 教 科		補 習 科		入 學 者		入 學 者		童		科 計				
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男			女	男	
	日 出		日 出		日 出		日 出		日 出		日 出		日 出		日 出				

甲表二様式説明

- 一本表ハ市、町村ニ別チ各欄ニ掲クヘシ但シ市ニ在リテハ各市ニ區別シ町村ニ在リテハ各合算シテ掲クヘシ
- 町村組合又ハ町村學校組合ニ於テ設置スル學校ニ係ルモノハ町村立ノ欄ニ掲クヘシ以下各表亦之ニ準ス
- 一學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲クヘシ
 - 一學校中補習科ヲ設クルモノハ補ノ字ヲ付シ區別シテ掲クヘシ但シ尋常高等小學校ニ係ルモノハ尋常補習科ノミヲ設クルモノト高等補習科ノミヲ設クルモノト尋常、高等兩補習科ヲ設クルモノト區別シテ掲クヘシ
 - 尋常高等小學校ノ分教場ハ尋常小學校ノ教科ヲ教授スルモノト高等小學校ノ教科ヲ教授スルモノト尋常小學校及高等小學校ノ兩教科ヲ教授スルモノト別チ各適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 - 一學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
 - 一學校令施行規則第三十四條ニ依リ兒童ヲ前後二部ニ分チテ教授スルモノハ其ノ前後ノ學級ヲ合算シテ掲クヘシ
 - 補習科ノ學級中其ノ教授時間ヲ正教科教授時間外ニ定メタルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 - 一教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ市町村立小學校ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
 - 尋常高等小學校教員中其ノ受持兩教科ニ涉ル者ハ教授時數ノ多キ方ニ掲ケ其ノ時數同シキトキハ高等ノ方ニ掲クヘシ
 - 市町村立小學校教員中他ヨリ兼ヌル者ハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
 - 一兒童ハ學籍ニ在ル者ニシテ年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル間全ク出席セサル者ヲ除キ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
 - 修業年限三箇年ノ高等小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ中其ノ第一學年、第二學年ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 - 一入學者ハ年度内ニ始メテ第一學年ニ入學シタル者ノ總數ヲ掲クヘシ
 - 尋常高等小學校ニ於テ尋常科ヲ卒業シ其ノ學校ノ高等科ニ進入シタル者ハ尙高等科入學者ノ欄ニモ之ヲ掲クヘシ
 - 一卒業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ總數ヲ掲クヘシ
 - 卒業者中修業年限三箇年ノ高等小學校ノ教科ヲ卒業シタル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 - 一日々出席兒童平均數ハ年度内ニ於ケル日々ノ出席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ケル總教授日數ヲ以テ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ計算ハ單位ノ下二位ニ止メ四捨五入スヘシ
 - 一日々缺席兒童平均數ハ年度内ニ於ケル日々ノ缺席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ケル總教授日數ヲ以テ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ計算ハ單位ノ下二位ニ止メ四捨五入スヘシ
 - 日々缺席兒童平均數ハ年度内ニ於ケル日々ノ缺席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ケル總教授日數ヲ以テ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ計算ハ單位ノ下二位ニ止メ四捨五入スヘシ
 - 席セサル者ハ之ヲ除クヘシ計算ハ單位ノ下二位ニ止メ四捨五入スヘシ
 - 一外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ尙備考ノ欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
 - 一小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依ルモノハ其ノ學校及九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ニ係ル學級、教員、兒童、入學者、

卒業者、日々出席児童平均数、日々缺席児童平均数ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙小學校令施行規則第二十五條第二項ニ依リ
 九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置キタル市、町、村ノ數ヲモ記載スヘシ

甲號表三 公立私立幼稚園表

種 別	道廳府縣立		郡 立		市 立		町 立		村 立		私 立	計
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		
保 育 期 者												
入 園 者												
幼 兒												
保 姆												
備 考												

甲號表三樣式說明

- 一本表ハ設立ノ區別ニ依リ各合算シテ掲クヘシ
- 一園ハ年度末現在ノ數ヲ掲クヘシ
- 一組ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ

一 保母ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ公立幼稚園ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
 一 保母中公立幼稚園保母ニシテ他ヨリ兼ヌル者ハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
 一 幼兒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
 一 入園者ハ年度内ニ入園シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
 一 保育滿期者ハ年度内ニ保育滿期トナリタル者ノ數ヲ掲クヘシ
 一 外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケ尙備考欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
 一 師範學校附屬幼稚園ニ係ルモノハ計入スヘカラス其ノ他ノ學校等ニ附屬セル幼稚園ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

甲號表四 師範學校表

(學校名稱)

種 別	學 級		教 員		生				種 別			
	本 部	第 一 部	備 用 科	有 資 格	無 資 格	本 部						
						第 一 部	第 二 部	第 一 學 年		第 二 學 年		
								第 三 學 年		第 四 學 年	第 三 學 年	第 四 學 年
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計			
男												
女												

員人集募					員定徒生			徒						
科習講			科本		科本		科習講		科					
科	習	講	部	部	部	部	科	習	講	部	部	計	第一	第二
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												
幼稚園	保育	講習												

入學							入學志願者											
第科本			部一第科本				科習講			課科本								
教ノ前從	中學校卒業者	修業年限四箇年ノ高等女學校卒業者	均	少	大	計	其	他	幼稚園	保育講習科	尋常小學校正教員養成ノ爲ニ設クル講習科	尋常小學校正教員養成ノ爲ニ設クル講習科	者ノ爲ニ設クル講習科	小學校教員免許狀ヲ有スル	備	部	部	
																		年

退 學																			
本 科					第 一 部					本 科									
第 一 學 年					第 四 學 年					第 三 學 年					第 二 學 年				
其	死	懲	疾	他	其	死	懲	疾	他	其	死	懲	疾	他	其	死	懲	疾	他

業 卒 者										者				
講 習 科				備 課		本 科				講 習 科		第 二 部		
小 學 教 員 講 習 科				小 學 教 員 免 許 狀 有 ス ル 者 ノ 爲 ニ 設 ク ル 講 習 科		第 一 部		第 二 部		幼 稚 園 保 姆 講 習 科		第 一 學 年 入 學 者 年 齡		
其	死	懲	疾	其	死	其	死	其	死	其	死	平	最	計

附 屬														續		
兒						員 教		級 學				部 二				
常 尋						等 高	常 尋	等 高	常 尋	補 正	補 正	第 二 學 年				
科 教 正						員 教 正		補 正		補 正						
第 六 年	第 五 年	第 四 年	第 三 年	第 二 年	第 一 年	專 科	本 科	專 科	本 科	習 科	教 科	習 科	教 科	落 第	及 第	落 第

校													
成 年 學 科 本								者					
第 一 部				第 二 部				科 習 講	預	部 二 第			
第 四 年	第 三 年	第 二 年	第 一 年	第 四 年	第 三 年	第 二 年	第 一 年	習 科	講 科	年 學 二 第			
及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	幼 稚 園 保 姆 講 習 科	小 學 校 教 員 免 狀 有 ス ル	其	死	懲	疾
及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	＝ 設 ク ル 講 習 科	＝ 設 ク ル 講 習 科	科 他	亡	戒	病

小 學 校													
平均 日々 児童 数	平均 日々 出 席 数	入 学 者				卒 業 者				童 童			
		尋 常	高 等	正 常	補 正	尋 常	高 等	正 常	補 正	計	正	高	
		教 科	教 科	教 科	教 科	教 科	教 科	教 科	教 科	科	第 一 年 級	第 二 年 級	第 三 年 級

備 考	附 屬 幼 稚 園			
	保 育 者	入 園 者	幼 兒	保 姆

甲 號 表 四 様 式 說 明

- 一本表ハ年度末現在ノ學校ニ就キ各校各別ニ調製スヘシ
- 一學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
- 一教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一教員中師範學校教員タル教員免狀ヲ有スル者ハ有資格ノ欄ニ其ノ他ノ教員ハ無資格ノ欄ニ掲クヘシ
- 一教員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
- 一生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
- 一生徒定員ハ年度内ニ於ケル定員ヲ掲クヘシ
- 一募集人員ハ年度内ニ入學セシムル爲募集シタル人員ヲ掲クヘシ
- 一入學志願者ハ前項ノ募集ニ應シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ又豫備科卒業ニ係ル者ハ計入スヘカラス
- 一入學者ハ年度内ニ入學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一本科第一學年入學者年齢ハ入學ヲ許可シタル月ニ於ケル年齢ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齢ハ入學者總員ヲ以テ入學者ノ年齢ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ臨時入學者ハ計入スヘカラス
- 一卒業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一退學者ハ年度内ニ退學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ

一 本科學年成績ハ年度内ニ於ケル學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ
 一 私立ニ係ル生徒、募集人員、入學志願者、入學者、卒業者、退學者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 一 外國人ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 一 附屬小學校ニ係ルモノハ甲號表ニ市町村立私立小學校表ノ例ニ準シテ掲クヘシ
 一 附屬幼稚園ニ係ルモノハ甲號表ニ公立私立幼稚園表ノ例ニ準シテ掲クヘシ
 一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ニ係ル講習期間ヲモ記載スヘシ但シ小學校教員講習科ニ係ルモノハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ノ爲ニ設ケルモノト尋常小學校正教員養成ノ爲ニ設ケルモノト尋常小學校教員養成ノ爲ニ設ケルモノトヲ分チ記載スルコトヲ要ス

甲號表五 公立私立中學校表

(學校名稱)

種別	學級	教員		生徒					計	
		有	無	本						
				第一	第二	第三	第四	第五		
科	科	格	格	年	年	年	年	年	年	年
習	習	資	資	學	學	學	學	學	學	學
補	補	格	格	年	年	年	年	年	年	年
本	本	格	格	年	年	年	年	年	年	年
種別	種別	格	格	年	年	年	年	年	年	年
人員	人員	格	格	年	年	年	年	年	年	年
等	等	格	格	年	年	年	年	年	年	年

學年	入		入學志願者					募集人員		生徒
	本		本					本		
	第一		計					計		
	最	最	第一	第二	第三	第四	第五	計	計	
平均	最少	最大	年	年	年	年	年	年	年	年
均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	科
均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	科
均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	科
均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	科
均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	科
均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	科
均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	科

者 學																	
科																	
補 習 科	年 學 五 第					年 學 四 第					年 學 三 第					年	
	其	死	懲	轉	疾	其	死	懲	轉	疾	其	死	懲	轉	疾		其
科	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒	學	病	他	亡

退						者 業 卒			者									
本						齡 者 年	卒 業	本 科	補 本	補	科							
學 二 第			年 學 一 第								平	最	最	習	習	第	第	第
懲	轉	疾	其	死	懲	轉	疾				科	科	科			科	年	年
戒	學	病	他	亡	戒	學	病	均	少	大	科	科	科	科	年	年	年	年

額總出支度年本				額總入收度年本				況狀ノ末度年本ノ							
臨時費	常計	經常費 其他	給	計	其他	基本財産ヨリ生スル收入	寄附金	補助金	授業料	計	死亡	不詳	兵	一年志願兵	海軍諸學校生徒

者業卒科本度年前							績成年學科本									
陸軍主計候補生	陸軍士官候補生	實業專門學校生徒	專門學校生徒	高等學校生徒	官吏公吏等	學務員	第五學年		第四學年		第三學年		第二學年		第一學年	
							落第	及第	落第	及第	落第	及第	落第	及第	落第	及第

備考	合 計
----	-----

甲號表五樣式說明

- 一本表ハ年度末現在ノ學校ニ就キ各校各別ニ調製スヘシ但シ分校ハ本校ニ準シ別ニ調製スヘシ
- 一學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
- 一教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ公立學校ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一教員中學校教員タル教員免許狀ヲ有スル者ハ有資格ノ欄ニ其ノ他ノ教員ハ無資格ノ欄ニ掲クヘシ
- 一教員中公立學校教員ニ在リテハ其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
- 一生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
- 一生徒定員ハ年度内ニ於ケル本科生徒ノ定員ヲ掲クヘシ
- 一募集人員ハ年度内ニ入學セシムル爲募集シタル人員ヲ掲クヘシ
- 一入學志願者ハ前項ノ募集ニ應シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一入學者ハ年度内ニ入學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一本科入學者年齡ハ入學ヲ許可シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ入學者總員ヲ以テ入學者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ臨時入學ニ係ル者ハ計入スヘカラス
- 一卒業業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一本科卒業業者ノ年齡ハ卒業證書ヲ授與シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ卒業業者總員ヲ以テ卒業業者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ
- 一退學者ハ年度内ニ退學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一本科學年成績ハ年度内ニ於ケル各學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ
- 一前年度卒業業者ノ本年度末ノ狀況中二種以上ノ事項ニ涉ル者アルトキハ其ノ重ナルモノニ就キ掲クヘシ
- 一外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケ尙備考ノ欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
- 一本年度收入總額ハ其ノ年度ニ屬スル收入總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一本年度支出總額ハ其ノ年度ニ屬スル支出總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ

金員ノ計算ハ各項ニ於テ四捨五入シ單位ニ止ムヘシ
 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ說明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

甲號表六 公立私立高等女學校
 公立私立實科高等女學校表

(學校名稱)

種 別	修 業 年 限												人 員	等
	本		同		專		實		同		本			
	科	習	科	習	科	習	科	習	科	習	科	習		
無 資 格	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	合 計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		
有 資 格	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	合 計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		

者 願 志 學 入										員 人 集 募				
科 實				專 同	科 本					同 同	實 專	同		
計	第 四 年	第 三 年	第 二 年		第 一 年	第 二 年	第 三 年	第 四 年	第 五 年				補 習 科	選 科

徒 生																			
本 實 科	定 員 科	本 實 科	同 補 習 科	同 選 科	科 實				專 同	科 本									
					計	第 四 年	第 三 年	第 二 年		第 一 年	計	第 五 年	第 四 年	第 三 年	第 二 年	第 一 年			

		入 學											
第 一 學 年	數 / 前 從	專 科	同 補	科				本 一 學 年			同 補	同 選	
				第 二 學 年	第 三 學 年	第 四 學 年	第 五 學 年	平 均	最 少	最 大			從 前 / 教 育
		攻 習											
		尋 常 小 學 校 卒 業 者											

			卒 業 者					者									
第 一 學 年	數	疾 病	同 補	同 選	實 習	專 攻	同 補	本 補	同 補	同 選	科			年 學			計
											第 二 學 年	第 三 學 年	第 四 學 年	平 均	最 少	最 大	

學																		
第	實										專	同	年學五第					
	年學二第					年學一第							其	死	懲	轉		
	轉	疾	其	死	懲	轉	疾	其	死	懲							轉	疾
學	病	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒	學	病	科	科	他	亡	戒	學	

退																		
科	本																	
	年學四第					年學三第					年學二第					年		
	疾	其	死	懲	轉	疾	其	死	懲	轉	疾	其	死	懲	轉	疾	其	死
病	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒	學	病	他	亡	

本年	額 入 度 本					績 成 年 學 科 實								續		
	計	其	基 本 財 產 ヨ リ 生 ス ル 收 入	寄 附 金	補 助 金	授 業 料	第 四 學 年		第 三 學 年		第 二 學 年		第 一 學 年		第 五 學 年	
							落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第			及 第
常 經 其	教 員 俸 給	他														

成 年 學 科 本								者													
第 四 學 年	第 三 學 年	第 二 學 年	第 一 學 年	同 補 習 科	同 選 科	科															
						年 學 四 第			年 學 三 第												
						其	死	懲	釋	疾	其	死	懲								
落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	落 第	及 第	科	生	他	亡	戒	學	病	他	亡	戒

備考	度支	計
	出費	計
備考	合計	計

甲號表六樣式說明

- 一本表ハ年度末現在ノ學校ニ就キ各校各別ニ調製スヘシ
- 一學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
- 一教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ公立學校ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一教員中高等女學校教員タル教員免狀ヲ有スル者ハ有資格ノ欄ニ其ノ他ノ教員ハ無資格ノ欄ニ掲クヘシ
- 一教員中小學校本科正教員ノ免狀ヲ有シ第二學年以下ノ教授ヲ擔任スル者ハ無資格ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一教員中公立學校教員ニ在リテハ其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼スル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
- 一生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
- 一生徒ハ年度内ニ於ケル定員ヲ掲クヘシ
- 一募集人員ハ年度内ニ入學セシムル爲募集シタル人員ヲ掲クヘシ
- 一入學志願者ハ前項ノ募集ニ應シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ補習科、專攻科、實科ニ係ル選科、同補習科中第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一入學者ハ年度内ニ入學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ補習科、專攻科、實科ニ係ル選科、同補習科中第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一入學者年齡ハ入學ヲ許可シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ入學者總員ヲ以テ入學者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ臨時入學ニ係ル者ハ計入スヘカラス
- 一卒業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一退學者ハ年度内ニ退學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ

- 一學年成績ハ年度内ニ於ケル各學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ
- 一外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ尙備考ノ欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
- 一明治四十三年勅令第四百二十四號附則第二項ニ依リ存置セル技藝專修科ニ係ルモノハ實科ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一明治四十三年度學事年報ニ於テハ實科ノ欄ヲ技藝專修科ト爲シ各其ノ事實ヲ記入スヘシ
- 一本年度收入總額ハ其ノ年度ニ屬スル收入總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一本年度支出總額ハ其ノ年度ニ屬スル支出總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一金員ノ計算ハ各項ニ於テ四捨五入シ圓ニ止ムヘシ
- 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ說明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ尙專攻科ニ係ル生徒、卒業者ノ學科別人員ヲモ記載スヘシ

甲號表七 公立私立專門學校表

(學校名稱)

種別	學科	學科	學科	學科	學科	學科	修業年限			教員		生							
							別	年	限	有	無	第	第	第	本	年	年	年	
							究	資	資	格	格	格	一	二	三	本	年	年	年

學 際	退					業 卒					者			齡			
	本 科					本 科 最	卒 業 最	年 齡 平	研 究	別	際	本	研 究			別	際
	其	死	懲	轉	疾									科	科		
科	他	亡	戒	學	病	均	少	大	科	科	科	科	科	科	科	均	少

學 科	入					者 願 志 學 入				徒			
	本 科					本 科	別	際	本	研 究	別	際	科
	育	教	ノ	前	從								
年	計	專 門 學 校 入 學 者 檢 定 規 程 第 八 條 第 一 號 ノ 指 定 ヲ 受 ケ タ ル 者	專 門 學 校 入 學 者 檢 定 規 程 ニ 依 ル 試 驗 檢 定 ニ 合 格 シ タ ル 者	高 等 女 學 校 卒 業 者	中 學 校 卒 業 者	際 科 卒 業 者	究	究	究	究	究	計	
最	大												

者	本 科 學 年 成 績									研 究 科	別 科
	第 一 學 年			第 二 學 年			第 三 學 年				
	及第	落第	計	及第	落第	計	及第	落第	計		
醫學											
實業											
官廳											
衛生											
醫師											
農業者											
公務員											
從業者											
研究者											

備 考	本 年 度 支 出 額		計	本 年 度 收 入 總 額							末 度 ノ 狀 況	
	臨 時 費	常 費		其 他	基 本 財 產 ヨ リ 生 ス ル 收 入	寄 附 金	國 庫 補 助 金	授 業 料	計	死 亡	不 詳	

甲 表七 樣式說明
 一本表ハ年度末現在ノ公立私立專門學校又ハ公立私立實業專門學校ニ就キ各校各別ニ調製スヘシ但シ分校ハ本校ニ準シ別ニ調製スヘシ
 一本表ハ學科毎ニ區別シテ各其ノ事實ヲ揭クヘシ例ヘハ醫學專門學校ニシテ醫學科、藥學科、工業專門學校ニシテ建築學科、機械學科ノ設ケ
 アルモノハ各其ノ學科ニ就キ揭クルカ如シ但シ大學部、專門部等ノ設ケアル學校ニ在リテハ大學部何學科、專門部何學科ト記入スヘシ
 第十六章 統計、報告
 四七一

- 一 課程ニ係ルモノ、中本科ニ進入スル者ノ爲ニ置タルモノト別科ニ進入スル者ノ爲ニ設タルモノトヲ分チ各適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ公立學校ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一 教員中學位ヲ有スル者、帝國大學分科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者、文部大臣ノ指定シタル者、文部大臣ノ認可シタル者ハ有資格ノ欄ニ代用トシテ認可シタル者ハ無資格ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 教員中公立學校教員ニ在リテハ其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
- 一 教員中課程ノミヲ擔任スル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 教員中一人ニシテ二學科以上ヲ擔任スル者ハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
- 一 生徒中一人ニシテ二學科以上ヲ兼修スル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 生徒中本科、課程ニ係ル者ハ入學資格ニ依リ中學校卒業者ト試験檢定合格者ト無試験檢定ニ依ル者トヲ分テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 入學志願者ハ年度内ニ入學セシムル爲行ヒタル募集ニ應シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 入學志願者中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 入學者ハ年度内ニ入學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 入學者中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 本科入學者從前ノ教育ノ欄專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者ノ中甲種程度ノ實業學校卒業者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 本科入學者年齢ハ入學ヲ許可シタル月ニ於ケル年齢ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齢ハ入學者總員ヲ以テ入學者ノ年齢ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ臨時入學ニ係ル者及第二學年以上ニ係ル者ハ計入スヘカラス
- 一 卒業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一 卒業者中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 本科卒業者年齢ハ卒業證書ヲ授與シタル月ニ於ケル年齢ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齢ハ卒業者ノ總員ヲ以テ卒業者ノ年齢ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ
- 一 退學者ハ年度内ニ退學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ

- 一 退學者中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 本科學年成績ハ年度内ニ於ケル各學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ
- 一 本科學年成績中一人ニシテ二學科以上ニ涉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 前年度卒業者ノ本年度末ノ狀況中二種以上ノ事項ニ涉ル者アルトキハ其ノ重ナルモノニ就キ掲クヘシ
- 一 女子ニ係ル者ハ女ノ字ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一 外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ尙備考ノ欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
- 一 實業專門學校中甲種又ハ乙種程度等ノ實業學校ノ學科ヲ併置シタルモノアルトキハ當該學校ノ様式ニ準シ調製シ實業專門學校表ニ添付スヘシ但シ教員中實業專門學校ノ教科ト甲種又ハ乙種程度等ノ實業學校ノ教科トヲ教授スル者アルトキハ其ノ教授時數ノ多キ方ニ掲クヘシ
- 一 同シキトキハ實業專門學校ノ方ニ掲クヘシ
- 一 本年度收入總額ハ其ノ年度ニ屬スル收入總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一 本年度支出總額ハ其ノ年度ニ屬スル支出總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一 金員ノ計算ハ各項ニ於テ四捨五入シ圓ニ止ムヘシ
- 一 備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

甲號表八 公立私立甲種程度ノ實業學校表

(學校名稱)

學	限年業修		種	別	學	科	學	科	學	科	學	科
	本	專										
第	一	修										
第	二											
年	年	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科

業 卒				者 學 入							者 願 志 學 入					
專 修	別 科	豫 科	本 科	專 科	別 科	豫 科	科			從 前 入 學 者	豫 科 卒 業 者	專 科	別 科	豫 科	本 科	
							計	年 齡								其 他
								平 均	最 少							

徒 生				員 數		級 別																									
專 修	別 科	豫 科	科	計	第 一 學 年	第 二 學 年	第 三 學 年	無 資 格	有 資 格	專 科	別 科	豫 科	科	計	第 三 學 年																

本年度收入總計				前年度卒業業者之末年度狀況								成績				
其他	基本財産ヨリ生スル收入	寄附金	國庫補助料	計	死亡	不詳				官吏等	實業專門學校生徒	學校職員	實業従事者	落第	及第	落第
														及第	落第	

本年度學科						退學者							本學科			
及第	落第	及第	落第	及第	落第	專修科	別科	豫科	本科					平均	最少	最大
									其他	死亡	懲戒	轉學	疾病			

備考	額		計	
	出度	支	時	常
	計	計	計	計

甲號表八樣式說明

- 一本表ハ年度末現在ノ學校ニ就キ各校各別ニ調製スヘシ但シ分校ハ本校ニ準シ別ニ調製スヘシ
- 一本表ハ學科毎ニ區別シテ各其ノ事實ヲ掲クヘシ例ハ農業學校ニシテ山林學科、獸醫學科ノ設ケアルモノハ各其ノ學科ニ就キ掲クルカ如シ
- 一學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
- 一教員ハ年度末ノ現員ヲ掲クヘシ但シ公立學校ニ在リテハ休職者ハ之ヲ計入スヘカラス
- 一教員中學位ヲ有スル者、帝國大學分科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者、文部大臣ノ指定シタル者、文部大臣ノ認可シタル者ハ有資格ノ欄ニ代用トシテ採用シタル者ハ無資格ノ欄ニ掲クヘシ
- 一教員中公立學校教員ニ在リテハ其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼スル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ
- 一教員中課科ノミヲ擔任スル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一教員中一人ニシテ二學科以上ヲ擔任スル者ハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ
- 一生徒中一人ニシテ二學科以上ヲ兼修スル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一入學志願者ハ年度内ニ入學セシムル爲行ヒタル募集ニ應シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一入學志願者中一人ニシテ二學科以上ニ渉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一入學者ハ年度内ニ入學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ第二學年以上ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一入學者中一人ニシテ二學科以上ニ渉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ

- 一入學者年齡ハ入學ヲ許可シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ入學者總員ヲ以テ入學者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ但シ臨時入學ニ係ル者及第二學年以上ニ係ル者ハ計入スヘカラス
- 一卒業業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一卒業業者中一人ニシテ二學科以上ニ渉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一本科卒業業者年齡ハ卒業證書ヲ授與シタル月ニ於ケル年齡ニ依リ何年何月ト記載スヘシ平均年齡ハ卒業業者總員ヲ以テ卒業業者ノ年齡ノ總數ヲ除シタル商ヲ掲クヘシ
- 一退學者ハ年度内ニ退學シタル者ノ數ヲ掲クヘシ
- 一退學者中一人ニシテ二學科以上ニ渉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一本科學年成績ハ年度内ニ於ケル各學年ノ成績ニ就キ掲クヘシ
- 一本科學年成績中一人ニシテ二學科以上ニ渉ル者アルトキハ主タル一方ノ欄ニ掲クヘシ
- 一前年度卒業業者ノ本年度末ノ狀況中二種以上ノ事項ニ渉ル者アルトキハ其ノ重ナルモノニ就キ掲クヘシ
- 一女子ニ係ル者ハ女ノ字ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
- 一外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ尙備考ノ欄ニ於テ表式ノ種別ニ依リ各其ノ國名別人員ヲ掲クヘシ
- 一乙種程度等ノ實業學校ノ學科ヲ併置シタルモノアルトキハ當該學校ノ機式ニ準シ調製シ本表ニ添付スヘシ但シ教員中甲種程度ノ實業學校ノ教科ト乙種程度等ノ實業學校ノ教科トヲ教授スル者アルトキハ其ノ教授時數ノ多キ方ニ掲ケ其ノ時數同シキトキハ甲種程度ノ實業學校ノ方ニ掲クヘシ
- 一選科、研究生又ハ補習生ヲ置クモノハ適宜其ノ欄ヲ設ケテ其ノ事實ヲ記入スヘシ
- 一本年度收入總額ハ其ノ年度ニ屬スル收入總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一本年度支出總額ハ其ノ年度ニ屬スル支出總額ヲ掲クヘシ但シ私立學校ニ係ルモノノミ之ヲ掲クヘシ
- 一金員ノ計算ハ各項ニ於テ四捨五入シ圓ニ止ムヘシ
- 一備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ就キ説明ヲ要スル事項及特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

甲號表九 公立私立乙種程度ノ實業學校表

(學校名稱)

修本	種	別				科	學	科	學	科	學	科
		科	學	科	學							

不 評	甲種程度ノ實業學校生徒	實業從業者	專修科	別科	退學者					卒業者			學者					
					其	死	懲	轉	疾	專修科	別修科	本修科	專修科	別修科	計			
																他	亡	戒

入 本 ノ 教 其 他	者願志學入			徒			生			員教		級學		限年業			
	專修科	別修科	本修科	專修科	別修科	計	第 三 學 年	第 二 學 年	第 一 學 年	無 資 格	有 資 格	專修科	別修科	本修科	專修科	別修科	

